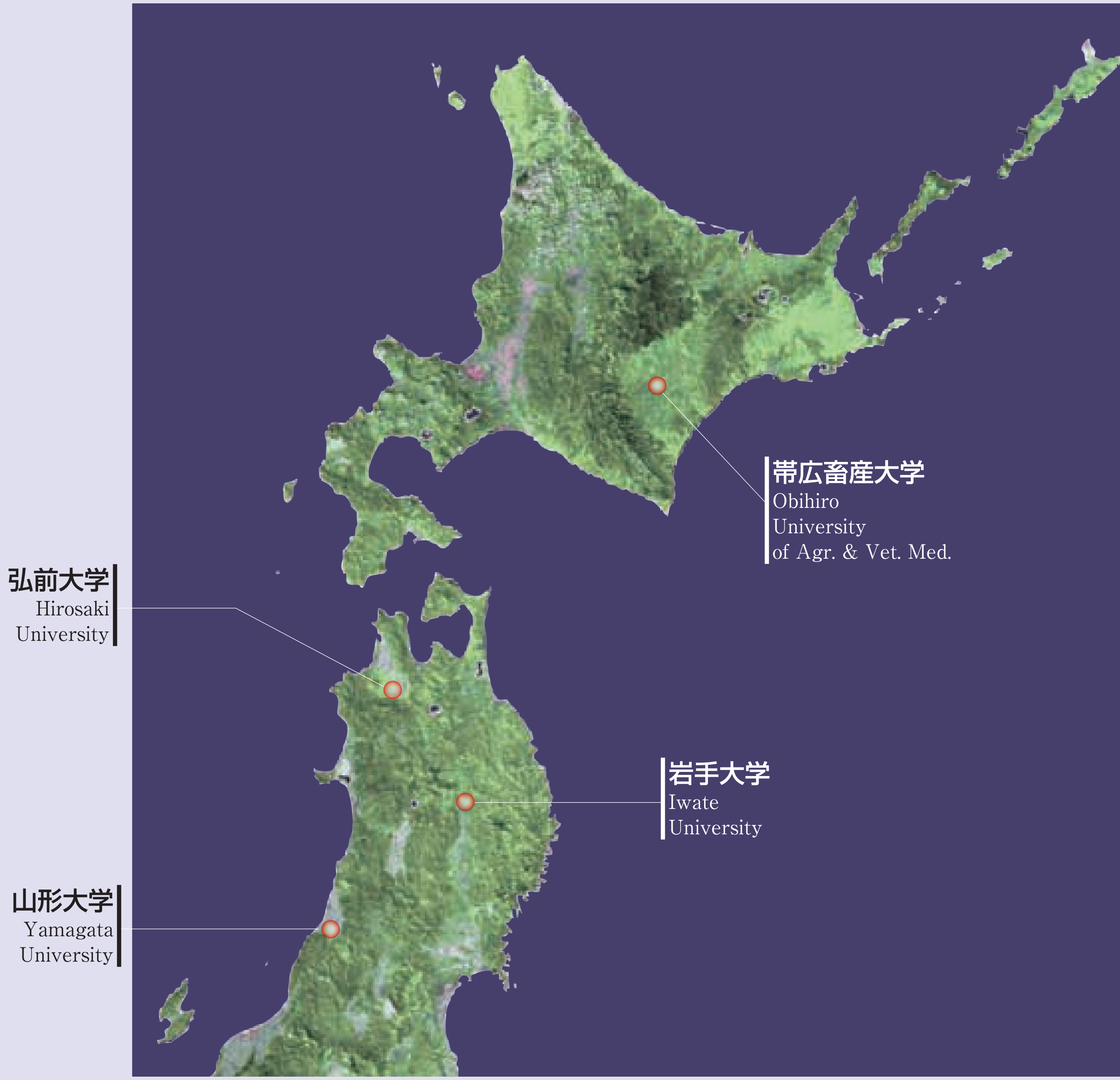
連大年報

No.11 (2008.4～2009.3)



平成22年10月

岩手大学大学院連合農学研究科

目　　　　次

第１部　教　育　活　動

第１章　学生の受け入れ

１　学生の在籍状況

平成20年度

在籍学生数（全体）　　平成20年５月１日現在

区分	専　　攻	連合講座	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	合　計
旧専攻	生物生産科学	植物生産学	2				2
		動物生産学	1			1	2
		森林経済学	1				1
	生物資源科学	生物機能開発学	1	2			3
		ゲノム工学		3		1	4
		生物資源工学		1	1		2
		生物資源化学			1	2	3
	生物環境科学	生産環境学	3		2		5
		地域資源工学	2				2
		環境管理学	1				1
	小　計		11	6	4	4	25
新専攻	生物生産科学	植物生産学	8	1	1		10
		動物生産学	2	1	2	2	7
		生物制御学	5	5	6	3	19
	生物資源科学	生物機能開発学	1	8	1	3	13
		ゲノム工学	7	9	1	3	20
		生物資源利用学	8		5	2	15
	寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	12	3		1	16
	生物環境科学	地域資源経済学	5	4			9
		地域環境工学	3	2		4	9
		地域環境管理学	5		2	3	10
	小　計		56	33	18	21	128
合　計			67	39	22	25	153

在籍学生数（入学年度別）

平成20年５月１日現在

入学年度	専攻	連合講座	学生数	配属大学			
				岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学
平成20年度	生物生産科学	植物生産学	5(1)	4(1)	1		
		動物生産学	2	1		1	
		生物制御学	4(1)		2(1)	2	
		計	11(2)	5(1)	3(1)	3(1)	0(0)
	生物資源科学	生物機能開発学	2		2		
		ゲノム工学	3		3		
		生物資源利用学	4	1		1	2
		計	9(0)	1(0)	5(0)	1(0)	2(0)
	寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	4(2)	2(1)	2(1)		
		計	4(2)	2(1)	2(1)	0(0)	0(0)
	生物環境科学	地域資源経済学	2		2		
		地域環境工学	1	1			
		地域環境管理学	1			1	
		計	4(0)	1(0)	2(0)	1(0)	1(0)
	小計		28(4)	9(2)	12(2)	5(0)	2(0)
平成19年度	生物生産科学	植物生産学	1(1)	1(1)			
		動物生産学	1(1)	1(1)			
		生物制御学	7(2)	3(1)	2	1	1(1)
		計	9(4)	5(3)	2(0)	1(0)	1(1)
	生物資源科学	生物機能開発学	5(1)	1	1		3(1)
		ゲノム工学	10(2)	5(1)	3		2(1)
		生物資源利用学	4(1)	2(1)		2	
		計	19(4)	8(2)	4(0)	2(0)	5(2)
	寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	4	2	1		1
		計	4(0)	2(0)	1(0)	0(0)	1(0)
	生物環境科学	地域資源経済学	3(2)	2(1)	1(1)		
		地域環境工学	3(1)		2(1)		1
		地域環境管理学	6(1)	3		1	2(1)
		計	12(4)	5(1)	3(2)	1(0)	3(1)
	小計		44(12)	20(6)	10(2)	4(0)	10(4)

<table>
<tr><th rowspan="2">入学年度</th><th rowspan="2">専　攻</th><th rowspan="2">連合講座</th><th rowspan="2">学生数</th><th colspan="4">配　属　大　学</th></tr>
<tr><th>岩手大学</th><th>弘前大学</th><th>山形大学</th><th>帯広畜産大学</th></tr>
<tr><td rowspan="15">平成18年度</td><td rowspan="4">生物生産科学</td><td>植物生産学</td><td>4</td><td>3</td><td></td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>動物生産学</td><td>4(1)</td><td></td><td>1</td><td>1(1)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>生物制御学</td><td>8(4)</td><td>2(1)</td><td>1</td><td>3(2)</td><td>2(1)</td></tr>
<tr><td>計</td><td>16(5)</td><td>5(1)</td><td>2(0)</td><td>5(3)</td><td>4(1)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">生物資源科学</td><td>生物機能開発学</td><td>6</td><td></td><td>5</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>ゲノム工学</td><td>7(4)</td><td>2(1)</td><td>3(1)</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td></tr>
<tr><td>生物資源利用学</td><td>7(2)</td><td>5(1)</td><td></td><td>2(1)</td><td></td></tr>
<tr><td>計</td><td>20(6)</td><td>7(2)</td><td>8(1)</td><td>4(2)</td><td>1(1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">寒冷圏生命システム学</td><td>熱・生命システム学</td><td>8(2)</td><td>8(2)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計</td><td>8(2)</td><td>8(2)</td><td>0(0)</td><td>0(0)</td><td>0(0)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">生物環境科学</td><td>地域資源経済学</td><td>4(1)</td><td>3</td><td>1(1)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>地域環境工学</td><td>5(2)</td><td>2(1)</td><td></td><td></td><td>3(1)</td></tr>
<tr><td>地域環境管理学</td><td>3(1)</td><td>2</td><td></td><td></td><td>1(1)</td></tr>
<tr><td>計</td><td>12(4)</td><td>7(1)</td><td>1(1)</td><td>0(0)</td><td>4(2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">小　計</td><td>56(17)</td><td>27(6)</td><td>11(2)</td><td>9(5)</td><td>9(4)</td></tr>
<tr><td rowspan="14">平成17年度</td><td rowspan="4">生物生産科学</td><td>植物生産学</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>動物生産学</td><td>2</td><td>1</td><td></td><td></td><td>1</td></tr>
<tr><td>農林経済学</td><td>1(1)</td><td>1(1)</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計</td><td>4(1)</td><td>3(1)</td><td>0(0)</td><td>0(0)</td><td>1(0)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">生物資源科学</td><td>生物機能開発学</td><td>3</td><td>1</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>ゲノム工学</td><td>3</td><td></td><td>2</td><td></td><td>1</td></tr>
<tr><td>生物資源工学</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>生物資源化学</td><td>3(1)</td><td></td><td></td><td>1</td><td>2(1)</td></tr>
<tr><td>計</td><td>10(1)</td><td>1(0)</td><td>5(0)</td><td>1(0)</td><td>3(1)</td></tr>
<tr><td rowspan="4">生物環境科学</td><td>生物環境学</td><td>3(1)</td><td>2(1)</td><td></td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>地域資源工学</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>環境管理学</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>計</td><td>4(1)</td><td>3(1)</td><td>0(0)</td><td>1(0)</td><td>0(0)</td></tr>
<tr><td colspan="2">小　計</td><td>18(3)</td><td>7(2)</td><td>5(0)</td><td>2(0)</td><td>4(1)</td></tr>
</table>

入学年度	専　攻	連合講座	学生数	配属大学			
				岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学
平成16年度	生物資源科学	生物機能開発学					
		ゲノム工学	1		1		
		生物資源化学	1			1	
		計	2(0)	0(0)	1(0)	1(0)	0(0)
	生物環境科学	生物環境学	2	1		1	
		地域資源工学	1	1			
		環境管理学	1	1			
		計	4(0)	3(0)	0(0)	1(0)	0(0)
	小計		6(0)	3(0)	1(0)	2(0)	0(0)
平成15年度	生物生産科学	植物生産学	1	1			
		計	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	小計		1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
合計			153(36)	67(16)	39(6)	22(5)	25(9)

(　) 内は外国人留学生で内数

2　外国人留学生在籍状況

（旧専攻）

平成20年５月１日現在

専攻	生物生産科学												生物資源科学																生物環境科学												合計				
連合講座	植物生産学				動物生産学				農林経済学				生物機能開発学				ゲノム工学				生産資源工学				生物資源化学				生産環境学				地域資源工学				環境管理学								
配属大学／国籍	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	計
ネパール																																													
バングラデシュ																																													
スリランカ																																													
ミャンマー																																													
タイ																																													
インドネシア																																													
フイリピン																																													
韓国																																													
モンゴル																												1																1	1
中国									1																				1												2				2
カンボディア																																													
エジプト																																													
シエラレオネ																																													
ハイティ																																													
小計									1																																				
計	0				0				1				0				0				0				1				1				0				0				3				
合計	1												1																1																

（新専攻）

専攻	生物生産科学												生物資源科学												寒冷圏生命システム学				生物環境科学												合計				
連合講座	植物生産学				動物生産学				生物制御学				生物機能開発学				ゲノム工学				生物資源利用学				熱・生命システム学				地域資源経済学				地域環境工学				地域環境管理学								
配属大学／国籍	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	計
ネパール																																		1								1			1
バングラデシュ					1				2		2																														3		2		5
スリランカ																1				1																								2	2
ミャンマー																																													
タイ																									1																1				1
インドネシア																							1																				1		1
フイリピン												1																					1								1			1	2
韓国																	1				1																				2				2
モンゴル																																								1				1	1
中国	2						1			1		1						1		1	1				2				1	2						1				1	6	4	1	4	15
カンボディア																																													
エジプト																	1									1															1	1			2
シエラレオネ																			1																								1		1
ハイティ																																													
小計	2				1		1		2	1	2	2				1	2	1	1	2	2		1		3	1			1	2			1	1		1				2	14	6	5	8	33
計	2				2				7				1				6				3				4				3				3				2				33				
合計	11												10												4				8																

3　社会人学生在籍状況

（旧専攻）　　平成20年５月１日現在

構成大学	生物生産科学			生物資源科学				生物環境科学			合計
	植物生産学	動物生産学	農林経済学	生物機能開発学	ゲノム工学	生物資源工学	生物資源化学	生産環境学	地域資源工学	環境管理学	
岩手大学	1								2		3
弘前大学					2						2
山形大学							1	1			2
帯広畜産大学					1		1				2
合計	1				3		2	1	2		9

（新専攻）

構成大学	生物生産科学			生物資源科学			寒冷圏生命システム学	生物環境科学			合計
	植物生産学	動物生産学	生物制御学	生物機能開発学	ゲノム工学	生物資源利用学	熱・生命システム学	地域資源経済学	地域環境工学	地域環境管理学	
岩手大学	6	1	1	1	2	1	5	4	2	1	24
弘前大学	1		1						1		3
山形大学		1	2	1		3				1	8
帯広畜産大学					1		1		3	1	6
合計	7	2	4	2	3	4	6	4	6	3	41

4　新入生の研究テーマと指導教員

平成20年度　　平成20年４月入学

専攻	連合講座	配属大学	氏名	性別	研究題目	主指導教員	第一副指導教員	第二副指導教員	補助教員
生物生産科学	植物生産学	弘前	葛西（カサイ） 智（サトシ）	男	リンゴ‘ふじ’における内部褐変発生機構の解明	荒川　修	宮入　一夫	西澤　隆	
		岩手	久保（クボ） 隆（タカシ）	男	オウトウの新品種育成技術の開発と果実特性評価に関する研究	壽松木　章	小森　貞男	平　智	
		岩手	熊谷（クマガイ） 成子（セイコ）	女	ヒエへのγ線照射による優良変異系統の作出とその品質特性の解明	星野　次汪	佐川　了	阿部　利徳	
		岩手	安田（ヤスダ） 友美（トモミ）	女	大規模飼料用トウモロコシ栽培を想定した不耕起栽培と発酵ＴＭＲ調製に関する研究	佐野　宏明	魚住　順	高橋　敏能	
		岩手	李（リ） 積軍（ジジュン）	男	植物ホルモン生合成酵素遺伝子を導入した形質転換体リンゴ樹の生育特性と植物ホルモン動態の解析	壽松木　章	小森　貞男	伊藤　大雄	渡邉　学
	動物生産学	岩手	齋藤（サイトウ） 文也（フミヤ）	男	鶏におけるastaxanthinの影響	喜多　一美	佐野　宏明	高橋　敏能	
		山形	田川（タガワ） 伸一（シンイチ）	男	リードカナリーグラスサイレージの発酵品質の改善およびＴＭＲサイレージの開発に関する研究	高橋　敏能	堀口　健一	花田　正明	
	生物制御学	弘前	金城（キンジョウ） 輝則（テルノリ）	男	カイコのアラタ体における幼若ホルモン生合成制御の分子生物学的研究	比留間　潔	柏木　明子	鈴木　幸一	

専攻	連合講座	配属大学	氏　名	性別	研　究　題　目	主指導教員	第一副指導教員	第二副指導教員	補助教員
生物生産科学	生物制御学	弘前	カク　エイコウ 赫　英紅	女	リンゴの葉圏微生物群の同定と網羅的診断法に関する研究	佐野　輝男	田中　和明	磯貝　雅道	藤田　隆
		山形	ウエダ　コウジ 上田　紘司	男	混作が土壌微生物を通じ作物の生育と害虫及びその天敵の種間相互作用に及ぼす影響	安田　弘法	佐藤　智	倉持　勝久	
		山形	デグチ　シン 出口　新	男	リビングマルチ栽培における主作物の養分吸収に関する研究	俵谷圭太郎	我妻　忠雄	河合　成直	
生物資源科学	生物機能開発学	弘前	シバタ　タイセイ 柴田　泰成	男	スギヒラタケヘモリシンに関する研究	宮入　一夫	殿内　暁夫	山下　哲郎	
		弘前	タカヤ　サトル 髙谷　了	男	潜水性魚食性鳥類の採餌生態	石田　幸子	佐原　雄二	溝田　智俊	
	ゲノム工学	弘前	エビナ　マサユキ 蝦名　真行	男	TCDDによるCYPIAI発現メカニズムにおけるレスベラトロールの標的因子の探索	菊池　英明	石黒　誠一	山下　哲郎	
		弘前	カサイ　シュウヤ 葛西　秋宅	男	ダイオキシン受容体のリガンド非依存性活性化機構の解明	菊池　英明	牛田　千里	堤　賢一	
		弘前	クラウチ　タスク 倉内　佑	男	黄ダイズの種皮着色抑制に関与する内因性ＲＮＡサイレンシングについての分子遺伝学的研究	千田　峰生	佐野　輝男	加藤　清明	
	生物資源利用学	岩手	ヨシダ　ジュン 吉田　潤	男	Ca2+シグナル伝達に関わる遺伝子変異酵母に作用する物質の分子標的の研究	木村　賢一	伊藤　芳明	村山　哲也	
		山形	クスモト　ノリヒサ 楠本　倫久	男	スギ科樹木の球果に含まれる生物活性成分	高橋　孝悦	芦谷　竜矢	小藤田久義	
		帯広畜産	ムラシゲ　リョウ 村重　諒	男	Trifluoromethanesulfonic acid (TfOH) の特性を利用したFriedel-Crafts反応の検討	小田　有二	得字　圭彦	橋本　勝	
		帯広畜産	ヤスダ　クミ 安田　久美	女	分級馬鈴薯澱粉の理化学的性質に関する研究	弘中　和憲	小疇　浩	夏賀　元康	
寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	弘前	キタムラ　コウジ 北村　浩二	男	水田土壌において嫌気的プロピオン酸酸化に関わる栄養共生細菌とメタン生成古細菌に関する研究	赤田　辰治	殿内　暁夫	上木　勝司	
		弘前	ソリマン SOLIMAN, ワギチ　サベル Wagdi Saber アヘメデ Ahmed	男	Physiological mechanisms of heat stress tolerance in turfgrass	杉山　修一	大河　浩	上村　松生	
		岩手	ナカデ　ケイコ 中出　啓子	女	逆遺伝学的手法（RNAi）によるシイタケの遺伝子発現抑制法の確立	寺内　良平	矢野　明	大町　鉄雄	
		岩手	パルハット イスラハット	男	セイヨウミツバチ下咽頭腺における特異的遺伝子ＨＧＳＰの機能解析	鈴木　幸一	山下　哲郎	比留間　潔	
生物環境科学	地域資源経済学	弘前	オオハシ　オサム 大橋　治	男	地域農業の内発的発展に関する研究	神田　健策	武田　共治	小沢　亙	
		弘前	ナガト　ユウジ 長門　雄治	男	環境思想と環境政策、環境対策との関係性についての研究	神田　健策	武田　共治	比屋根　哲	
	地域環境工学	岩手	ショウジ　サトシ 庄司　諭	男	広葉樹林流域を指標とした緑のダム機能の検証に関する研究	倉島　栄一	三輪　弌	工藤　明	
	地域環境管理学	山形	タカハシ　マサヒコ 髙橋　雅彦	男	庄内海岸クロマツ林における「ショウロ」の発生状況	小野寺弘道	高橋　孝悦	橋本　良二	

専攻	連合講座	配属大学	氏　　名	性別	研　究　題　目	主指導教員	第　一 副指導教員	第　二 副指導教員	補助教員
生物資源科学	生物資源利用学	山形	ゾウ　エンセイ 臧　延青	女	枝豆葉ポリフェノールの高度健康食品素材成分としての機能開発と作用機構解析	五十嵐喜治	佐藤　英世	福島　道広	
寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	岩手	アベ　シンイチ 阿部　伸一	男	カイコ冬中夏草の感染効率化と応用開発に関する研究	鈴木　幸一	小藤田久義	倉持　勝久	
		岩手	ウンダン UNDAN, ジェルウィン Jerwin ラモス Ramos	男	MAPPING AND MAP-BASED CLONING OF RICE DEFENSE RELATED GENES	寺内　良平	上村　松生	石川　隆二	
生物環境科学	地域資源経済学	帯広畜産	ハラハシ HARHASH, マハエル Maha El サイェドアブド Sayed Abd エルハフィゾ El-hafiz	女	Knowledge Level of Farmers Regarding to Animal Health and Its Effect on Performance	仙北谷　康	樋口　昭則	小沢　亙	和田　大輔
	地域環境工学	弘前	パウル PAUL, シャマル Shyamal クマル Kumar	男	Influence of percolation pattern on growth and yeild of Rice plant and uptake of co with models of cd polluted paddy field with soil dressing.	佐々木長市	松山　信彦	安中　武幸	畠山　幸紀
		岩手	タジマ　マサヒロ 田島　正廣	男	ＯＤＡにおける技術移転の視点から見た日本の農民水利組織	三輪　弌	広田　純一	大久保　博	

第２章　学生の研究活動

公表論文等

Ⅰ　旧専攻

１　生物生産科学専攻

⑴　農林経済学連合講座

【岩手大学】

何　暁嵐（HE, Xiaolan）平成17年度４月入学（主指導教員：木村　伸男）

〈論文〉

１）何　暁嵐・木村伸男・木下幸雄：農業法人の財務管理組織と財務管理．農業経営研究　46（2）：46-51（2008）

〈学会口頭発表〉

１）何　暁嵐・木村伸男・木下幸雄：農業法人の経営成長と財務管理に関する一考察―岩手県S農産を事例として―．日本農業経済学会．2008年度日本農業経済学会大会報告要旨：K53（2008）

２　生物資源科学専攻

⑴　生物資源工学連合講座

【弘前大学】

上野　有穂（UENO, Ariho）平成17年度４月入学（主指導教員：張　樹槐）

〈論文〉

１）上野有穂・張樹槐・高橋照夫：リンゴ果実表面の打撲傷の検出分光波長の検討．農業機械学会誌，70(5)：63～68（2008）

〈学会口頭発表〉

１）上野有穂・張樹槐・福地博：ハイパースペクトル画像によるリンゴ果実の打撲傷の検出．第67回農業機械学会年次大会講演要旨：7-8（2008）

２）張樹槐・上野有穂・高橋照夫・福地博：リンゴ果実表面の分光反射計測に基づく打撲傷の検出．平成20年度農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集：20～21（2008）

３）Shuhuai Zhang, Ming Sun, Ariho Ueno, Teruo Takahashi：Research of Detecting of Bruise Defects on Apples Using Hyperspectral Imaging, 2008 International Conference on Informatization, Automation and Electrification in Agriculture：34-39（2008）

⑵　生物資源化学連合講座

【帯広畜産大学】

DORJ，Serjmyadag　平成17年度４月入学（主指導教員：関川　三男）

〈論文〉

１）Serjmyadag Dorj, Kenichiro Shimada, Mitsuo Sekikawa：Effect of Food Additives on Susceptability of Gram Negative Bacteria Derived from Fermented Sausage. Food Science and Technology Research 15（No.2）(2009)（in press）

3　生物環境科学専攻

⑴　生産環境学連合講座

【山形大学】

菅原　敬（SUGAWARA，Kei）平成17年度10月入学（主指導教員：生井　恒雄）

〈論文〉

１）菅原敬・松館綾子・伊藤陽子・生井恒雄：Colletotrichum acutatumによるハグマノキ炭疽病（病原追加）およびストック花枯炭疽病（新称）．日本植物病理学会報,75(2)（2009）(in press)

２）Sugawara K, Matsudate A, Ito Y and Namai T：Anthracnose of Christmas rose caused by Colletotrichum sp. Jornal of General Plant Pathology 75：(2009)（in press）

３）菅原敬・松館綾子・伊藤陽子：Botrytis cinereaによるメランポジウムおよびハグマノキ灰色かび病の発生（新称）北日本病害虫研究会報．59：82−85（2008)．

〈学会口頭発表〉

１）菅原敬・松館綾子・伊藤陽子・生井恒雄：クリスマスローズに発生したべと病および炭疽病（新称)．日本植物病理学会報74：181（講要）(2008)

２）菅原敬・松館綾子・伊藤陽子・生井恒雄：Glomerella cingulataによるトルコギキョウ炭疽病（病原追加）およびColletotrichum acutatumによるストック花枯炭疽病（新称)．日本植物病理学会報75：（講要）(2009)

３）松館綾子・菅原敬・生井恒雄：砂丘畑における土壌還元消毒の花き類土壌病害に対する効果．日植病報75：（講要）(2009)

Ⅱ　新専攻

1　生物生産科学専攻

⑴　動物生産学連合講座

【山形大学】

曹　　陽（CAO，Yang）平成18年度４月入学（主指導教員：高橋　敏能）

〈論文〉

1）曹　陽・堀口健一・高橋敏能：食品残渣と乳酸菌の利用が飼料イネTMRサイレージの発酵品質改善並びにin vitroによる乾物消失率およびメタンと揮発性脂肪酸生成に及ぼす影響．日本草地学会誌（in press）

2）Yang Cao, Toshiyoshi Takahashi, Ken-ich Horiguchi：Effects of addition of food by-products on the fermentation quality of a total mixed ration with whole crop rice and its digestibility, preference, and rumen fermentation in sheep. Animal Feed Science and Technology.（2008）, doi :10.1016/j.anifeedsci.2008.10.010（in press）

【帯広畜産大学】

渡部　浩之（WATANABE，Hiroyuki）平成18年度４月入学（主指導教員：福井　豊）

〈学会口頭発表〉

1）H Watanabe, MMU Bhuiyan, Y Fukui：Effects of sperm pre-treatment on chromosomal integrity following intracytoplasmic sperm injection in mice. 41st Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction. Abstract 130（2008），USA.

2）渡部浩之・鈴木宏志・Bhuiyan MMU・福井豊：マウス顕微授精における精子処理が受精，胚発生および染色体正常性に及ぼす影響．第101回日本繁殖生物学会. Journal of Reproduction and Development, 54（Suppl）. j100（2008）.

3）MMU Bhuiyan, Y Suzuki, H Watanabe, H Hirayama, K Matsuoka, Y Fujise, H Ishikawa, S Ohsumi, Y Fukui：Attempts at production of sei whale（Balaenoptera borealis）cloned embryos by interspecies somatic cell nuclear transfer. 第101回日本繁殖生物学会. Journal of Reproduction and Development, 54（Suppl）. j92（2008）.

⑵　生物制御学連合講座

【岩手大学】

工藤　洋晃（KUDO，Hiroaki）平成19年度４月入学（主指導教員：河合　成直）

〈学会口頭発表〉

1）工藤洋晃・上村松生・河合成直：オオムギ根から単離した細胞膜小胞のCd収着に対する

Mgの影響．日本土壌肥料学会2008年愛知大会，日本土壌肥料学会2008年愛知大会講演要旨集54：74（2008）

【弘前大学】

伊藤　陽子（ITO，Yoko）平成18年度10月入学（主指導教員：佐野　輝男）
〈論文〉
1）Teruo Sano, Sayaka Isono, Keigo Matsuki, Yoko Kawaguchi-Ito, Kazuaki Tanaka, Ken-ichi Kondo, Akira Iijima, Moshe Bar-Joseph：Vegetative propagation and its possible role as a genetic bottleneck in the shaping of the Apple fruit crinkle viroid populations in apple and hop plants. Virus Genes, 37：298-303（2008）

〈学会口頭発表〉
1）伊藤（川口）陽子・佐野輝男：ホップ矮化ウイロイド－ブドウ変異体がホップに持続感染している間に生じる塩基変異プロセスの解析．日本植物病理学会．日本植物病理学会講演要旨集368：119ページ（2008）
2）原田幸雄・伊藤（川口）陽子・忠英一・成田恵美子・杉山悟・庄司俊彦・杉山悟：宿根アスターおよびルリタマアザミの茎腐小粒菌核病の病原としての*Sclerotinia minor*．日本植物病理学会．日本植物病理学会講演要旨集136：48ページ（2008）
3）伊藤（川口）陽子･佐野輝男：ホップ矮化ウイロイド－ブドウ株の*in vitro*転写物がホップに持続感染している間に生じる塩基変異プロセスの解析．日本植物病理学会東北部会．日本植物病理学会東北部会講演要旨集12：4ページ（2008）

赫　英紅（HE，Yinghong）平成20年度４月入学（主指導教員：佐野　輝男）
〈学会口頭発表〉
1）赫英紅・田中和明・伊藤雄大・佐野輝男：リンゴ葉圏微生物相の多様性の解析　日本植物病理学会東北会　日本植物病理学会東北会講演要旨集14（2008）

【山形大学】

出口　新（DEGUCHI，Shin）平成20年度４月入学（主指導教員：俵谷　圭太郎）
〈学会口頭発表〉
1）出口新・魚住順・嶝野英子・俵谷圭太郎：シロクローバによるリビングマルチがトウモロコシのカリウム吸収に及ぼす影響．日本土壌肥料学会（愛知大会）．日本土壌肥料学会講演要旨集54：142（2008）

【帯広畜産大学】

相内　大吾（AIUCHI，Daigo）平成18年度４月入学（主指導教員：小池　正徳）
〈論文〉

1）Shinya R, Watanabe A, Aiuchi D, Tani M, Kuramochi K. Kushida A and Koike M：Potential of Verticillium lecanii（Lecanicillium spp.）hybrid strains as biological control agents for soybean cyst nematode : Is protoplast fusion an effective tool for development of plant-parasitic nematode control agents? Japanese Journal of Nematology. 38(1) : 9-18 (2008).

2）Aiuchi D, Baba Y, Inami K, Shinya R, Tani M and Koike M：Variation in growth at different temperatures and production and size of conidia in hybrid strains of Verticillium lecanii（Lecanicillium spp.）（Duteromycotina : Hyphomycetes). Applied Entomology and Zoology. 43(3) : 427-436. (2008).

3）Goettel M.S, Koike M, Kim J.J, Aiuchi D, Shinya R and Brodeur J：Potential of Lecanicillium spp. for management of insects, nematode and plant diseases. Journal of Invertebrate Pathology. 98(3) : 256-261 (2008).

4）溝田千尋・谷昌幸・李珍香・相内大吾・丹波勝久・小池正徳・倉持勝久：十勝地域の未耕地および農耕地における土壌断面形態と層厚の違い．ペドロジスト. 52(1) : 19-34. (2008).

5）Hirano E, Aiuchi D, Tani M and Koike M：Pre-inoculation of cucumber roots with Verticillium lecanii（Lecanicillium muscarium）induces resistance to podery mildew. Research bulletin of Obihiro University. 29 : 83-95 (2008).

〈学会口頭発表〉

1）相内大吾・堀江早弥佳・山中聡・小池正徳：Trialeurodes　vaporariorumに対するLecanicillium spp.の殺虫および殺卵効果．第８回昆虫病理研究会シンポジウム．講演要旨, p. 33. (2008). 山梨県, 富士吉田.

〈ポスター発表〉

1）Aiuchi D, Horie S and Koike M：Lecanicillium spp.（=Verticillium lecanii）penetrate into Trialeurodes vaporariorum egg. The 41st Annual Meeting of the Society for Invertebrate Pathology. Abstract, p. 66. (2008) Coventry（UK).

2）Koike M, Sugimoto M and Aiuchi D：Reassessment of vegetative compatibility groups（VCGs）in Japanese isolates of Lecanicillium spp.（Verticillium lecanii). The 41st Annual Meeting of the Society for Invertebrate Pathology. Abstract, p. 65. (2008) Coventry（UK).

3）Horie S, Aiuchi D, Watanabe T and Koike M：Preventive application to control cotton aphids and greenhouse whiteflies by Verticillium lecanii（=Lecanicillium spp.). The 41st Annual Meeting of the Society for Invertebrate Pathology. Abstract, p. 66. (2008) Coventry（UK).

4）Watanabe T, Aiuchi D and Koike M：Sporulation of Verticillium lecanii（= Lecanicillium spp.）on cotton aphid cadaver in different humidity conditions. he 41st Annual Meeting of the Society for Invertebrate Pathology. Abstract, p. 66. (2008) Coventry（UK).

5）渡辺敏弘・相内大吾・小池正徳・山中聡：Verticillium lecanii（Lecanicillium spp.）プロトプラスト融合株による，ワタアブラムシ（Aphis gossypii）での感染拡大能力の評価．第８回昆虫病理研究会シンポジウム. 講演要旨, p. 43. (2008). 山梨県, 富士吉田.

6）山田渓花・相内大吾・小池正徳・増田俊雄：昆虫寄生性糸状菌Verticillium lecanii（Leca-

nicillium spp.）を用いたコナガPlutella xylostellaの防除可能性について．第８回昆虫病理研究会シンポジウム．講演要旨，p. 44.（2008）．山梨県，富士吉田．

７）堀江早弥佳・相内大吾・渡辺敏弘・小池正徳：ワタアブラムシとオンシツコナジラミの防除における昆虫寄生性糸状菌Lecanicillium spp.の予防的施用．第８回昆虫病理研究会シンポジウム．講演要旨，p. 45.（2008）．山梨県，富士吉田．

８）刀祢淳也・相内大吾・小池正徳・桃下光敏・山中聡：昆虫寄生性糸状菌Verticillium lecanii（Lecanicillium spp.）がコレマンアブラバチに及ぼす影響．第８回昆虫病理研究会シンポジウム．講演要旨，p. 46.（2008）．山梨県，富士吉田．

NAVARRETE，Ian Auza　平成19年度４月入学（主指導教員：筒木　潔）

〈論文〉

１）I.A. Navarrete, K.Tsutsuki, R.Kondo,V.B.Asio：Genesis of soils across a late Quaternary volcanic landscape in the humid tropical island of Leyte，Philippines. Australian J. Soil Res. 46, 403-414（2008）

２）I.A. Navarrete, K.Tsutsuki：Land-use impact on soil carbon, nitrogen, neutral sugar composition and related chemical properties in a degraded Ultisol in Leyte，Philippines. Soil Sci. & Plant Nutr. 54, 321-331（2008）

３）I.A. Navarrete, V.B.Asio, R.Jahn, K.Tsutsuki：Characteristics and genesis of two strongly weathered soils in Samar，Philippines. Australian J. Soil Res. 45, 153-163（2007）

〈学会口頭発表〉

１）I.A. Navarrete, K. Tsutsuki：Changes in molecular size distribution of soil humic substances as influenced by land use and soil types in Leyte, Philippines. 日本土壌肥料学会，講演要旨集第54集　27（2008）

２）筒木潔・北野睦子・Ian A. Navarrete：北海道の食土に関する予備的研究　日本土壌肥料学会北海道支部　秋季大会講演要旨集B-17 22（2008）

2　生物資源科学専攻

⑴　生物機能開発学連合講座

【岩手大学】

山崎　聡（YAMAZAKI，Satoru）平成19年度４月入学（主指導教員：平　秀晴）

〈学会口頭発表〉

１）山崎聡・蒔苗大治・平秀晴・平野紀夫：神経症状を示したネコの脳脊髄液から分離したネココロナウイルスについて．日本細菌学会　第62回日本細菌学会東北支部総会口演要旨集：29（2008）

〈ポスター発表〉

１）Yamazaki Satoru, and Hirano Norio：Isolation of Feline Infectious Peritonitis Virus from Cerebrospinal fluid of cats with CNS disease. XIth International Nidovirus Symposium ; St.Catherine's College Oxford 22nd-27th June, 2008,Great Britain

【弘前大学】

山本　和範（YAMAMOTO，Kazunori）平成18年度４月入学（主指導教員：橋本　勝）
〈論文〉

１）Yamamoto K, Sato Y, Ishimori A, Miyairi K, Okuno T, Nemoto N, Shimizu H, Kidokoro S, Hashimoto M：Synthesis of D-trigalacturonic acid methylglycoside, Biosci. Biotech. Biochem, 71, 1230-1235（2008）

〈学会口頭発表〉

１）山本和範・城所俊一・奥野智旦・橋本勝：シクロヘキセン構造を有するセルラーゼ遷移状態アナログの合成，日本農芸化学会東北支部第142回大会（仙台）

２）山本和範・石森歩・城所俊一・奥野智旦・橋本勝：シクロヘキセン構造を有するセルラーゼ遷移状態基質アナログの合成研究，日本農芸化学会2008年度大会（名古屋）

佐藤　孝太（SATO，Kota）平成19年度10月入学（主指導教員：石黒　誠一）
〈論文〉

１）Yumiko Yokoi, Mitsuru Nakazawa, Sayuri Mizukoshi, Kota Sato, Tomoaki Usui, Kimio Takeuchi：Crystal deposits on the lens capsules in bietti crystalline corneoretinal dystrophy with a mutation in the CYP4 V2 gene, Acta Ophthalmologica（in press）.

〈学会口頭発表〉

１）佐藤孝太・中澤満・石黒誠一：RPE65ノックアウトマウスにおける錐体細胞オプシンの発現，日本動物学会第79回大会（2008）

【山形大学】

兒玉　裕美子（KODAMA，Yumiko）平成18年度10月入学（主指導教員：上木　勝司）
〈論文〉

１）Yumiko Kodama, and Kazuya Watanabe：An electricity-generating prosthecate bacterium strain Mfc52 isolated from a microbial fuel cell. FEMS Microbiology, 288：55-61（2008）

⑵　ゲノム工学連合講座

【岩手大学】

李　在民（LEE，Jae Min）平成18年度４月入学（主指導教員：高畑　義人）
〈ポスター発表〉

１）Jaemin Lee, Etsuko Sugawara, Shuji Yokoi and Yoshihito Takahata：Genotypic variation of volatile compounds from flower of gentian, Asian Horticulture Congress, AHC2008, 80p, (2008), (Korea)

水谷　征法（MIZUTANI, Masanori）平成18年度４月入学（主指導教員：堤　賢一）

〈学会口頭発表〉

１）水谷征法・堤賢一・斎藤靖史：イネ胚乳の核内倍化時期におけるサイクリンおよびCDKインヒビターの発現部位の解析．日本生化学会東北支部会74回例会・シンポジウム．（盛岡）(2008)

〈ポスター発表〉

１）水谷征法・堤賢一・斎藤靖史：イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現．第226回　日本作物学会講演会　2008.9.24-25　神戸

２）水谷征法・堤賢一・斎藤靖史：イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現解析．日本育種学会第114回講演会　2008.10.11-12　彦根

３）Masanori Mizutani, Ken-ichi Tsutsumi and Yasushi Saitoh：Expression of a novel cyclin-dpendent kinase inhibitor during early stages of endosperm deelopment in rice, 2008 IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium 2008 Morioka（2008）

４）水谷征法・堤 賢一・斎藤靖史：イネ種子における新規CDK阻害因子の発現解析，第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会　合同大会（BMB2008）（神戸）(2008)

〈学会賞〉

１）第226回（平成20年度）日本作物学会講演会「最優秀ポスター賞」受賞対象課題　イネ胚乳形成初期における新規サイクリン依存性キナーゼ阻害因子の発現

久米　浩平（KUME, Kohei）平成19年度４月入学（主指導教員：堤　賢一）

〈学会口頭発表〉

１）久米浩平・小松晃・若狭暁・堤賢一・斉藤靖史：低温条件下におけるRNAiノックダウン効果の検証，日本生化学会東北支部会74回例会・シンポジウム．(2008)

〈ポスター発表〉

１）Kume K, Seki N, Tsutsumi K and Saitoh, Y：Low temperature inducend gene expression mediated by non-coding RNA, IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Simposium. (2008)

２）久米浩平・関菜月・堤賢一・斉藤靖史：trans-acting siRNA によるノックダウン効果の低温感受性．第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会．第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会講演要旨集 :237. (2008)

【弘前大学】

栗田　大輔（KURITA, Daisuke）平成18年度４月入学（主指導教員：姫野　俵太）

〈論文〉

１）Himeno H, Kurita D, Muto A：Trans-translation. Protein Biosynthesis :New Research. Nova Science Publishers, Inc. New York, USA. 2008 (in press)

〈総説〉

1）栗田大輔・武藤あきら・姫野俵太：mRNAを擬態するタンパク質．化学と生物，日本農芸化学会，46, 465-71, 2008

〈ポスター発表〉

1）栗田大輔・今野貴之・武藤あきら・姫野俵太：tRNA+mRNAを分子擬態するタンパク質 第10回RNAミーティング，札幌，2008年７月

2）Kurita D, Konno T, Takada K, Muto A, Himeno H：Molecular mimicry of tRNA+mRNA during trans-translation. 30th annual meeting of the RNA society, Germany, 2008, Jul-Aug.

葛西　秋宅（KASAI，Shuya）平成20年度４月入学（主指導教員：菊池　英明）

〈ポスター発表〉

1）Shuya Kasai and Hideaki Kikuch：Tyrosine kinase activity-dependent nuclear translocation of aryl hydrocarbon receptor. IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium. October 27-29 : 63（2008）

2）葛西秋宅・菊池英明：Inhibitory effects of tyrosine kinase inhibitors on aryl hydrocarbon receptor activation in Caco-2 cells1. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会．講演要旨集2008年12月．209（2008）

倉内　佑（KURAUCHI，Tasuku）平成20年度４月入学（主指導教員：千田　峰生）

〈学会口頭発表〉

1）葛西厚史・大西志全・山崎敬之・船附秀行・倉内佑・松本拓郎・湯本節三・白井滋久・三好智明・千田峰生：ダイズにおける低温着色粒発生の分子メカニズムの解明．日本育種学会．日本育種学会第114回講演会要旨集50（別2）：195（2008）

【山形大学】

KAMARA，Joseph Sherman　平成18年度10月入学（主指導教員：阿部　利徳）

〈学会口頭発表〉

1）J.S.Kamara：Identification of Specific Proteins in Sake-Brewing and Floury cultivars In Rice（*Oryza sativa L*），114th Breeding Meeting of the Japanese Society Breeding Held at Shiga Prefectural University，October11-12 2008，Publication Breeding Research, 10（E2）:P123，2008

【帯広畜産大学】

佐藤　三佳子（SATO，Mikako）平成19年度10月入学（主指導教員：三浦　秀穂）

〈学会口頭発表〉

1）佐藤三佳子：春まきコムギの初冬まきおよび春まき栽培における収量構成要素の比較．日本育種学会・日本作物学会北海道談話会．日本育種学会・日本作物学会北海道談話会会報（in press）

2）澤田拓也・佐藤三佳子・田引正・西尾善太・伊藤美環子・三浦秀穂：強種子休眠性白粒コムギ系統の地域適応性と発芽温度に対する反応．日本育種学会･日本作物学会北海道談話会．日本育種学会・日本作物学会北海道談話会会報（in press）

3）藤井雅之・佐藤三佳子・三浦秀穂：白粒コムギ分離集団における種子休眠性の変異と関与するQTL．日本育種学会・日本作物学会北海道談話会．日本育種学会・日本作物学会北海道談話会会報（in press）

⑶　生物資源利用学連合講座

【岩手大学】

菅原　貴征（SUGAWARA，Takayuki）平成18年度４月入学（主指導教員：長澤　孝志）

〈論文〉

1）Sugawara T, Ito Y, Nishizawa N and Nagasawa T：Regulation of muscle protein degradation, not synthesis, by dietary leucine in rats fed a protein-deficient diet. Amino Acids（in press）

〈学会口頭発表〉

1）菅原貴征・伊藤芳明・西澤直行・小林久峰・鈴木裕美・長澤孝志：ロイシンの摂食は低栄養時における筋萎縮を主に分解を制御することで抑制できる．第62回日本栄養・食糧学会大会（2008）

田山　一平（TAYAMA，Ippei）平成18年度４月入学（主指導教員：塚本　知玄）

〈学会口頭発表〉

1）島田和子・竹内ゆりえ・松井健二・羽鹿牧太・田山一平・塚本知玄・喜多村啓介：豆腐製造工程におけるマルトールの生成に関する検討．日本食品科学工学会．第55回大会講演集：79（2008）

2）龍崎菜々・田山一平・高田吉丈・石本政男・喜多村啓介・塚本知玄：大豆サポニン糖鎖配列制御遺伝子の発現と種子胚軸サポニン合成量の関係．種子生理生化学研究会．第29回講演要旨集：12-13（2008）．

〈ポスター発表〉

1）Nana Tatsuzaki, Ippei Tayama, Yoshitake Takada, Gyuhwa Chung, Keisuke Kitamura and Chigen Tsukamoto：Development of a saponin rich soybean :Changes of seed saponin contents in introducing the genes controlling the saponin composition polymorphism. Abstracts of 5th International Crop Science Congress 2008（ICSC2008）: 215（2008），(South Korea）

2）Chigen Tsukamoto, Ryoko Saito, Ippei Tayama, Hiroko Sasama, Yoshitake Takada, Masao Ishimoto, Gyuhwa Chung and Keisuke Kitamura：Study of the chemical structure of new saponins found in wild soybeans [Glycine soja（Sieb. & Zucc.)] by the combination of genetical, chemical, and LC-MS/MS profile analyses. Abstracts of 5th International Crop Science Congress 2008 (ICSC2008) : 215-216 (2008), (South Korea)

朴　京玉（PARK, Kyung Ok）平成18年度４月入学（主指導教員：長澤　孝志）

〈論文〉

1）Kyung-Ok PARK, Yoshiaki ITO, Takashi NAGASAWA, Myeong-Rak CHOI and Naoyuki NISHIZAWA：Effects of dietary Korean proso-millet protein on plasma adiponectin, HDL cholesterol, insulin levels, and gene expression in obese type 2 diabeticmice, Biosci. Biotechnol, Biochem., 72(11), 2918-2925 (2008)

油井　信弘（ABURAI, Nobuhiro）平成19年度４月入学（主指導教員：木村　賢一）

〈論文〉

1）Koji Nishikawa, Nobuhiro Aburai, Kyohei Yamada, Hiroyuki Koshino, Eiko Tsuchiya, Ken-ichi Kimura：The bisabolane sesquiterpenoid endoperoxide, 3,6-epidioxy-1, 10-bisaboladiene, isolated from Cacalia delphiniifolia inhibits the growth of human cancer cells and induces apoptosis. Bioscience Biotechnology and Biochemistry (有), 72 (9) : 2463-2466 (2008)

〈学会口頭発表〉

1）吉田真実・油井信弘・木村賢一・池原強・禹済泰・大西素子：プロテインホスファターゼ2C活性化化合物による破骨細胞分化の抑制．第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会．PROGRAM ABSTRACT：3T14-7 (2008)

〈ポスター発表〉

1）Nobuhiro Aburai, Mami Yoshida, Motoko Ohnishi, Ken-ichi Kimura：Pisiferdiol and pisiferic acid isolated from Chamaecyparis pisifera are activators of protein phosphatase 2C. 2008 IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium. 55 (2008)

2）Ken-ichi Kimura, Nozomi Fujisawa, Kyohei Yamada, Koji Nishikawa, Nobuhiro Aburai, Takao Yamori, Hiroyuki Koshino, Eiko Tsuchiya：Anri-tumor mechanism of 3,6-epidioxy-1,10-bisaboladiene isolated from an edible plant using the phenotypic screening of Saccharomyces cerevisiae. The 22nd NAITO CONFERENCE on Chemical Biology [1]. 103 (2008)

3）Mami Yoshida, Nobuhiro Aburai, Ken-ichi Kimura, Shin-ichi Hasegawa, Tsuyoshi Ikehara, Je-Tae Woo, Kazuo Nagai, Motoko Ohnishi：Suppression of osteoclast differentiation by activators of protein phosphatase 2C. 8th International Conference on Protein Phosphatases. (2008)

4）油井信弘・斉藤圭一・吉田真実・宮川都吉・大西素子・木村賢一：PP2C活性化作用を有する化合物の構造と機能性．日本ケミカルバイオロジー研究会．第３回年回抄録集：138 (2008)

5）吉田真実・油井信弘・木村賢一・池原　強・禹　済泰・大西素子：プロテインホスファターゼ2C活性化化合物による破骨細胞分化の抑制．第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会．PROGRAM ABSTRACT：3P-0328 (2008)

吉田　潤（YOSHIDA，Jun）平成20年度４月入学（主指導教員：木村　賢一）

〈論文〉

1）Yukiko Ogasawara, Jun Yoshida, Yoshihito Shiono, Tokichi Miyakawa, Ken-ichi Kimura：New eremophilane sesquiterpenoid compounds, eremoxylarins A and B directly inhibit calcineurin in a manner independent of immunophilin. The Journal of Antibiotics，61(8)：496-502（2008）

〈学会口頭発表〉

1）藤澤望美・吉田潤・渡辺満・塩野義人・木村賢一：抗癌物質 pyrrocidine A の作用メカニズムの解析．日本農芸化学会東北支部．大会講演要旨集，34（2008）

〈ポスター発表〉

1）Jun Yoshida, Yoshiko Ogane, Satomi Nomura, Hiroko Seino, Yoshiaki Ito, Tokichi Miyakawa and Ken-ichi Kimura：Biological Activity of GSK-3b Inhibitors Isolated from Wild Edible Plant Using the Ca2+-Sensitive Mutant Yeast. IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium. The Effect of Climate Change on Biological Systems in Cold Regions, 79(2008)

【山形大学】

菅原　哲也（SUGAWARA，Tetuya）平成19年度10月入学（主指導教員：五十嵐　喜治）

〈論文〉

1）菅原哲也・五十嵐喜治：オウトウアントシアニンおよびルチン含有量と品種間差異．日本食品科学工学会誌，55(5):239-244（2008）

〈学会口頭発表〉

1）菅原哲也・五十嵐喜治：酸果オウトウ（Prunus Cerasus.L）のポリフェノールと糖尿病性酸化ストレス抑制効果．日本食品科学工学会，日本食品科学工学会大会講演集，55:p.155 (2008)

2）菅原哲也・五十嵐喜治：‘紅さやか’（甘果オウトウ）ポリフェノールの構造とその生理機能．日本食品科学工学会東北支部大会，日本食品科学工学会東北支部大会講演要旨集，p.9（2008）

【帯広畜産大学】

村重　諒（MURASHIGE，Ryo）平成20年度４月入学（主指導教員：橋本　誠）

〈論文〉

1）Ryo Murashige, Yuka Hayashi, Makoto Hashimoto：Asymmetric and efficient synthesis of homophenylalanine derivatives via Friedel-Crafts reaction with trifluoromethanesulfonic acid. Tetrahedron Letters , 49 ：6566-6568（2008）

〈学会口頭発表〉

1）村重諒・橋本誠：アミノ酸骨格を利用した効率的Friedel-Crafts反応によるホモフェニルアラニン類の合成．日本化学会北海道支部夏季研究発表会．日本化学会北海道支部夏季研究発表会講演要旨集 ：24,（2008）

２）村重諒・橋本誠：Triflic acidを用いたフェノールのアシル化，Friedel-Crafts反応の制御，フェニルエステルのFries転位．日本農芸化学会北海道支部会．平成20年度第一回合同学術講演会講演要旨集：17,（2008）
３）村重諒・橋本誠：Triflic acid（TfOH）を用いたカルボン酸誘導体のFriedel-Crafts反応の検討．日本農芸化学会北海道支部会．平成20年度第二回合同学術講演会講演要旨集：27,（2008）

安田　久美（YASUDA，Kumi）平成20年度４月入学（主指導教員：弘中　和憲）
〈学会口頭発表〉
１）安田久美：リン酸架橋分級馬鈴薯澱粉の物理化学特性．日本応用糖質科学会．日本応用糖質科学会講演要旨集55：30（2008）

3　寒冷圏生命システム学専攻

⑴　熱・生命システム学連合講座

【岩手大学】

宇壽山　衛（USUYAMA，Mamoru）平成18年度４月入学（主指導教員：新貝　鉚蔵）
〈ポスター発表〉
１）宇壽山衛・若林篤光・佐々木和彦・新貝鉚蔵：匂い刺激に対する線虫AWCニューロン内カルシウムイオン濃度変動モデル．第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会（BMB2008）．BMB2008講演要旨集：378（2008）

高田　直樹（TAKATA，Naoki）平成18年度４月入学（主指導教員：上村　松生）
〈論文〉
１）Takata N, Saito S, Saito C T, Nanjo T, Shinohara K. and Uemura M：Molecular phylogeny and expression of poplar circadian clock genes, LHY1 and LHY2. New Phytologist（in press）
〈ポスター発表〉
１）Takata N and Uemura M：Molecular Phylogeny of Circadian Clock Genes（LHY/CCA1s and PRRs）in Populus, Arabidopsis and Oryza. 16th Federation of European Societies of Plant Biology, Tampere, Finland.（2008）
２）Takata N and Uemura M：Evolutionary footprint of plant clock system in angiosperms. 2008 IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium -The Effect of Climate Change on Biological Systems in Cold Regions-, Morioka, Japan.（2008）

松川　和重（MATSUKAWA，Kazushige）平成18年度4月入学（主指導教員：伊藤　菊一）
〈論文〉

1）Kazushige Matsukawa, Takashi Kamata, and Kikukatsu Ito：Functional expression of plant alternative oxidase decreases antimycin A-induced reactive oxygen species production in human cells. FEBS Letters, 583(1) :148-152 (2009)

〈学会口頭発表〉

1）Kazushige Matsukawa, Takashi Kamata and Kikukatsu Ito：Mitochondrial cyanide-resistant respiratory pathway alleviates generation of reactive oxygen species by complex III inhibitor, antimycin A, in human cells. First International AOX symposium 2008. Abstract book, 51-52 (2008), (Portugal, Evora)

〈ポスター発表〉

1）Kazushige Matsukawa, Takashi Kamata and Kikukatsu Ito：Mitochondrial cyanide-resistant respiratory pathway alleviates generation of reactive oxygen species by complex III inhibitor, antimycin A, in human cells. First International AOX symposium 2008. Abstract book, 51-52 (2008), (Portugal, Evora)

2）松川和重・伊藤菊一：ガラクトース培地で培養した哺乳動物細胞におけるアンチマイシンＡによって生じる活性酸素は，シアン耐性呼吸酵素の機能的発現によって軽減できる．第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学学会大会合同大会．講演要旨集：p545 (3P-0212)

柴崎　杏平（SHIBASAKI, Kyohei）平成19年度４月入学（主指導教員：上村　松生）

〈論文〉

1）Takashi Okamoto, Seiji Tsurumi, Kyohei Shibasaki, Yoshimi Obana, Hironori Takaji, Yutaka Oono and Abidur Rahman：Genetic dissection of hormonal responses in the roots of Arabidopsis thaliana grown under continuous mechanical impedance. Plant Physiology 146 :1651-1662 (2008)

〈学会口頭発表〉

1）Kyohei Shibasaki, Matsuo Uemura, Seiji Tsurumi and Abidur Rahman：Auxin response under cold stress and underlying molecular mechanism 2008 IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium 2008. (2008) Iwate

〈ポスター発表〉

1）Kyohei Shibasaki, Matsuo Uemura, Seiji Tsurumi and Abidur Rahman：Effect of cold temperature stress on auxin response and the growth of Arabidopsis thaliana root. 2008 IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium 2008. (2008) Iwate

2）Kyohei Shibasaki, Matsuo Uemura, Seiji Tsurumi and Abidur Rahman：Effect of cold temperature stress on auxin response and the growth of Arabidopsis thaliana root. The 19th International Conference of Arabidopsis Research. Montreal, (2008) Canada

3）Takashi Okamoto, Seiji Tsurumi, Kyohei Shibasaki, Yoshimi Obana, Hironori Takaji, Yutaka Oono and Abidur Rahman：Genetic dissection of hormonal responses in the roots of Arabidopsis grown under continuous mechanical impedance. The 19th International Conference of Arabidopsis Research. Montreal, (2008) Canada

中出　啓子（NAKADE, Keiko）平成20年度４月入学（主指導教員：寺内　良平）

〈学会口頭発表〉

１）Keiko Nakade, Yuichi Sakamoto and Toshitsugu Sato：Purification and characterization of Laccase from Polyporellus brumalis. The 5th Meeting of East Asia for Collaboration on Edible Fungi. Fukuoka, Japan p45（2008）

〈ポスター発表〉

１）Keiko Nakade, Yuichi Sakamoto, Yuko Nakagawa, Akira Yano and Toshitsugu Sato：Purification and characterization of Polyporellus brumalis laccase（PbLac1）2008 IU-UGAS/IU-GSA/IU-COE Joint Symposium. Iwate, Japan（2008）

【弘前大学】

大久保　敦史（OKUBO, Atsushi）平成19年度４月入学（主指導教員：杉山　修一）

〈論文〉

１）M Hasinur Rahman, A. Okubo, S. Sugiyama and H.F：Mayland. Physical, chemical, hydrological and microbiological properties of an Andisol as related to land use and tillage practice. Soil & Tillage Research, 101 : 10-19（2008）

２）Sugiyama S. Hossain M.Z. and Okubo A：Relationships between soil microbial diversity and plantcommunity structure in seminatural grasslands. Grassland Science, 54：117-124（2008）

〈ポスター発表〉

１）Atsushi Okubo, Masumi Okada, Shu-ichi Sugiyama：Effects of rising temperature and elevated CO2 on rhizosphere microbial community structuer in three crop species. 2008 Joint Annual Meeting. 2008 Joing Meeting Program : P.326 ; 683-2（2008），（アメリカ）

４　生物環境科学専攻

⑴　地域資源経済学連合講座

【岩手大学】

佐々木　一也（SASAKI, Kazuya）平成18年度10月入学（主指導教員：岡田　秀二）

〈学会口頭発表〉

１）平林慧遠・麻生臣太郎・高橋健保・澤口勇雄・立川史郎・佐々木一也・菊地智久：低コスト作業路作設コストに影響する要因分析．東北森林科学会．第13回大会講演要旨集, 39(2008)

２）平林慧遠・高橋健保・麻生臣太郎・澤口勇雄・立川史郎・佐々木一也・菊地智久：作業路作設機種が作設時間に与える要因．森林利用学会．第15回学術研究発表会講演要旨集，36（2008）

茅根　敦夫（CHINONE, Atuo）平成19年度10月入学（主指導教員：木村　伸男）

〈論文〉

1）茅根敦夫:移植水稲作における生産性向上のメカニズム. 農業経営研究, 46(2):17-22(2008)

〈学会口頭発表〉

1）茅根敦夫・木村伸男：成長経営における移植水稲作の経済性と作業構造に及ぼす影響. 日本農業経営学会, 平成20年度日本農業経営学会研究大会報告要旨, 118-119（2008）

【弘前大学】

権　慶梅（QUAN, Qingmei）平成19年度４月入学（主指導教員：神田　健策）

〈学会口頭発表〉

1）権慶梅：総合農協と農協合併問題―小規模未合併N農協の事例―. 東北農業経済学会. 東北農業経済学会報告要旨集44：P43（2008）

⑵　地域環境工学連合講座

【岩手大学】

高井　和彦（TAKAI, Kazuhiko）平成18年度４月入学（主指導教員：三輪　弌）

〈論文〉

1）高井和彦・三輪弌：堰下流護床工の災害防止効果に関する実験的検討. 平成20年度応用水理研究部会講演集 5-12（2008）

〈ポスター発表〉

1）三輪弌・桜庭主盛・高井和彦:取水堰上堆砂によるゲート閉鎖障害. 農業農村工学会（2008）

【弘前大学】

MAHARJAN, Gauri　平成19年度４月入学（主指導教員：高橋　照夫）

〈論文〉

1）MAHARJAN Gauri・高橋照夫・張樹槐：ハイパースペクトルイメージングによるイネ病状特徴の基礎的分析. 農業機械学会東北支部報, 55：6（2008）

〈学会口頭発表〉

1）MAHARJAN Gauri・高橋照夫・張樹槐：ハイパースペクトル分光計測に基づくイネ病状特徴の基礎的分析. 農業機械学会東北支部. 農業機械学会東北支部大会平成20年度研究発表会要旨集：////2（2008）

【帯広畜産大学】

梅澤　弘一（UMEZAWA, Koichi）平成18年度４月入学（主指導教員：辻　　修）

〈学会口頭発表〉

1）梅澤弘一：耕地防風林における減風効果領域の経年推計．日本砂丘学会．第55回全国大会講演要旨集：1-2（2008）

申　宝明（SHEN，Bao Ming）平成18年度４月入学（主指導教員：佐藤　禎稔）

〈論文〉

1）Baoming Shen, Tadatoshi. SATOW, Kazunori HIRONAKA, Shu-Huai ZHANG： Development of laser crop row sensor for automatic guidance system of tractor-mounted implements. Journal of the Japanese Society of Agricultural Machinery, 70(6) :90-96 (2008)

〈学会口頭発表〉

1）申宝明・佐藤禎稔・小椋聡・弘中和憲：トラクタ用作業機のうね自動追従システムの開発―油圧制御機構の概要とその基本制御特性―．農業機械学会．第67回農業機械学会年次大会講演要旨：95-96（2008）

2）申宝明・佐藤禎稔・小椋聡・片岡章：トラクタ用作業機のうね自動追従システムの開発―システムの概要と圃場での制御精度―．農業機械学会北海道支部．農業機械学会北海道支部第59回年次大会・シンポジウム講演要旨：40-41（2008）

⑶　地域環境管理学連合講座

【山形大学】

佐藤　亜貴夫（SATO，Akio）平成19年度４月入学（主指導教員：中島　勇喜）

〈学会口頭発表〉

1）佐藤亜貴夫：ヤナギの流枝による分布拡大について．日本雨水資源化システム学会．第16回研究発表会講演要旨集75-79

2）佐藤亜貴夫：海岸クロマツ林生育不良地における原因解明と対策．日本海岸林学会．平成20年度日本海岸林学会岩手大会講演集9-10

【帯広畜産大学】

伊東　捷夫（ITOH，Katsuo）平成19年度４月入学（主指導教員：本江　昭夫）

〈論文〉

1）伊東捷夫・藤倉雄司・本江昭夫：北海道十勝地方における帰化植物の種数の増加とその生活型組成雑草研究，Vol.53(2)：69～76（2008）

第３章　学位授与者と修了後の進路

平成20年度

【課程博士】　　　　　　　　　　　　　　　　平成20年３月31日

学位記番号	専攻	連合講座	授与者（配属大学）	主指導教員（所属大学）	博士学位論文名	修了後の進路（現職）等
連研 429	生物資源科学	生物機能開発学	サワダ　ヨシアキ 澤田　義昭 （山形大学）	三橋　渉 （山形大学）	光発芽種子におけるアブシジン酸の機能に関する研究 （Studies on function of abscisic acid in photoblastic seed）	株式会社　エーザイ

【課程博士】　　　　　　　　　　　　　　　　平成20年９月30日

学位記番号	専攻	連合講座	授与者（配属大学）	主指導教員（所属大学）	博士学位論文名	修了後の進路（現職）等
連研 430	生物生産科学	農林経済学	ヘ　ショラン 何　暁嵐 （岩手大学）	木村　伸男 （岩手大学）	現代農業法人の財務管理に関する研究 （A study on financial management in agricultural corporation）	未定
連研 431	生物資源科学	生物機能開発学	サ　サ　キ　ヤスタカ 佐々木康孝 （岩手大学）	磯部　公安 （岩手大学）	微生物由来のグリコール系糖類酸化酵素に関する研究 （Studies on microbial oxidases for ethylene glycol and its related compounds）	岩手大学連合農学研究科研究員
連研 432			ナガヤマ　コウ　キ 長山　耕己 （弘前大学）	大町　鉄雄 （弘前大学）	細胞性粘菌（*Dictyostelium discoideum*）における発生分化とミトコンドリアプロセシングペプチダーゼに関する研究 （The role of mitochondrial processing peptidase during development in Dictyostelium discoideum）	岩手大学連合農学研究科研究員
連研 433			フクシマ　マコト 福島　誠 （弘前大学）	石田　幸子 （弘前大学）	プラナリアの雄性ホルモンに関する研究 （Studies on the androgen in the freshwater planarian *Bdellocephala brunnea*）	岩手大学連合農学研究科研究員
連研 434		ゲノム工学	ツ　ゲ　ジュンイチ 柘植　純一 （帯広畜産大学）	櫛　泰典 （帯広畜産大学）	活性汚泥による水浄化能力の応用に関する研究 （Application of wastewater treatment ability by activated sludge）	札幌大谷大学短期大学部准教授
連研 435		生物資源工学	ウエ　ノ　アリ　ホ 上野　有穂 （弘前大学）	張　樹槐 （弘前大学）	分光反射特性を利用したリンゴ果実表面の打撲傷の検出に関する研究 （Detection of bruise defects on apple fruits using spectral reflectance）	岡本硝子株式会社
連研 436		生物資源化学	サ　トウ　マ　ユ　ミ 佐藤真由美 （帯広畜産大学）	大西　正男 （帯広畜産大学）	北海道産針葉樹の脂質成分と樹種特性との関連性に関する化学的研究 （Chemical studies on lipid components of conifer in relation to its characteristics in Hokkaido）	北海道立林産試験場研究職員
連研 437		ゲノム工学	キ　ムラ　タカツグ 木村　天胤 （弘前大学）	姫野　俵太 （弘前大学）	リボソーム小サブユニットで活性化される新規GTPaseの研究 （Studies of the novel GTPase activated by the small subunit of ribosome）	北海道警察本部科学捜査研究所法医科研究助手
連研 438		地域資源工学	サ　トウ　ケン　ジ 佐藤　健司 （岩手大学）	三輪　弌 （岩手大学）	ポーラスコンクリートの製造方法および生物生息の特性 （Method of porous concrete and property of habitat）	㈱城南進学研究社

【課程博士】　　平成21年３月23日

学位記番号	専攻	連合講座	授与者（配属大学）	主指導教員（所属大学）	博士学位論文名	修了後の進路（現職）等
連研 439	生物生産科学	植物生産学	スドウ　モリオ 須藤　守夫 （岩手大学）	雑賀　　優 （岩手大学）	盛岡市におけるスギ・ヒノキ花粉の飛散量予測に関する研究 （Estimation of pollen dispersion of *Cryptmeria japonica* and *Cupressaceae* at central part of Morioka city）	須藤内科クリニック院長
連研 440			スドウ　レイコ 須藤　礼子 （岩手大学）	雑賀　　優 （岩手大学）	盛岡市で春に飛散するイネ科花粉の草種同定に関する研究 （Identification of grass species for air-born pollen dispersing at central part of Morioka city during spring season）	須藤内科クリニック
連研 441			マカベ　シュウヘイ 真壁　周平 （山形大学）	安藤　　豊 （山形大学）	沖積水田土壌のケイ酸供給力と施用ケイ酸の水稲による吸収 （Silica supplying capacity of alluvial paddy soils and applied silica absorption by rice plant）	岩手大学大学院連合農学研究科研究員
連研 442		動物生産学	ソウ　ヨウ 曹　　陽 （山形大学）	高橋　敏能 （山形大学）	Studies on whole crop rice total mixed ration silage preparation with food by-products and its feed characteristics （食品残渣を利用した飼料イネ発酵TMRの調製と飼料特性に関する研究）	未定
連研 443		生物制御学	アイウチ　ダイゴ 相内　大吾 （帯広畜産大学）	小池　正徳 （帯広畜産大学）	Breeding of entomopathogenic fungus *Lecanicillium* spp.by protoplast fusion and potentials of hybrid strains as biological control agents （プロトプラスト融合による昆虫寄生性 *Lecanicillium* 属菌類の育種と生物防除資材としての融合株の可能性）	未定
連研 444			アフリン AFRIN アクタール AKHTER （山形大学）	我妻　忠雄 （山形大学）	Characterization of the primary strategy for better production of sorghum and maize under high-aluminum and low-nutrient stresses simulating the nutrient status of tropical acid soils （熱帯酸性土壌の養分状態を模した高アルミニウム・低養分ストレス条件でのソルゴーとトウモロコシの生育戦略の特性解析）	HMD Science and Technology University 研究員
連研 445			オオバ　アツシ 大場　淳司 （山形大学）	生井　恒雄 （山形大学）	宮城県におけるムギ類赤かび病の発生生態とマイコトキシンの低減技術に関する研究 （Studies on ecology and the fate of mycotoxin produced by *Fusarium* head blight pathogen in wheat plants and its control in Miyagi prefecture）	宮城県古川農業試験場研究員
連研 446			モハマドシャハダット Md.Shahadat ホサイン　カーン Hossain Khan （山形大学）	我妻　忠雄 （山形大学）	Clarification of aluminum tolerance mechanisms with special interest in the plasma membrane lipid layer of root-tip portion mainly of rice （主にイネの根端細胞膜脂質層に注目したアルミニウム耐性機構の解明）	HMD science and technology University 准教授
連研 447			シャイブル　ラハマン SHAIBUR RAHMAN モラ MOLLA （岩手大学）	河合　成直 （岩手大学）	Physiology of iron in rice and barley grown under arsenic toxic condition （ヒ素過剰条件で生育するイネとオオムギの鉄生理）	未定
連研 448	生物資源科学	生物機能開発学	アサイ　ノブハル 浅井　信晴 （弘前大学）	石黒　誠一 （弘前大学）	脳由来神経栄養因子による視細胞保護機構の解析 （Analysis of mechanism for protecting retinal photoreceptor cells by brain-derived neurotrophic factor）	㈱ニデック 研究・技術職
連研 449			イヌマ　ミチコ 井沼　道子 （弘前大学）	小原　良孝 （弘前大学）	ヒメネズミ（*Apodemus argenteus*）のＣ－ヘテロクロマチンにおけるQM蛍光遅延の機構解明に関する研究 （Studies on the mechanism of the delayed quinacrine mustard fluorescence in the C-heterochromatin of the small Japanese field mouse, *Apodemus argenteus*）	アドバンテック㈱ 研究職
連研 450			オザキ　タク 尾﨑　　拓 （弘前大学）	石黒　誠一 （弘前大学）	ミトコンドリアカルパインの同定と機能解析 （Identification and characterization of mitochondrial calpains）	弘前大学特別研究員

学位記番号	専攻	連合講座	授与者 (配属大学)	主指導教員 (所属大学)	博士学位論文名	修了後の進路 (現職) 等
連研 451	生物資源科学	ゲノム工学	ウイ　ミン 魏　敏 (帯広畜産大学)	石井　達 (帯広畜産大学)	Expression analyses of *Bradyrhizobium japonicum* in the initial interaction with *Glycine max* (L.) Merr (共生初期段階におけるダイズ根粒菌遺伝子の発現解析)	帯広畜産大学研究員
連研 452			クリタ　ダイスケ 栗田　大輔 (弘前大学)	姫野　俵太 (弘前大学)	大腸菌におけるトランス・トランスレーションの分子メカニズムの解明 (Molecular mechanism of *trans*-translation)	弘前大学特別研究員
連研 453			ワン　アイド 王　愛徳 (弘前大学)	原田　竹雄 (弘前大学)	Studies on the molecular mechanism of the difference of storage ability among apple cultivars (リンゴ果実のライプニング進行に関わる品種間差の分子機構について)	未定
連研 454		生物資源利用学	スガワラ　タカユキ 菅原　貴征 (岩手大学)	長澤　孝志 (岩手大学)	食餌アミノ酸による骨格筋タンパク質の合成と分解の制御に関する研究 (Studies on regulation of skeletal muscle protein synthesis and degradation by dietary amino acids)	東北化学薬品㈱生命システム情報研究所　研究職
連研 455			パク　ギョンオク 朴　京玉 (岩手大学)	長澤　孝志 (岩手大学)	韓国産キビタンパク質の血糖値制御，脂質代謝及びアディポネクチンレベルに及ぼす影響 (Effects of dietary protein of Korean proso millet on glycemic responses,lipid metabolism and levels of adiponectin)	JST　イノベーション岩手　研究員
連研 456			ルクマンダル LUKMANDARU, ガニス Ganis (山形大学)	高橋　孝悦 (山形大学)	Studies on the durability and color of plantation teak (Tectona grandis L.f.) wood (チーク (Tectona grandis L.f.) 植林木の耐久性と材色に関する研究)	GADJAH MADA University　大学教員
連研 457	寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	タカタ　ナオキ 髙田　直樹 (岩手大学)	上村　松生 (岩手大学)	Evolutionary and functional approach to poplar circadian clock system (モデル樹木・ポプラにおける生物時計システムの進化的・機能的解析)	Umea University 研究員
連研 458			ハヤシ　タカミ 林　高見 (岩手大学)	小池　説夫 (岩手大学)	Analysis of factors related to enhanced sterility due to coolness at the young microspore stage under high nitrogen supply in rice (Oryza sativa L.) (多窒素施肥がイネ小胞子初期の冷温による不稔を助長する要因の解析)	東北農業研究センター　研究員
連研 459			マツカワ　カズシゲ 松川　和重 (岩手大学)	伊藤　菊一 (岩手大学)	Functional analysis of skunk cabbage alternative oxidase in human cells (ヒト細胞発現系を用いたザゼンソウシアン耐性呼吸酵素の機能解析)	東北化学薬品㈱生命システム情報研究所
連研 460	生物環境科学	地域環境工学	シン　ホウメイ 申　宝明 (帯広畜産大学)	佐藤　禎稔 (帯広畜産大学)	レーザ式作物列センサによるトラクタ用作業機のうね自動追従システムの開発に関する研究 (Development of automatic guidance system for tractor-mounted implements using laser crop row sensor)	帯広畜産大学　特別研究員
連研 461		地域環境管理学	イトウ　カツオ 伊東　捷夫 (帯広畜産大学)	本江　昭夫 (帯広畜産大学)	北海道の農業景観における植物種多様性の保全に関する研究 (Study on the conservation of plant biodiversity in agriculture landscape in Hokkaido)	東京農業大学生物産業学部　嘱託教授
連研 462			デヴェー　エンヒェー DEVEE, Enkhee (帯広畜産大学)	本江　昭夫 (帯広畜産大学)	Effect of biomechanical properties of herbage grasses on grazing behaviour of sheep (イネ科牧草のバイオメカニクス的特性がヒツジの採食行動におよぼす影響)	未定
連研 463	生物生産科学	植物生産学	ハマトモエギ 濱戸もえぎ (岩手大学)	雑賀　優 (岩手大学)	飼料用トウモロコシ栽培における家畜排せつ物堆肥の最適施用量に関する研究 (Optimum amount of livestock excrement compost application on forage corn (*Zea mays* L.) cultivation)	岩手県農業研究センター畜産研究所主任専門研究員
連研 464		動物生産学	サイトウ　トモコ 齊藤　朋子 (帯広畜産大学)	柏村　文郎 (帯広畜産大学)	フリーバーンにおけるフィードステーションを利用した牛の排泄場所制御に関する研究 (Control of cattle defecation in deep free barn system using feeding station)	未定

学位記番号	専攻	連合講座	授与者 （配属大学）	主指導教員 （所属大学）	博士学位論文名	修了後の進路 （現職）等
連研 465	生物資源科学	ゲノム工学	ウジイエ　ヒロミ 氏家　博美 （弘前大学）	姫野　俵太 （弘前大学）	枯草菌における*trans*-translation反応の生理的意義の解析 ―CcpA依存的なTrePのタグ付加と分解― （Physiological roles of *trans*-translation mediated by tmRNA in *Bacilllus subtilis* －CcpA-dependent tagging and degradation of TreP－）	東北化学薬品㈱専門研究員
連研 466		生物資源化学	ドルジ DORJ, セルジミャダグ Serjmyadag （帯広畜産大学）	関川　三男 （帯広畜産大学）	Studies on quality and microbiological characteristics of dry meat products （乾燥食肉製品の品質および微生物学的特性に関する研究）	未定
連研 467			セキネ　ノブヒロ 関根　伸浩 （山形大学）	高橋　孝悦 （山形大学）	*Dalbergia latifolia* 心材の生物活性に関する研究 （Studies on bioactivity of *Dalbergia latifolia heartwood*）	秋田県立大学木材高度加工研究所 流動研究員
連研 468	生物環境科学	生産環境学	ツウイ　シャンイウエン 崔　相元 （岩手大学）	鈴木　幸一 （岩手大学）	野蚕繭からの新規生理活性物質の同定と機能解析 （Identification and function of biologically active compounds from the cocoon of the wild silkmoths）	㈱佐藤政行種苗
連研 469		環境管理学	サイトウ　マサエ 齊藤　正恵 （岩手大学）	青井　俊樹 （岩手大学）	新たな遺伝子分析手法を用いたツキノワグマの農作物加害個体の特定方法に関する研究 ―食痕からのDNA採取と野生動物管理への応用― （Studies on the identification technique of nuisance black bears using extracted DNA from damaged agricultural crops）	岩手大学連合農学研究科研究員

【課程博士】　　　　平成21年3月23日

学位記番号	授与者	推薦教員 （所属大学）	博士学位論文名	現職
連論 132	ツヒン スブラ ロイ Tuhin Suvra Roy	西澤　隆 （山形大学）	Studies on the production and utilization of hybrid true potato seed（_Solanum tuberosum_ L.）in Bangladesh （バングラデシュにおける真性種子ジャガイモ（_Solanum tuberosum_ L.）の生産と利用に関する研究）	Shere Bangla Agricultural University Associate Professor
連論 133	イマイ　カツノリ 今井　克則	石川　隆二 （弘前大学）	赤毛派生系統にみられる突然変異体の育種学的研究 （Study on molecular characteristics of spontaneous mutants derived from local variety‘Akage’）	㈱ベックス　技術職
連論 134	フジモリ　マサヒロ 藤森　正宏	大西　正男 （帯広畜産大学）	醸造酢の品質評価に関する研究 ―脂溶性成分を指標とする分析法の開発― （Studies on qualitative evaluation of vinegar -Developing the analytical methods based on lipophilic compounds-）	㈱ミツカングループ本社　研究職
連論 135	ワタナベ　ツヨシ 渡辺　剛志	小田　有二 （帯広畜産大学）	*Rhizopus*属糸状菌のスクロース加水分解酵素に関する研究 （Studies on sucrose-hydrolyzing enzymes from the genus *Rhizopus*）	帯広畜産大学　技術補佐員
連論 136	ワタナベ　ヨシアキ 渡邊　好昭	星野　次汪 （岩手大学）	オオムギの耐雪性機構，特に褐色雪腐病に対する抵抗性機構の解明 （Mechanisms of snow tolerance and resistance to Pythium snow rot in winter barley）	農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター　研究員

第４章　ゼミナール

1　平成20年度一般ゼミナール

平成20年度（2008）農学特別講義Ⅱ（前期連合一般ゼミナール：日本語）日程表

会場　岩手大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室
岐阜大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室
鳥取大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室
東京農工大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室

8:00　8:30　9:00　9:10　10:40　10:50　12:20　13:20　14:50　15:00　16:30　17:00

実施日程	準備 30分	挨拶等 10分	講　義 （90分）	休憩 10分	講　義 （90分）	昼休み 60分	講　義 （90分）	休憩 10分	講　義 （90分）	
６月19日（木）	SCSの立ち上げ	挨拶 連絡事項等	講義１ 「イギリス農業史研究の背景と意義」 （Background and Significance of British History of Farming） 佐藤 俊夫 SATO, Toshio （鳥取大学農学部教授）		講義２ 「動物科学と野生動物の保全」 （Animal Science and preservation of wild animal） 松原　和衛 MATSUBARA, Kazuei （岩手大学農学部准教授）		講義３ 「雨水利用と屋上緑化による環境問題緩和」 （Alleviation of Environmental Problems by Rainwater Use and Rooftop vegetation） 喜多　威知郎 KITA, Ichiro （島根大学生物資源科学部教授）		講義４ 「生理活性複合糖質の機能解析と応用」 (Elucidation and application of biological functions of bioactive glycoconjugates） 石田 秀治 ISHIDA, Hideharu （岐阜大学応用生物科学部教授）	
６月20日（金）	SCSの立ち上げ	連絡事項等	講義５ 「微生物の分離、性状解析、および環境浄化への利用可能性」 （Isolation and characterization of a pollutant-degrading microbe） 藤井　克彦 FUJII, Katsuhiko （山口大学農学部准教授）		講義６ 「細胞外マトリックス代謝とその制御機構」 （Metabolism of extracellular matrix and its regulatory mechanism） 新井　克彦 ARAI, Katsuhiko （東京農工大学農学部准教授）		講義７ 「様々な水田形態とその規定要因」 （What determines the various types of paddy field ?） 藤崎　浩幸 FUJISAKI, Hiroyuki （弘前大学農学生命科学部准教授）		講義８ 「食と農の近代化　その功罪」 （Food and Agricultural Problems in Modern Japan） 伊藤　康宏 ITO, Yasuhiro （島根大学生物資源科学部教授）	

平成20年度（2008）農学特別講義Ⅰ（英語）日程表

会場　岩手大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室
岐阜大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室
鳥取大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室
東京農工大学連合大学院及び構成大学ＳＣＳ室

8:00　8:30　9:00　9:10　10:40　10:50　12:20　13:20　14:50　15:00　16:30　17:00

実施日程	準備 30分	挨拶等 10分	講　義 （90分）	休憩 10分	講　義 （90分）	昼休み 60分	講　義 （90分）	休憩 10分	講　義 （90分）	
11月26日（水）	SCSの立ち上げ	挨拶 連絡事項等	講義１ 「プロレニンおよび（プロ）レニン受容体の生化学」 （Biochemistry of Prorenin and（Pro）renin Receptor） 鈴木　文昭 SUZUKI , Fumiaki （岐阜大学応用生物科学部教授）		講義２ 「モデル植物シロイヌナズナの酸性土壌耐性の分子機構」 （Molecular mechanisms of acid soil tolerance in a model plant Arabidopsis） 小山　博之 KOYAMA , Hiroyuki （岐阜大学応用生物科学部教授）		講義３ 「昆虫細胞内共生微生物による単為生殖の生物学」 （Biology of parthenogenesis induced by insect intracelluar symbiont） 田上　陽介 TAGAMI , Yohsuke （静岡大学農学部准教授）		講義４ 「高等植物と糸状菌のジテルペン生合成酵素遺伝子について」 （Genes encoding diterpene biosynthetic enzymes in higher plants and fungi） 豊増　知伸 TOYOMASU , Tomonobu （山形大学農学部准教授）	
11月27日（木）	SCSの立ち上げ	連絡事項等	講義５ 「地域内資源を用いた肉牛肥育生産のLCAによる環境影響評価」 （Environmental impact assessment of Japanese beef-fattening system with local food by-product feeds） 築城　幹典 TSUIKI , Mikinori （岩手大学農学部准教授）		講義６ 「ncRNAの生理機能と作用機序」 （Physiology and Functional Mechanism of ncRNAs） 牛田　千里 USHIDA , Chisato （弘前大学農学生命科学部准教授）		講義７ 「干ばつメモリ概念とその早期警戒への応用」 （Drought memory concept and its application to an early warning） 篠田 雅人 SHINODA , Masato （鳥取大学乾燥地研究センター教授）		講義８ 「光合成生物におけるアスコルビン酸の生合成と生理機能」 （Biosynthesis and physiological significance of ascorbic acid in photosynthesizing organisms） 石川 孝博 ISHIKAWA , Takahiro （島根大学生物資源科学部准教授）	
11月28日（金）	SCSの立ち上げ	連絡事項等	講義9 「森林の水源涵養および土壌保全機能」 （The functions of forests in headwater and soil conservation） 石川　芳治 ISHIKAWA , Yoshiharu （東京農工大学農学部教授）		講義10 「動物線維タンパク質の生体機能とその利用」 （Function and utilization of animal fibrous proteins for biomaterial） 石井　泰博 ISHII , Yasuhiro （東京農工大学農学部教授）		講義11 「ＲＮＡの多様な機能」 （Versatile functions of RNAs） 福原　敏行 FUKUHARA , Toshiyuki （東京農工大学農学部教授）		講義12 「糖鎖小宇宙への旅～その多彩な顔と生体機能を探る」 （Journey to The Glyco World ～Elucidation of the structural diversity and biological functions） 木曽　真 KISO , Makoto （岐阜大学応用生物科学部教授）	

平成20（2008）年度　科学コミュニケーション（合宿ゼミ）日程表

期間：平成20（2008）年８月27日(水)～29日(金)
会場：岩手大学，紫波町　ラ・フランス温泉館　ホテル湯楽々
宿泊：ラ・フランス温泉館　ホテル湯楽々

８月27日(水)	～12:00	開講式次第 [総合教育研究棟1F7番講義室] 1. 開式 2. 連合農学研究科長挨拶 3. 農学研究科長挨拶 4. 教職員紹介 5. 日程等の説明 6. 閉式
	12:00～13:00	受付　岩手大学（総合教育研究棟）
	13:00～13:30	開講式
	13:30～16:30	演習Ⅰ 研究課題別セミナー A：植物生産学領域（溝田智俊） B：動物生産科学＋機能開発学領域（合同）（佐野宏明） C：生物制御学領域（平　秀晴） D：ゲノム工学領域（横井修司） E：資源利用学領域（長澤孝志） F：熱・生命システム学領域（一ノ瀬充行） G：地域資源経済学領域（比屋根哲） H：地域環境管理学領域（橋本良二）
	16:30～17:10	宿泊先へ移動
	17:10～18:30	休憩
	18:30～20:00	実習Ⅰ コミュニケーション実習　ラ・フランス温泉館 ホテル湯楽々　1F交流プラザ
	20:00～21:00	自由交流
８月28日(木)	～8:40	朝食
	8:40～12:00	実習Ⅱ 研究計画作成ワークショップ 8:40-　内容・スケジュールの説明 8:50-　岩手県紫波町の課題　紫波町役場　小田島栄太郎　紫波町役場　吉田　修 9:30-　研究課題に即した紫波町内の現地見学及び視察
	12:00～13:00	昼食
	13:00～16:30	実習Ⅲ 研究計画作成ワークショップ 13:00～14:45　研究計画の作成（グループ別） 15:00～16:25　プレゼンテーション及びコメント
	16:30～17:00	研究インターンシップ体験報告
	17:00～17:30	休憩
	17:30～18:30	演習Ⅲ 科学英語への招待　講師：ロペス・ラリー
	18:30～19:30	夕食
	19:30～21:00	自由交流
８月29日(金)	～8:30	朝食
	8:30～11:30	講義 学位取得への道 8:50-　大学教員から（渡邉　学） 9:30-　公設研究機関から（藤郷　誠） 10:25-　民間企業研究員から（石黒　貴寛） 11:05-　総合討論
	11:30～12:20	キャリアパス支援センター紹介（講師　舩山育男）
	12:20～12:50	閉講式・アンケート作成
	12:50～13:30	昼食
	13:30～14:00	解散（盛岡駅経由岩手大学へ）

テーマ：地域の研究課題を掘り起こす
Recognize local research topics

2　平成20年度　特別ゼミナール実施計画

課題名	担当教員	時間数	実施時期	実施場所
ネオティフォディウム・エンドファイトとイネ科牧草の相利共生	雑賀　優	6	平成20年７月３日	岩手大学
分子とニューロンによる行動制御：C.elegans 神経系の場合	新貝鉚蔵	4	平成20年７月31日	岩手大学
牛乳と豆乳の科学	小野伴忠	4	平成20年７月31日	岩手大学
牧草の品質関連特性と家畜の代謝障害	雑賀　優	6	平成20年７月31日	岩手大学
微生物酵素の利用	磯部公安	4	平成20年８月１日	岩手大学
植物が環境に応じて花を咲かせる分子メカニズム	横井修司	4	平成20年８月１日	岩手大学
多収性水稲品種の生理・生態学的要因と収量性改善	黒田榮喜	4	平成20年８月４日	岩手大学
栄養が蛋白質代謝回転と成長因子に及ぼす影響	喜多一美	4	平成20年８月４日	岩手大学
生元素安定同位体の農学への応用	溝田智俊	4	平成20年８月５日	岩手大学
共生微生物の機能を利用した荒廃地の土壌修復と植生の早期回復について	立石貴浩	4	平成20年８月５日	岩手大学
蛇行河道における河川改修計画のあり方	三輪　弍	4	平成20年８月７日	岩手大学
冷温帯林の発達と生理生態	橋本良二	4	平成20年８月７日	岩手大学
農業経営の成長理論	木村伸男	4	平成20年８月８日	岩手大学
環境教育の科学	比屋根　哲	4	平成20年８月８日	岩手大学
昆虫学の新研究展開とバイオテック	鈴木幸一	6	平成20年11月28日	岩手大学
水と環境-土壌と水の汚染と砂漠化	河合成直	4	平成20年12月13日	岩手大学
貯留関数法からみた降雨および融雪流出の比較	倉島栄一	6	平成20年８月上旬	岩手大学
取水堰における堆砂・洗掘問題	三輪　弍	6	平成20年８月上旬	岩手大学
酵素抗体法	石黒誠一	4	平成20年８月４日	弘前大学
生命現象機構の有機化学的解明	橋本　勝	4	平成20年８月４日	弘前大学
Small RNAによる遺伝子発現制御	千田峰生	4	平成20年８月５日	弘前大学
ペクチンとペクチナーゼ研究の進歩	宮入一夫	4	平成20年８月５日	弘前大学
権力と農民の二重性的関係について	武田共治	4	平成20年８月18日	弘前大学
戦後日本農業の展開と食料・農業・農村の課題	神田健策	4	平成20年８月18日	弘前大学
水田農法の特徴と展開条件－東北地域の複合経営	宇野忠義	4	平成20年８月19日	弘前大学
農業市場学の基礎	泉谷眞実	4	平成20年８月19日	弘前大学
魚類の食性はどのように決まるのか？	佐原雄二	4	平成20年８月21日	弘前大学
子のう菌類の系統と多様性に関する研究	田中和明	4	平成20年８月21日	弘前大学
Control of insect growth and development	比留間　潔	4	平成20年８月22日	弘前大学
光合成生物における炭素代謝研究	大河　浩	4	平成20年８月22日	弘前大学
RNAの分子生物学	牛田千里	6	平成20年９月１日	弘前大学
RNAの生化学	姫野俵太	6	平成20年９月３日	弘前大学

課題名	担当教員	時間数	実施時期	実施場所
混作における菌根菌の外生菌糸ネットワークの役割	俵　谷　圭太郎	4	平成20年８月４日	山形大学
生態学と害虫防除	安　田　弘　法	4	平成20年８月４日	山形大学
ドイツのクラインガルテンに見る人と園芸植物との関わり	平　　　　　智	4	平成20年８月５日	山形大学
家畜生産と地域資源利用	堀　口　健　一	4	平成20年８月５日	山形大学
樹木の成分と利用	高　橋　孝　悦	4	平成20年８月６日	山形大学
ダダチャマメの成分の科学	阿　部　利　徳	4	平成20年８月６日	山形大学
天然有機化合物の研究方法	貫　名　　　学	4	平成20年８月７日	山形大学
食品の素材としてのポリフェノールの体内利用・機能	五十嵐　喜　治	4	平成20年８月７日	山形大学
農村開発と合意形成手法	小　沢　　　亙	4	平成20年８月８日	山形大学
スロー・シェルター論	菊　間　　　満	4	平成20年８月８日	山形大学
河川環境に係る現象と課題	大久保　　　博	4	平成20年８月９日	山形大学
多雪寒冷山地の流域特性と森林管理	小野寺　弘　道	4	平成20年８月９日	山形大学
海洋天然物の研究方法	貫　名　　　学	6	平成21年１月９日	山形大学
ダダチャマメの成分の科学	阿　部　利　徳	6	平成21年１月23日	山形大学
水利施設の水理設計論（Ⅱ）	前　川　勝　朗	6	平成20年８月中旬	山形大学
馬の行動と管理	柏　村　文　郎	4	平成20年８月４日	帯広畜産大学
卵巣の分子内分泌および代謝機構	手　塚　雅　文	4	平成20年８月４日	帯広畜産大学
農耕地土壌におけるリン酸の吸着と蓄積	谷　　　昌　幸	4	平成20年８月５日	帯広畜産大学
クジラの体外受精2	福　井　　　豊	4	平成20年８月5日	帯広畜産大学
植物の再生過程における炭水化物代謝	山　本　紳　朗	4	平成20年８月６日	帯広畜産大学
主要食用作物の生産性と遺伝的改良	三　浦　秀　穂	4	平成20年８月６日	帯広畜産大学
複合糖質研究の進歩と現状	櫛　　　泰　典	4	平成20年８月７日	帯広畜産大学
食品の摂取と脂質代謝	福　島　道　広	4	平成20年８月７日	帯広畜産大学
大規模畑作農業を支える農業機械システムとセンサ技術	佐　藤　禎　稔	4	平成20年８月８日	帯広畜産大学
積雪寒冷地における自然環境と土壌凍結作用	土　谷　富士夫	4	平成20年８月８日	帯広畜産大学
ヒマラヤ・チベットおよびアンデス高地の草原管理と家畜飼育	本　江　昭　夫	4	平成20年８月11日	帯広畜産大学
野生動物と道路：交通事故、生息地の断片化および防止策	柳　川　　　久	4	平成20年８月11日	帯広畜産大学

第２部　教員の研究活動

第１章　公表論文等

＊公表論文等の掲載形式は，構成大学の年報の形式に準じる。
なお，弘前大学農学生命科学部所属教員の業績は，平成20年10月～平成21年９月までのものであり，他構成大学所属教員の業績は，平成20年度である。

１　生物生産科学専攻

⑴　植物生産学連合講座

【岩手大学】

壽松木　章

〈原著論文〉

１）Bessho, H., M. Wada, K. Kudo, Y. Inomata, H. Iwanami, K. Abe, J. Soejima, S. Komori and A. Suzuki.(2009)Selection of crabapple pollinizers for 'Fuji'and'Tsugaru'apple. J. American Pomological Society. 63:2-13.

星野　次汪

〈著書〉

１）星野次汪（分担執筆）（2008）種子のバイオサイエンス，東京，pp.245-247.
２）星野次汪（分担執筆）（2009）最新農業技術「作物」vol.1，農文協，東京，pp.265-268.
３）星野次汪（分担執筆）（2009）最新農業技術「作物」vol.1，農文協，東京，pp.273-278.
４）星野次汪（分担執筆）（2009）最新農業技術「作物」vol.1，農文協，東京，pp.279-285.

〈原著論文〉

１）鎌田拓也・木内亮輔・小笠原綾奈・佐川　了・清水　恒・星野次汪（2009）在来栽培ヒエのアミロース含有率および粗タンパク質含有率の系統間変異．育種学研究　11:23-28.
２）熊谷成子・守岡　貴・谷口義則・佐川　了・星野次汪（2008）アワの搗精歩合と品質．日作東北支部報　51:55-56.
３）熊谷成子・守岡　貴・谷口義則・佐川　了・星野次汪（2008）アミロース含有率が異なるヒエ系統の炊飯特性とブレンド適性．日作東北支部報　51:49-50.
４）田口芳彦・佐川　了・守岡　貴・畑山　誠・星野次汪（2008）ダイズ品種と味噌醸造適性．日作東北支部報　51:61-62.

小森　貞男

〈著書〉

１）小森貞男（分担執筆）（2007）「リンゴ結実のしくみ」他３項目．pp.1-6，37-39，40-43．in

リンゴ単植化の手引き．独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所リンゴ研究チーム編．盛岡.

2）小森貞男（分担執筆）（2009）「第４章　倍数性を利用した自家和合性の誘導」in：リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発．pp.28-37．独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所編．盛岡

〈原著論文〉

1）Manabu Watanabe, Hideyuki Segawa, Masanobu Murakami, Satoru Sagawa and Sadao Komori.（2008）Effect of Plant Growth Regulators on Fruit Set and Fruit Shape of Parthenocarpic Apple Fruits. J.Japan. Soc. Hort. Sci. 77：350-357.

2）M.Watanabe, H.Bessho, A.Suzuki and S.Komori.（2008）Seasonal Changes of IAA and Cytokinin in Shoots of Columnar Type Apple Trees. Acta Horticulturae 774：75-80.

3）Masato Wada, Ayano Ureshino, Norimitsu Tanaka, Sadao Komori, sae Takahashi, Kazunori Kudo and Hideo Bessho.（2009）Anatomical analysis by two approaches ensures promoter activities of apple AFL genes. J.Japan. Soc. Hort. Sci. 78：32-39.

4）H. Bessho, M. Wada, K. Kudo, Y. Inomata, H. Iwakami, K. Abe, J. Soejima, K. Komori and A. Suzuki.（2009）Selection of Crabapple Pollinzers for 'Fuji and 'Tsugaru' apple. J. Amer. Pomolo. Soc. 63：2-13.

佐川　了

〈著書〉

1）佐川了（分担）（2008）農業技術体系　第７巻（追録第30号）．農山漁村文化協会，東京，基35-37.

〈原著論文〉

1）Watanabe, M., Segawa, H., Murakami, M., Sagawa, S. and Komori, S.（2008）Effects of plant growth regulators on fruit set and fruit shape of parthenocarpic apple fruits. J. Japan. Soc. Hort. Sci. 77(4)：350-357.

庄野　浩資

〈原著論文〉

1）KOIDE, S., SHONO, H., SHI, J., UEMURA, M. and M. HARA（2008）Changes in Antioxidative Enzyme Activities and Physicochemical Properties of Tomato Fruits during Postharvest Ripening. Eiviron. Control Biol. Vol.46：147-153

2）KOIDE, S., TAKEDA, J., Shi. J., SHONO, H., and G. G. ATUNGULU（2008）Disinfection efficacy of slightly acidic electrolyzed water on fresh cut cabbage. Food Control. Vol.20：294-297

松嶋　卯月

〈原著論文〉

1）Matsushima, U., Kardjilov, N., Hilger, A., Graf, W., and Herppich, W. B.（2008）Application potential of cold neutron radiography in plant science research. J. Appl. Bot. Food Qual., Vol. 82, pp. 90-98.

【弘前大学】

荒川　修

〈原著論文〉

1）Satoshi Kasaia and Osamu Arakawa: Antioxidant levels in watercore tissue in 'Fuji' apples during storage. Postharvest Biology and Technology：Article in Press 2009.08.008. (2009).

葛西　身延

〈原著論文〉

1）Kasai M: Regulatory mechanism of photosynthesis that depends on the activation state of Rubisco under sink limitation. I. J. Agr. Biol. 10：283-287, 2008.

伊藤　大雄

〈原著論文〉

1）石田祐宣*・伊藤大雄・松浦友一朗**：白神山地フラックスタワーの概要と気象概況（2008年7月～10月）．白神研究，6，18-25．2009．（*弘前大学理工学研究科　**弘前大学理工学部）

松山　信彦

〈原著論文〉

1）松山信彦・佐藤　佑・舘岡和寛：ケイ酸がマコモ（*Zizania latifolia* Turcz.）の生育に与える影響．日本作物学会東北支部会報，51：43-44, 2008.

2）佐々木長市・松山信彦・久保田正亜・野田香織・加藤　幸：カドミウム汚染水田の浸透型が稲体のカドミウム濃度および生育収量に及ぼす影響，農業農村工学会論文集，261：57-64, 2009.

3）佐々木長市・松山信彦・佐瀬　隆・殿内暁夫・松岡嗣彦・加藤　幸・野田香織：白神山地の土壌に関する研究(6)，白神研究, 6：35-43，2009.

4）Takeda, K., A. Tonouchi, M. Takada, T. Suko, S. Suzuki, Y. Kimura, N. Matsuyama, T. Fujita: Characterization of cultivable methanotrophs from paddy soils and rice roots. Soil Sci. Plant Nutr., 54：876-885, 2008.

【山形大学】

安藤　豊

〈原著論文〉

1）森静香・藤井弘志・安藤豊（2008）：水稲の時期別ケイ酸吸収速度に及ぼす土壌のケイ酸供

給量の影響　日本土壌肥料学会誌　79-4，387-391

2）藤井弘志・森静香・安藤豊（2008）：水稲に対する日照不足条件下におけるケイ酸の効果　日本土壌肥料学雑誌　79-5，471-477

3）Akira Watanabe, Ken-schi Kakuda, Benito Heru Purwanto, Jong Fph Shoon and Ho Ando（2008）：Effect of sago palm（Metroxylen sagu Rotth）plantation on CH_4 and CO_2 fluxes from a tropical soil SAGO PSLM 16：10-15

4）Shuhei MAKABE, Ken-ichi KAKUDA, Yuka SASAK and Ho ANDO*/(2009)：Uptake of applied silica by rice plants in relation to level of nitrogen application Bull. Yamagata Univ., Agr. Sci.., 15(4), 309-314.

平　　智

〈著書〉

1）平　　智（2008）：果実の加工と利用（食べ方），オウトウ，杉浦　明ほか編著：果実の事典，朝倉書店

〈原著論文〉

1）Taira, S., E. Imai and M. Gohei（2008）：Effects of harvest date on long-term storability of on-tree alcohol-treated Hiratanenashi persimmons packed in plastic film, Food Preservation Sci. 34：139-143.

高樹　英明

〈原著論文〉

1）高樹英明・森田友秋・佐藤利行（2009）：ギョウジャニンニクの葉の成長力の季節的変動と低温による自発休眠の打破，山形大学紀要（農学），15(4)，195-209.

西澤　隆

〈著書〉

1）西沢　隆．2008．イチゴ．杉浦　明・宇都宮直樹・片岡郁雄・久保田尚浩・米森敬三 編集．果実の事典．朝倉書店．p.132-143.（分担執筆）

〈原著論文〉

1）Roy T. S., T. Nishizawa* and M. H. Ali. 2008. True seed production and its economic analysis as influenced by supplemental nitrogen and planting density. Asian J. Plant Sci. 7(1)：73-78.

2）Nishizawa T., M. Takeda, H. Murayama and U. Matsushima. 2008. Effects of TiO2 photocatalytic oxidation in the room atmosphere and the quality of tomato fruit during storage under a closed system. Acta Horticulturae 804：309-314.

藤井　弘志

〈原著論文〉

1）森静香・松田裕之・柴田康志・藤井弘志（2008）：2004年台風15号の潮風害による水稲被害

の特徴と減収率の推定，日作記，77，13-21

2）森静香・藤井弘志・安藤豊（2008）：水稲の時期別ケイ酸吸収速度に及ぼす土壌のケイ酸供給量の影響，土肥誌，79，387-391

3）藤井弘志・森静香・安藤豊（2008）：水稲に対する日照不足条件下におけるケイ酸の効果，土肥誌，79，471-477

4）T.Hayasaka.,H.Fujii, and K.Ishiguro（200）：The Role of Silicon in Preventing Appressorial Penertration by the Rice Blast Fungas. The American Phytopathological Society, 98, 1038-1044.

5）森静香・柴田康志・藤井弘志（2009）：2004年台風15号で潮風害を受けた水稲と塩分を付着させた水稲との被害程度の把握，日作紀，78，87-91

村山　秀樹

〈著書〉

1）村山秀樹．2008：セイヨウナシ，チュウゴクナシ．p.339-348．杉浦　明，宇都宮直樹，片岡郁雄，久保田尚浩，米森敬三編．果実の事典．朝倉書店．東京．

山本　隆儀

〈原著論文〉

1）山本隆儀・鈴木雅南子・奥谷紘平・田頭怜子・川上　洸・伊藤昌美（2008）：８月以降の台風による渋ガキ果実の潮風害（果皮の微細亀裂），その後の脱渋処理で発生する果面汚損および防止対策．農業気象．64. 69-79.

2）山本隆儀・奥谷紘平・田中宏幸・川上　洸・金本明洋（2008）：根圏へのマルチ処理が甘果オウトウの裂果，樹体水分状態，果実肥大および品質に及ぼす影響．園芸学研究．7. 351-358.

3）山本隆儀・谷澤佳美（2008）：着生果実のデジタル画像を用いた回転体状果実体積のリモート計測法の開発．園芸学研究．7. 549-558.

4）山本隆儀・麻生桃代・西沢滝太・庄司紀幸・佐藤健吾・小山智江・上野恵里・須田　慶（2009）：数種落葉果樹の葉面傾斜角度分布に関する研究．山形大学紀要（農学）．15. 243-272.

5）山本隆儀・紺野　靖（2009）：立体写真測量法を用いた着生果実の三次元的形状，特に果実体積のリモート計測法．園芸学研究．8.（印刷中）．

(2)　動物生産学連合講座

【岩手大学】

佐野　宏明

〈原著論文〉

1）Al-Mamun, M., Y. Hanai, C. Tanaka, Y. Tamura and H. Sano（2008）Responses of whole body protein synthesis and degradation to plantain herb in sheep exposed to heat. Arch. Anim. Nutr. 62：219-229.

２）Sano, H., M. Kajita, M. Ito, T. Fujita and A. Takahashi（2008）Effect of metabolizable protein intake on rates of plasma leucine turnover and protein synthesis in heifers. J. Agr. Sci.（Camb.）146：343-349.
３）Sano, H., H. Sawada, A. Takenami and M. Al-Mamun（2009）Effects of diet and cold exposure on rates of plasma leucine turnover and protein synthesis in sheep. J. Agr. Sci.（Camb.）147：91-97.

橋爪　力

〈原著論文〉

１）Fukushima, M., Funabiki, I., Hashizume, T., Osada, K., Yoshida, W. and Ishida, S.（2008）Detection and changes in levels of testosterone during spermatogenesis in freshwater planarian *Bdellocephala brunnea*. Zool. Sci. 25：760-765.
２）Hashizume, T., Onodera, Y., Shida, R., Isobe, E., Suzuki, S., Sawai, K., T., Kasuya, E. and Nagy, G.M.（2009）Characteristics of prolactin-releasing response to salsolinol（SAL）and thyrotropin-releasing hormone（TRH）in ruminants. Domest. Anim. Endocrinol. 36：99-104.

出口　善隆

〈原著論文〉

１）出口善隆, 徳永未来, 山本彩, 高橋志織, 小野康, 丸山正樹, 木村憲司, 辻本恒徳, 岩瀬孝司（2008）飼育下ツキノワグマにおける環境エンリッチメント効果の季節変化. Animal Behaviour and Management　44：159-165.
２）大橋真吾，松原和衛，出口善隆，小藤田久義（2009）ライオン（*Panthera leo*）排泄物に対するニホンジカ（*Cervus nippon*）の忌避現象．Aroma Research　10：50-53.

松原　和衛

〈原著論文〉

１）大橋真吾，松原和衛，出口善隆，小藤田久義（2009）ライオン（*Panthera leo*）排泄物に対するニホンジカ（*Cervus nippon*）の忌避現象. Aroma Research　10：50-53.

澤井　健

〈原著論文〉

１）Saito, S., Sawai, K., Murayama, Y., Fukuda, K. and Yokoyama, K.（2008）Nuclear transfer to study the nuclear reprogramming of human stem cells. Methods Mol. Biol. 438：151-169.
２）Hirayama, H., Fujikawa, A., Kageyama, S., Moriyasu, S., Sawai, K., Onoe, S. and Minamihasi, A.（2008）Multiple genotyping in bovine pre-implantation embryos with whole genome amplification. Anim. Sci. Jour. 79：554-560.
３）Hirayama, H., Sawai, K., Moriyasu, S., Hirayama, M., Goto, Y., Kaneko, E., Miyamoto, A., Ushizawa, K., Takahashi, T. and Minamihashi, A.（2008）Excess estrogen sulfoconjugation as the possible cause for a poor sign of parturition in pregnant cows carrying somatic cell

clone fetuses. Reproduction, 136(5):639-47

4）Hashizume, T., Onodera, Y., Shida, R., Isobe, E., Suzuki, S., Sawai, K., Kasuya, E. and Nagy, G.M. (2009) Characteristics of prolactin-releasing response to salsolinol (SAL) and thyrotropin-releasing hormone (TRH) in ruminants. Domest. Anim. Endocrinol., 36:99-104.

【弘前大学】

鈴木　裕之

〈原著論文〉

1）Suzuki, H., Fukudome, H., Takami, A., Matsuzaki, M.:Cytoskeletal and mitochondrial distributions in porcine oocytes at different germinal vesicle stages. Journal of Mammalian Ova Research, 25:177-183, 2008.

松﨑　正敏

〈原著論文〉

1）Suzuki, H., Fukudome, H., Takami, A., Matsuzaki, M.:Cytoskeletal and mitochondrial distributions in porcine oocytes at different germinal vesicle stages. Journal of Mammalian Ova Research, 25:177-183, 2008.

2）Ogasawara, H.*, Ohwada, S.*, Nagai, Y.*, Taketa, Y.*, Matsuzaki, M., Tanaka, S.*, Watanabe, K.*, Aso, H.*, Yamaguchi, T.*:Localization of leptin and leptin receptor in the bovine adenohypophysis. Domestic Animal Endocrinology, 35:8-15, 2008. (*Tohoku University)

【山形大学】

木村　直子

〈原著論文〉

1）森下真道, 木村直子, 戸津川清. 2008（平成20年）ニワトリ雛へのジエチルスチルベストロール投与による発育への影響. 東北畜産学会, Vol. 58:1-5.

2）Yokoo M, Kimura N, Abe H, Sato E. 2008（平成20年）Influence of hyaluronan accumulation during cumulus expansion on in vitro porcine oocyte maturation. Zygote, Vol. 16:309-314.

3）木村直子, 木村　昂, 戸津川清. 2008（平成20年）妊娠期および授乳期マウスへの大豆由来イソフラボン投与が子孫の発育および生殖能へ及ぼす影響. Journal of Mammalian Ova Research, Vol. 25:272-278

高橋　敏能

〈原著論文〉

1）沖山恒明・高橋敏能（8番目）・堀口健一・苅田修一・後藤正和. 泌乳牛に給与した稲発酵粗飼料ホールクロップサイレージの糗消化性に及ぼすグルタミン酸発酵副産液の添加効果.

日本草地学会誌，54：64-68． 2008.

2）Ken-ichi Horiguchi, Toshiyoshi Takahashi and Takeo Kayaba. Effect of scrach and rumen incubation on the germination of unhulled rice kernel. Grassland Science, 54：160-163. 2008.

3）Toshiyoshi Takahashi, Norio Yoshida and Hiroki Matsuyama. Whole crop rice silage for beef and dairy cattle in Japan：The practical case of rice plant utilization as feed in Yamagata prefecture. Proceedings of International Symposium on Forage Rice Production in Asia, 41-46. 2008.

戸津川　清

〈原著論文〉

1）森下真道, 木村直子, 戸津川清． 2008（平成20年）ニワトリ雛へのジエチルスチルベストロール投与による発育への影響． 東北畜産学会， Vol. 58：1-5.

2）木村直子， 木村　昂， 戸津川清． 2008（平成20年）妊娠期および授乳期マウスへの大豆由来イソフラボン投与が子孫の発育および生殖能へ及ぼす影響.Journal of Mammalian Ova Research, Vol. 25：272-278

堀口　健一

〈著書〉

1）（総監修）柏村文郎． 執筆分担． 2008． 新版 酪農用語解説

〈原著論文〉

1）沖山恒明・Aibibula Yimamu・蒲生夕子・依米提烏斯満・竹田元治・横井大輔・高橋敏能・堀口健一・苅田修一・後藤正和． 2008． 泌乳牛に給与したイネ（*Oryza sativa* L.）ホールクロップサイレージの籾消化性に及ぼすグルタミン酸発酵副産液の添加効果． 日本草地学会誌, 54(1)：64-68.

2）Ken-ichi Horiguchi, Toshiyoshi Takahashi, Takeo Kayaba. 2008. Effect of scratch and rumen incubation on the germination of unhulled rice kernel. Grassland Science, 54(3)：160-163.

【帯広畜産大学】

鈴木　三義

〈著書〉

1）口田圭吾． 2008． 新時代の乳牛改良（第10章　乳牛における牛肉生産）． 鈴木三義・寺脇良悟監修． 初版． pp.179-191． 酪農学園大学エクステンションセンター． 江別市

桑山　秀人

〈原著論文〉

1）Hashizume T, Shida R, Suzuki S, Kasuya E, Kuwayama H, Suzuki H, Olah M, Nagy, G M. 2008. Interaction between salsolinol（SAL）and thyrotropin-releasing hormone（TRH）or dopamine (DA) on the secretion of prolactin in ruminants. Domestic Animal Endocrinology 34:327-332.

2）ThidarMyint H, Kuwayama H. 2008. Role for des-acyl ghrelin in the responsiveness of plasma hormones and metabolites to ghrelin in Holstein steers. Domestic Animal Endocrinology 35:190-197

柏村　文郎

〈原著論文〉

1）斎藤朋子，瀬尾哲也，古村圭子，柏村文郎．2009．起立後フィードステーション進入までの制限時間がウシの排泄場所に与える影響．日畜会報，80:71-76

門平　睦代

〈原著論文〉

1）佐々木直樹，高桑　潤，西井　知，石井三都夫，門平睦代，内藤友子，眞鍋弘行，山田明夫．2009．乳牛の疣状皮膚炎に対するエリスリトール製剤の効果．日本獣医師会雑誌；62(3):208-210

2）K. Takeshi, M. Kitagawa, M. Kadohira, S. Igimi, S. Makino. 2009. Hazard Analysis of Listeria monocytogenes Contaminations in Processing of Salted Roe from Walleye Pollock (Theragra chalcogramma) in Hokkaido, Japan. Journal of Veterinary Medical Scince 71 (1):1-3

3）Mutsuyo Kadohira, Mark Stevenson, Norihisa Kanayama, Roger Morris, 2008. pidemiology of bovine spongiform encephalopathy in cattle in Hokkaido, Japan between September 2001 and December 2006, The Veterinary Record, 163:709-713

4）Pawin Padungtod, Mutsuyo Kadohira*, Glen Hill, Livestock Production and Foodborne Diseases from Food Animals in Thailand, The journal of Veterinary Medical Science, 70 (9):873-879 (2008) *corresponding author

5）J. Roa, M. Kadohira*, R.V. Bergantin, D.M. Bolatete Jr., A. Yamauchi, Farmers' decision making strategies on selecting rootcrop varieties in the Visayas Region, Philippines, Res. Bull. Obihiro Univ. 29:1-12 (2008) *corresponding author

河合　正人

〈原著論文〉

1）松岡　栄，Huu Van Nguyen，石井　篤，河合正人．2008．牧草のサイレージおよび乾草調製による窒素画分割合と第一胃内窒素分解率の変化がめん羊の窒素出納に及ぼす影響．日本草地学会誌　54:24-30

手塚　雅文

〈原著論文〉

1）Hayashi KG, Matsui M, Shimizu T, Sudo N, Sato A, Shirasuna K, Tetsuka M, Kida K,

Schams D, Miyamoto A. 2008. The absence of corpus luteum formation alters the endocrine profile and affects follicular development during the first follicular wave in cattle. Reproduction. 136：787-97
2）Shimizu T, Murayama C, Sudo N, Kawashima C, Tetsuka M, Miyamoto A. Involvement of insulin and growth hormone（GH）during follicular development in the bovine ovary. Anim Reprod Sci 106（1-2）：143-152.（2008.6）
3）Okawara S, Hamano S, Tetsuka M. 2009. Bovine oocyte and early embryo express mRNA encoding glycerol kinase but addition of glycerol to the culture media interferes with oocyte maturation. Journal of Reproduction and Development 55：177-82
4）Nishimoto H, Hamano S, Hill GA, Miyamoto A, Tetsuka M. 2009. Classification of bovine follicles based on the concentrations of steroids, glucose and lactate in follicular fluid, and the status of accompanying follicles. Journal of Reproduction and Development 55：219-24

木田　克弥

〈原著論文〉

1）Hayashi KG, Matsui M, Shimizu T, Sudo N, Sato A, Shirasuna K, Tetsuka M, Kida K, Schams D, Miyamoto A. 2008. The absence of corpus luteum formation alters the endocrine profile and affects follicular development during the first follicular wave in cattle. Reproduction. 136：787-97
2）Kawashima C, Kida K, Schweigert FJ and Miyamoto A. 2009. Relationship between plasma β-carotene concentrations during the peripartum period and ovulation in the first follicular wave postpartum in dairy cows. Animal Reproduction Science. 111：105-111.

古村　圭子

〈原著論文〉

1）斎藤朋子，瀬尾哲也，古村圭子，柏村文郎．2009．起立後フィードステーション進入までの制限時間がウシの排泄場所に与える影響．日畜会報，80：71-76

瀬尾　哲也

〈原著論文〉

1）斎藤朋子，瀬尾哲也，古村圭子，柏村文郎．2009．起立後フィードステーション進入までの制限時間がウシの排泄場所に与える影響．日畜会報，80：71-76

⑶　生物制御学連合講座

【岩手大学】

河合　成直

〈原著論文〉

1）Rahman, H. M., Okubo, A., Kawai, S., and Sugiyama, S.（2008）Assessing microbial community in andisol deffering in management practices by biochemical and molecular fingerprinting methods. International Journal of Soil Science, 3(1)：1-10

2）Shaibur, M. R., Kitajima, N., Sugawara, R., Kondo, T., Huq., I. S.M., Kawai, S.（2008）Physiological and mineralogical properties of arsenic-induced chlorosis in barley seedlings grown hydroponically. J. Plant Nutrition, 31：333-353

3）Shaibur, M. R., Kitajima, N., Sugawara, R., Kondo, T., Alam, S., Huq., I. S.M., Kawai, S.（2008）Critical toxicity level of arsenic-induced chlorosis in hydroponic sorghum, Water Air Soil Pollution, 191：279-292.

4）Ladouceur, A., Akiha, F., and Kawai, S.（2008）Effect of supplied phytosiderophore on ^{59}Iron absorption and translocation in Fe-deficient barley grown hydroponically in low phosphorus media Soil Sci. Plant Nutr. 54：560-564.

5）Kashem, M. A., Singh B. R., Huq., I. S.M., Kawai, S.（2008）Cadmium phytoextraction efficiency of Arum（*Colocasia antiquarum*), Radish（*Raphanus sativus* L.）and Water Spinach（*Ipomopea aquatica*）grown in hydroponics. Water Air Soil Pollution, 192：273-279.

溝田　智俊

〈原著論文〉

1）Yamanaka, T., Mizota, C., Matsuyama-Seriswa, K., Kakegawa, T., Miyazaki, J-I., Manpuku, M., Tsutsumi, H. and Fujiwara, Y.（2008）Stable isotopic characterization of carbon, nitrogen and sulfur uptake of *Acharax japonica* from central Japan. Plankton Benthos Res. 3：36-41.

2）嶋田哲郎，溝田智俊（2008）宮城県北部におけるガン類餌資源としての転作大豆．日本鳥学会誌．57：20-24.

3）嶋田哲郎，溝田智俊（2008）宮城県北部におけるガン類餌資源としての麦類．日本鳥学会誌．57：25-29.

4）山中寿朗，中山　怜，尾崎健一，下山正一，萬福真美，谷田部明子，溝田智俊（2008）海底に沈んだ鯨骨の直下に発達する特殊な化学環境とその経年変化．月刊海洋．40：304-310.

5）嶋田哲郎，溝田智俊（2008）伊豆沼・内沼周辺地域で越冬するマガンの個体数増加にともなう採食地利用パターンの変化．日本鳥学会誌．57：122-132.

6）Mizota, C.（2009）Temporal variations in the concentration and isotopic signature of ammonium- and nitrate-nitrogen in soils under a breeding colony of Black-tailed Gulls（*Larus crassirostris*）on Kabushima Island, northeastern Japan. Applied Geochemistry. 24：328-332.

7）Mizota, C., Doi, H., Kikuchi, E., Shikano, S., Kakegawa, T., Yurlova, N. and Yurlov, A. K.（2009）Stable isotope characterization of fluids from the Lake Chany complex, western Siberia, Russian Federation. Applied Geochemistry. 24：319-327.

8）Kanaya, G., Yadrenkina, E., Zuykova, E., Kikuchi, E., Doi, H., Shikano, S. Mizota, C. and Yurlova, N.（2009）Controbution of organic matter sources to cyprinid fishes in the Chany

Lake-Kargat River estuary, western Siberia. Marine and Freshwater Research. 60：510–518.

9）嶋田哲郎，溝田智俊，佐々木智恵（2009）マガンによるブロッコリーとハクサイの採食例．日本鳥学会誌．58：73–76.

10）嶋田哲郎，溝田智俊（2009）ガン類の摂食による起生期麦類の現存量と子実収量への影響：宮城県北部における事例解析．日本鳥学会誌．58：86–90.

11）Fujiwara, Y., Okutani, T., Yamanaka, T., Kawato, M., Mizota, C., Fujikura, K., Yamamoto, T. and Okoshi, K.（2009）*Solemya pervernicosa* lives in sediment underneath submerged whale carcasses：Its biological significance. Venus. 68：27–37.

12）Mizota, C.（2009）Nitrogen isotopic patterns of vegetation as affected by breeding activity of Black-tailed Gull（*Larus crassirostris*）：A coupled analysis of feces, inorganic soil nitrogen. Applied Geochemistry. 24：2027–2033.

13）嶋田哲郎，溝田智俊（2009）マガンによる牧草の採食：植生現存量と土壌窒素動態に及ぼす影響．日本鳥学会誌．58：201–205.

磯貝　雅道

〈原著論文〉

1）Lim, H-S., Bragg, J., Ganesan, U., Lawrence, D.M., Yu, J., Isogai, M., Hommond, J., Jackson, A.O.（2008）Triple Gene Block Protein Interactions Involved in Movement of Barley. J.Virol. 82：5007–5020.

2）Yaegashi, H., Tamura, A., Isogai, M. and Yoshikawa, N.（2008）Inhibition of long-distance movement of RNA silencing signals in Nicotiana benthamiana by Apple chlorotic leaf spot virus 50 kDa movement protein. Virology 382：199–206.

立石　貴浩

〈原著論文〉

1）川向有希子，颯田尚哉，立石貴浩（2008）臭素酸のコマツナ成長抑制作用に及ぼす陽イオンの影響．環境工学研究論文集 45：65–71

【弘前大学】

青山　正和

〈原著論文〉

1）Nagao, S., M. Aoyama, A. Watanabe, T. Tanaka：Complexation of Am with size-fractionated soil humic acids. Colloids and Surfaces A：Physicochemical and Engineering Aspect, 347：239–244, 2009.

佐野　輝男

〈原著論文〉

1）Sano,T., S. Isono, K. Matsuki, Y. Kawaguchi-Ito, K. Tanaka, K. Kond, A. Iijima, M. Bar-Jo-

seph: Vegetative propagation and its possible role as a genetic bottleneck in the shaping of the Apple fruit crinkle viroid populations in apple and hop plants. Virus Genes, 37(3): 298-303, 2008.

2) Hou, W., T. Sano, F. Li, A. Wu, L. Li, S. Li: Identification and characterization of a new Coleviroid (CbVd-5). Arch. Virol., 154: 315-320, 2009.

3) Hou, W., S. Li, Z. Wu, D. Jiang, T. Sano: Coleus blumei viroid 6: A new tentative member of the genus Coleviroid derived from natural genome shuffling. Arch Virol., 154: 993-997, 2009.

4) Sano, T.: Apple fruit crinkle viroid (AFCVd). In the Compendium of Hop Diseases, Arthropod Pests and Other Disorders, APS Press. pp. 39, 93, ISBN 978-0-89054-376-4, 2009.

5) Eastwell, K., T. Sano: Hop stunt disease (HSVd). In the Compendium of Hop Diseases, Arthropod Pests and Other Disorders, APS Press. pp. 48-51, 93. ISBN 978-0-89054-376-4, 2009.

比留間　潔

〈原著論文〉

1) Reynolds, S.E., A.M. Brown, R.K. Seth, L.M. Riddiford, K. Hiruma: Induction of supernumerary larval moulting in the tobacco hornworm *Manduca sexta*: interaction of bisacylhydrazine ecdysteroid agonists with endogenous juvenile hormone. Physiol. Entomol., 34: 30-38, 2009.

2) Hiruma, K., L.M. Riddiford: The molecular mechanisms of cuticular melanization: the ecdysone cascade leading to dopa decarboxylase expression in *Manduca sexta*. Insect Biochem. Mol. Biol., 39: 245-253, 2009.

3) Ueda, H., T. Shinoda, K. Hiruma: Spatial expression of the mevalonate enzymes involved in juvenile hormone biosynthesis in the corpora allata in *Bombyx mori.* J. Insect Physiol., 55: 798-804, 2009.

佐原　雄二

〈原著論文〉

1) Tsukamoto, K., M. Sakaizumi, M. Hata, Y. Sawara, J. Eah, C.-B. Kim and M. Nonaka (2009) Dichotomous haplotypic lineages of the immunoproteasome subunit genes, PSMB8 and PSMB10, in the MHC Class I region of a teleost, Medaka, *Oryzias latipes*. Mol. Biol. Evol., 26, 769-781.

田中　和明

〈原著論文〉

1) Sano,T., S. Isono, K. Matsuki, Y. Kawaguchi-Ito, K. Tanaka, K. Kond, A. Iijima, M. Bar-Joseph: Vegetative propagation and its possible role as a genetic bottleneck in the shaping of the Apple fruit crinkle viroid populations in apple and hop plants. Virus Genes, 37(3):

298-303, 2008.
2）Sato, G., K. Tanaka, T. Hosoya: Bambusicolous fungi in Japan (8)：a new species of *Pseudolachnella* from Island Yakushima, southern Japan. Mycoscience, 49：392-394, 2008.
3）Suzuki, Y., S. Hatakeyama, Y. Harada, K. Tanaka：*Polystigma fulvum*, a red leaf blotch pathogen on leaves of *Prunus* spp., has the *Polystigmina pallescens* anamorph/andromorph. Mycoscience, 49：395-398, 2008.
4）遠藤茉惟・畠山聡・原田幸雄・田中和明：日本新産種*Ciliochorella castaneae*（分生子果不完全菌類）の記載と*Ciliochorella*属菌の分布および系統について. 日本菌学会会報., 49：115-120, 2008.
5）Shabunin, D.A., K. Tanaka, V.A. Melnik, T. Fujita：New species of *Vasudevella* on *Gypsophila paniculata* from Russia. Mycology and Phytopathology, 42：470-474, 2008.
6）Murakami, T., T. Tsushima, N. Takada, K. Tanaka, K. Nihei, T. Miura, M. Hashimoto: Four analogues of spiroleptosphol isolated from *Leptosphaeria doliolum*. Bioorganic & Medicinal Chemistry, 17：492-495, 2009.
7）Kudo, S., T. Murakami, J. Miyanishi, K. Tanaka, N. Takada, M. Hashimoto: Isolation and absolute stereochemistry of optically active sydonic acid from *Glonium* sp. (Hysteriales, Ascomycota). Biosci Biotechnol Biochem, 73：203-204, 2009.
8）Tayone, W.C., S. Shindo, T. Murakami, M. Hashimoto, K. Tanaka, N. Takada：Absolute stereochemistry and conformational analysis of achaetolide isolated from *Ophiobolus* sp. Tetrahedron, 65：7464-7467, 2009.
9）Kamiyama, M., K. Hirayama, K. Tanaka, V.A. Mel'nik: Transfer of *Asterosporium orientale* to the genus *Prosthemium* (Pleosporales, Ascomycota)：a common coelomycetous fungus with stellate conidia occurring on twigs of *Betula* spp. Mycoscience, 50(6)(in press, doi：10.1007/s10267-009-0497-x), 2009.

松岡　教理

〈著書〉

1）松岡教理（2009）進化学について(4). 蒲生野：No.41：87-91.

〈原著論文〉

1）Matsuoka,N. (2008) Molecular phylogeny of primitive echinoids, Cidaroida and Diadematida. Trends in Comparative Biochemistry & Physiology, 12：123-129.

【山形大学】

俵谷　圭太郎

〈著書〉

1）俵谷圭太郎，廣瀬僚太（2008）：VA菌根菌の育苗時接種によるネギのリン酸減肥，生物機能を活用した病害虫・雑草管理と肥料削減 218-221

〈原著論文〉

1）Turjaman M, Tamai Y, Sitepu IR, Santoso E, Osaki M, Tawaraya K（2008）Improvement of early growth of two tropical peat-swamp forest tree species Ploiarium alternifolium and Calophyllum hosei by two arbuscular mycorrhizal fungi under greenhouse conditions. New Forests 36:1-12

2）Khan MSH, Tawaraya K, Sekimoto H, Koyama H, Kobayashi Y, Murayama T, Chuba M, Kambayashi M, Shiono Y, Uemura M, Ishikawa S, Wagatsuma T（2009）Relative abundance of Delta(5)-sterols in plasma membrane lipids of root-tip cells correlates with aluminum tolerance of rice. Physiologia Plantarum 135:73-83

生井　恒雄

〈原著論文〉

1）生井恒雄・大友宏輔（2008）：1穂内のいもち病罹病全籾から分離されたPyricularia oryzaeのpot2遺伝子型日本植物病理学会報74：340-342.

2）Kei Sugawara・Ayako Mtsudate・Yoko Ito and Tsuneo Namai（2009）：Anthracnose of Christmas rose caused by Collettrichum sp. J Gen. Plant Pathol 75：163-166.

長谷　修

〈原著論文〉

1）Hase,S.,Takahashi,S., Takenaka, S., Nakaho, K., Arie, T., Seo,S., Ohashi, Y., and Takahashi, H.（2008）Involvement of jasmonic acid signalling in bacterial wilt disease resistance induced by biocontrol agent *Pythium oligandrum* in tomato. Plant Pathology 57,870-876

2）Sekine, K.T., Kawakami, S., Hase, S., Kubota, M., Ichinose, Y., Shah, J., Kang, H-G., Klessig, D.F., and Takahashi, H.（2008）High level expression of a virus resistance gene, *RCY1*, confers extreme resistance to *Cucumber mosaic virus* in *Arabidopsis thaliana*. Molecular Plant-Microbe Interactions 21,1398-1407

3）Ishihara, T., Sekine, K.-T., Hase, S., Kanayama, Y., Seo, S., Ohashi, Y., Kusano, T., Shibata, D., Shar, J. and Takahashi, H.（2008）Overexpression of the *Arabidopsis thaliana EDS5* gene enhances resistance to viruses. Plant Biology 10, 451-461.

安田　弘法

〈著書〉

1）安田弘法・城所隆・田中幸一（2009）新たな害虫管理に向けて，pp.1-16,「種間相互作用と害虫管理」（安田弘法・城所　隆・田中幸一編），京都大学学術出版会

2）安田弘法・梶田幸江・滝澤匡（2009）捕食者-餌系の種間相互作用，pp.19-44,「種間相互作用と害虫管理」（安田弘法・城所　隆・田中幸一編），京都大学学術出版会

〈原著論文〉

1）Putra N., Yasuda H., and Sato S.（2009）Oviposition preference of two hoverfly species in response to risk of intraguild predation. Applied Entomology and Zoology, 44:29-36

2）Sato S., Kushibuchi K., Yasuda H.（2009）Efficiency and durability of reflex bleeding of an

aphidophagous ladybird as a protection from intraguild predation. Applied Entomology and Zoology, 44, 203-206

3）Sato S., Yasuda H., Evans E.W., Dixon AFG（2009）Different larval vulnerabilities of two predatory ladybirds as intraguild prey. Entomological Science, 12：111-115

4）Sato S., Yasuda H., Kindlmann P., Shinya K., AFG Dixon（2009）Effects of intra and inter-specific interactions on survival of two predatory ladybirds in relation to prey abundance. Applied Entomology and Zoology, 44：215-221

5）Kajita Y. , E. W. Evans, and H. Yasuda（2009）Reproductive Responses to Varying Prey Availabilities: Comparison Between an Invasive Species and a Native Species. Environmental Entomology, 38(4)：1-10

我妻　忠雄

〈原著論文〉

1）MSH Khan,K Tawaraya・・・and T Wagatsuma*（2009）:Relative abundance of Δ5-sterols in plasma membrane lipids of root-rip cells correlates with aluminum tolerance of rice. Physiologia Plantarum, 135,73-83.

2）A Akhter, MSH Khan・・・and T Wagatsuma*（2009:Greater contribution of low-nutrient tolerance to sorghum and maize growth under combined conditions with high aluminum and low nutrients in solution culture simulating the nutrient status of tropical acid soils. Soil Science and Plant Nutrition, 55, 394-406.

3）A Akhter, T Wagatsuma, MSH Khan and K Tawaraya（2009）: Comparative studies on aluminum tolerance svreening techniques for sorghum, soybean, and maize in simple solution culture, American Journal of Plant Physiology, 4,1-8.

4）小山博之，小林安文，Kinraide TB，我妻忠雄（2008）：細胞膜表面のイオン活動度から見えるもの（解説），日本土壌肥料科学雑誌，79, 500-504.

2　生物資源科学専攻

(1)　生物機能開発学連合講座

【岩手大学】

磯部　公安

〈原著論文〉

1）Isobe, K., Kato, A., Sasaki, Y., Kataoka, M., Ogawa, J., Iwasaki, A., Hasegawa, J. and Shimizu, S.（2008）Superoxide dismutases exhibit oxidase activity on aldehyde alcohols similar to alcohol oxidase from *Paenibacillus* sp. AIU 311. J. Biosci. Bioeng. 105：666-670.

2）Thiwthong, R., Kataoka, M., Iwasaki, A., Watanabe, H., Hasegawa, J., Isobe, K. and Shimizu, S.（2008）Aldehyde oxidase carrying an ususual subunit structure from *Pseudomo-*

nas sp. MX-058. Microbial Biotechnol. 1：395–402.

3）Sasaki, Y., Isobe, K., Kataoka, M., Ogawa, J., Iwasaki, A., Hasegawa, J. and Shimizu, S.（2008）Purification and characterization of a new aldehyde oxidase from *Pseudomonas* sp. AIU 362. J. Biosci. Bioeng. 106 ： 297–302.

4）Isobe, K., Ishikura, K. and Shimizu, S.（2008）Identification and characterization of enzyme catalyzing conversion of N^{α}-benzyloxycarbonyl-L-aminoadipic-δ-semialdehyde to N^{α}-benzyloxycarbonyl-L-amino- adipic acid in *Aspergillus niger* AKU 3302. J. Biosci. Bioeng. 106：409–411.

5）Isobe, K., Takahashi, T., Ogawa, J., Kataoka, M. and Shimizu S.（2009）Production and characterization of alcohol oxidase from *Penicillium purpurescens* AIU 063. J. Biosci. Bioeng. 107：108–112.

6）Isobe, K., Tamauchi, H. and Nagasawa, S.（2009）Microbial resolution of N^{α}-acetyl-DL-lysine with *Rhodococcus* sp. AIU Z-35-1. J. Mol. Catal. B：Enzymatic, 59：47–51.

平　秀晴

〈原著論文〉

1）Miyazaki, M., Yamashita, T., Miyazaki, T., Taira, H. and Suzuki, A.（2009）Gene delivery to renal tubular epithelial cells using adeno-associated virus vector in domestic cat. Research in Veterinary Science, 87, 408–412

山下　哲郎

〈原著論文〉

1）Ozaki, T., Yamashita, T. and Ishiguro, S.（2008）ERp57-associated Mitochondrial m-Calpain Truncates Appoptosis-Inducing Factor *Biochim. Biophys. Acta-MCR* 1783, 1995–1963

2）Oikawa, K., Nakayama, K., Kakizaki, T., Yamashita,T., Inaba, T.（2008）Identification and characterization of Cor413im proteins asnovel components of the chloroplast inner envelope *Plant Cell Environ*. 31, 1470–1483

3）Hashizume, T., Shida, R., Suzuki, S., Nonaka, S., Yonezawa, C., Yamashita, T., Kasuya, E., Sutoh, M, Olah, M., Szekacs, D., Nagy, G.M.（2008）Salsolinol is present in the bovine posterior pituitary gland and stimulates the release of prolactin both in vivo and in vitro in ruminants *Domest. Anim. Endocrin*. 34, 146–152

4）Ito-Inaba, Y., Hida, Y., Ichikawa, M., Kato, Y. and YAMASHITA, T.（2008）Characterization of the plant uncoupling protein, SrUCPA, expressed in spadix mitochondria of the thermogenic skunk cabbage *J. Exp. Bot*. 59, 995–1005

5）Miyazaki, M., Yamashita, T., Miyazaki, T., Taira, H. and Suzuki, A. Gene delivery to renal tubular epithelial cells using adeno-associated virus vector in domestic cat. Research in Veterinary Science, 87, 408–412（2009）

【弘前大学】

石田　幸子

〈原著論文〉

1）Sugiyama, D., Okano, D., Fukushima, M., Ohmori, S., Niinuma, K., Yoshida, W. and Ishida, S.：Effects of Bisphenol A on the freshwater planarians. Bull. Fac. Agric. & Life Sci. Hirosaki Univ. No.11：1-19, 2008.

2）Egger, B.[1], Steinke, D.[2], Tarui, H.[3], Mulder, K.D.[4], Arendt, D[5], Borgonie, G.[4], Funayama, N.[8], Gschwentner, R.[1], Hartenstein, V.[6], Hobmayer, B.[1], Hooge, M.[7], Hrouda, M.[8], Ishida, S., Kobayashi, C.[3], Kuales, G.[1], Nishimura, O.[3], Pfister, D.[1], Rieger, R.[1], Salvenmoser, W.[1], Smith, J. III[9], Technau, U.[10], Tyler, S.[7], Agata, K.[8], Salzburger, W[11]. and Ladurner, P.[1]：To be or not to be a flatworm：the acoel controversy. PloS ONE 4(5)：1-10(e5502), 2009.（[1]Univ. of Innsbruck, [2]Univ. of Guelph, [3]Riken Kobe, [4]Univ. of Ghent, [5]EMBL Heidelberg, [6]Univ. of California, [7]Univ. of Maine, [8]Kyoto Univ., [9]Winthrop Univ., [10]Univ. of Vienna, [11]Univ. of Basel）

黒尾　正樹

〈原著論文〉

1）Inuma, M., Y. Obara, M. Kuro-o：The role of nick formation in delayed quinacrine mustard fluorescence in the C-heterochromatin of *Apodemus argenteus*. Zool. Sci., 26：344-348, 2009.

石黒　誠一

〈原著論文〉

1）Ozaki T, Yamashita T, Ishiguro S.：ERp57-associated mitochondrial μ-calpain truncates apoptosis-inducing factor. Biochim. Biophys. Acta, 1783(10)：1955-63, 2008.

橋本　勝

〈原著論文〉

1）Tayone, W. C., S. Shindo, T. Murakami, M. Hashimoto, K. Tanaka, N. Takada：Absolute stereochemistry and conformational analysis of achaetolide isolated from Ophiobolus sp. *Tetrahedron*, 65：7464-7467, 2009.

2）Murakami, T., N. Takada, M. Hashimoto：Biosynthetic studies of spiroleptosphol. *Bioorg. Med. Chem. Lett.,* 19：1122-1125, 2009.

3）Murakami, T., T. Tsushima, N. Takada, K. Tanaka, K. Nihei, T. Miura, M. Hashimoto：Four Analogues of Spiroleptosphol isolated from *Leptosphaeria doliolum. Bioorg. Med. Chem.* 19：492-495, 2009.

4）Kudo, S., T. Murakami, J. Miyanishi, K. Tanaka, N. Takada, M. Hashimoto：Isolation and absolute stereochemistry of optically active sydonic acid from from Glonium sp.（Hysteriales, Ascomycota）. *Biosci. Biotech. Biochem.* 73：203-204, 2009.

5）橋本勝：Spartan Essentialを導入して ～演習講義「コンピュータ分子設計学」への展開～.

日本化学会情報化学部会誌 26：106-112, 2008.

片方　陽太郎

〈原著論文〉

1）Otsu K., Sato K., Sato M., Ono H., Ohba Y. and Katagata Y.：Impaired activation of caspase cascade during cell death induced by newly synthesized singlet oxygen generator, 1-buthylnaphthalene-4- propionate endoperoxide. Cell Biol Int., 32(11), 1380-1387, 2008.

2）Yamashita M., Takahashi K., Sato M., Otsu K., Hirayama T. and Katagata Y.：Keratin expression in cultured human adenocarcinoma cell lines. J. Dermatol. Sci., 55(2), 59-91, 2009.

宮入　一夫

〈原著論文〉

1）Ogawa, S., Shimizu, T., Ohki, H., Araya, T., Okuno, T. , Miyairi, K. ：Expression, purification and analyses of glycosylation and disulfide bonds of *Stereum purpureum* endopolygalacturonase I in *Pichia pastoris, Protein Expression and Purification* 65：15-22, 2009.

2）Ogawa, S., Saka M., Yoshizaki, T., Shimizu, T., Okuno, T., and Miyairi, K.：Purification, characterization and amino acid sequence of endopolygalacturonases IVa and IVb from fungus *Stereum purpureum. J.Appl. Glycosci.,* 56：261-266, 2009.

高田　晃

〈原著論文〉

1）Tayone, W. C., S. Shindo, T. Murakami, M. Hashimoto, K. Tanaka, N. Takada：Absolute stereochemistry and conformational analysis of achaetolide isolated from Ophiobolus sp. Tetrahedron, 65：7464-7467, 2009.

2）Murakami, T., N. Takada, M. Hashimoto：Biosynthetic studies of spiroleptosphol. Bioorg. Med. Chem. Lett., 19：1122-1125, 2009.

3）Murakami, T., T. Tsushima, N. Takada, K. Tanaka, K. Nihei, T. Miura, M. Hashimoto：Four analogues of spiroleptosphol isolated from *Leptosphaeria doliolum*. Bioorg. Med. Chem. 19：492-495, 2009.

4）Kudo, S., T. Murakami, J. Miyanishi, K. Tanaka, N. Takada, M. Hashimoto：Isolation and absolute stereochemistry of optically active sydonic acid from from *Glonium* sp. (Hysteriales, Ascomycota). Biosci. Biotech. Biochem. 73：203-204, 2009.

殿内　暁夫

〈原著論文〉

1）白神山地の土壌に関する研究（6）佐々木長市，松山信彦，佐瀬隆，殿内暁夫，Shyamal Kumar Paul，松岡嗣彦，加藤幸，野田香織：白神山地の土壌に関する研究(6)．白神研究, 5：26-34（2009）．

2）Tonouchi, A.：Isolation and characterization of a novel facultative anaerobic filamentous fungus from Japanese rice field soil. *Int. J. Microbiol.* in press (2008).

吉田　孝

〈原著論文〉

1）Sakai, K., K. Ohtaki, H. Koizumi, S. Sato, H. Suzuki, N. Tachibana, T. Ohmachi, T. Yoshida: Effective purification of 1, 4-beta-endoglucanase (EG66) from a marine mollusc, Patinopecten yessoensis, by cellulose column chromatography. *Journal of Applied Glycoscience,* 56: 13-16, 2009.

【山形大学】

上木　厚子

〈原著論文〉

1）D. Suzuki, A. Ueki＊, A. Amaishi and K. Ueki (2008):*Desulfoluna butyratoxydans* gen. nov., sp. nov., a novel, Gram-negative, butyrate-oxidizing, sulfate-reducing bacterium isolated from an estuarine sediment in Japan. International Journal of Sysematic and Evolutionary Microbiology. 58: 826-832.

2）T. Nishiyama, A. Ueki＊, N. Kaku and K. Ueki (2009):*Clostridium sufflavum* sp. nov., isolated from a methanogenic reactor treating cattle waste. International Journal of Sysematic and Evolutionary Microbiology. 59: 981-986.

3）松田義弘, 上木厚子, 上木勝司　(2009). 各種果実から分離された香気生産性野生酵母の同定と香気生産特性. 日本醸造協会誌.　104: 57-74.

4）D. Suzuki, A. Ueki＊, A. Amaishi and K. Ueki (2009):*Desulfovibrio portus* sp. nov., a novel sulfate-reducing bacterium in the class *Deltaproteobacteria* isolated from an estuarine sediment. Journal General and Applied Microbiology. 55:125-133.

上木　勝司

〈原著論文〉

1）Daisuke Suzuki, Atsuko Ueki, Aya Amaishi, and Katsuji Ueki (2008):Desulfoluna butyratoxydans gen. nov., sp. nov., a novel, Gram-negative, butyrate-oxidizing, sulfate-reducing bacterium isolated from an estuarine sediment in Japan. International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, 58, 826-832

2）松田義弘, 上木厚子, 上木勝司 (2009)：各種果実から分離された香気生産性野生酵母の同定と香気生産特性。日本醸造協会誌, 104:57-74.

3）Daisuke Suzuki, Atsuko Ueki, Aya Amaishi, and Katsuji Ueki (2009):Desulfovibrio portus sp. nov., a novel sulfate-reducing bacterium in the class Deltaproteobacteria isolated from an estuarine sediment. Journal of General and Applied Microbiology, 55, 125-133.

加来　伸夫

〈原著論文〉

1）T. Nishiyama, A. Ueki, N. Kaku and K. Ueki（2009）：Clostridium sufflavum sp. nov., a novel, yellow-pigment producing, cellulolytic bacterium isolated from plant residue in a methanogenic reactor of cattle waste. International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology, 59(5), 981-986.

小関　卓也

〈原著論文〉

1）Ardiansyah, Y. Ohsaki, H. Shirakawa, T. Koseki, and M. Komai（2008）：Novel effects of a single administration of ferulic acid on the regulation of blood pressure and hepatic lipid metabolic profile in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. Journal of Agricultural and Food Chemistry, 56, 2825-2830.

2）T. Koseki, Y. Mese, N. Nishibori, K. Masaki, T. Fujii, T. Handa, Y. Yamane, Y. Shiono, T. Murayama, and H. Iefuji（2008）：Characterization of an α-L-rhamnosidase from *Aspergillus kawachii* and its gene. Applied Microbiology and Biotechnology, 80, 1007-1013.

3）Y. Shiono, Y. Seino, T. Koseki, T. Murayama, and K. Kimura（2008）：. Antarones A and B, Two Polyketides from an Endophytic *Penicillium antarcticum*. Zeitschrift fuer Naturforschung, 63b, 909-914.

4）Y. Shiono, F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, T. Funakoshi（2008）：Two Cyathane-type Diterpenoids from the Liquid Culture of Strobilurus tenacellus. Chemistry & Biodiversity, 5, 1811-1816.

5）F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, and Y. Shiono（2008）：A new secolactarane-type sesquiterpene from strobilurus tephanocystis. Natural Product Research, 22, 1007-1012.

6）F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, K. Okada, and Y. Shiono（2008）：Cadinane-type sesquiterpenoids, strobilols E-K, from the liquid culture of Strobilurus ohshimae. Helvetica Chimica Acta, 91, 1595-1603.

7）Y. Shiono, K. Shimanuki , F. Hiramatsu, T. Koseki, T. Murayama, N. Fujisawa, K. Kimura（2008）：Pyrrospirones A and B, apoptosis inducers in HL-60 cells, from an endophytic fungus, Neonectria ramulariae Wollenw KS-246. Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters 18, 6050-6053.

【帯広畜産大学】

大和田　琢二

〈原著論文〉

1）Wei M, Yokoyama T, Minamisawa K, Mitsui H, Itakura M, Kaneko T, Tabata S, Saeki K, Omori H, Tajima S, Uchiumi T, Abe M, and Ohwada, T. 2008. Soybean seed extract preferentially express genomic loci of Bradyrhizobium japonicum in the initial interaction with soybean, Glycine max (L.) Merr. DNA Research 15:201-214

2) Itakura M, Saeki K, Omori H, Yokoyama T, Kaneko T, Tabata S, Ohwada, T, Tajima S, Uchiumi T, Honnma K, Fujita K, Iwata H, Saeki Y, Hara Y, Ikeda S, Eda S, Mitsui H, and Minamisawa K. 2009. Genomic comparison of Bradyrhizobium japonicum strains with different symbiotic nitrogen-fixing capabilities and other Bradyrhizobiaceae members. International Society for Microbial Ecology 3:326-339.

(2) ゲノム工学連合講座

【岩手大学】

高畑　義人

〈著書〉

1) Takahata, Y. (分担執筆) (2009) Floral variation in the subtribe Brassicinae with special reference to pollination strategies and pollen-ovule ratios. In, Biology and Breeding of Crucifers (Gupta, S.K. ed.), CRC Press, New York, pp. 69-78.

2) Pratap, A., Gupta, S.K. and Takahata, Y. (分担執筆) (2009) Microsporogenesis and haploidy breeding. In, Biology and Breeding of Crucifers (Gupta, S.K. ed.), CRC Press, New York, pp. 293-307.

〈原著論文〉

1) Tsuwamoto, R., Fukuoka, H. and Takahata, Y. (2008) *GASSHO1* and *GASSHO2* encoding a putative leucine-rich repeat transmembrane-type receptor kinase are essential for the normal development of the epidermal surface in Arabidopsis embryos. Plant J. 54:30-42.

2) Wang, K., Takahata, Y., Kono, Y. and Kaizuma, N. (2008) Allelic differentiation of Kunitz trypsin inhibitor in wild soybean (*Glycine soja*). Theor. Appl. Genet. 117:565-573.

3) Tsuwamoto, R. and Takahata, Y. (2008) Identification of genes specifically expressed in androgenesis-derived embryo in rapeseed (*Brassica napus* L.) . Breed. Sci. 58:251-259.

4) Takahata, Y., Konno, N. and Hinata, K. (2008) Genotypic variation for floral characters in *Brassica* and allied genera with special reference to breeding system. Breed. Sci. 58:385-392.

横井　修司

〈原著論文〉

1) Takahashi, Y., Terashima, K.M., Yokoi, S., Innan, H. and Shimamoto, K. (2009) Variations in Hd1 proteins, *Hd3a* promoters, and *Ehd1* expression levels contribute to diversity of flowering time in cultivated rice. *Proc. Nat. Acad. Sci. USA* 106:4555-4560

【弘前大学】

菊池　英明

〈原著論文〉

1）Kobayashi, D., S. Ahmed, M. Ishida, S. Kasai, H. Kikuchi： Calcium/Calmodulin Signaling elicits Release of Cytochrome C during 2, 3, 7, 8-Tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin-induced Apoptosis in the Human Lymphoblastic T-cell line, L-MAT. Toxicology, 258：25–32, 2009.

2）Kudo, K., T. Takeuchi, Y. Murakami, M. Ebina, H. Kikuchi：Characterization of the region of the aryl hydrocarbon receptor required for ligand dependency of transactivation using chimeric receptor between *Drosophila and Mus musculus*. Biochim. Biophys. Acta, 1789：477–486, 2009.

3）Kasai, S., H. Kikuchi；Inhibitory mechanism of the tyrosine kinase inhibitors herbimycin A, genistein and tyrphostin B48 with regard to the function of the aryl hydrocarbon receptor in Caco-2 cells. Biosci. Biotechnol. Biochem. (in presss).

姫野　俵太

〈原著論文〉

1）Ujiie, H., Matsutani, T., Tomatsu, H., Fujihara, A., Ushida, C., Miwa, Y., Fujita, Y., Himeno, H., Muto, A.：*Trans*-translation is involved in the CcpA-dependent tagging and degradation of TreP in *Bacillus subtilis.* J. Biochem., 145：59–66, 2008.

2）Hase, Y., Yokoyama, S., Muto, A., Himeno, H.：Removal of a ribosome small subunit-dependent GTPase confers salt-resistance on *Escherichia coli* cells. RNA, 15：1766–1774, 2009.

3）Une, M., Kurita, D., Muto, A., Himeno, H.：*Trans*-translation by tmRNA and SmpB. Nucleic Acids Symp. Ser., 53：305–306, 2009.

4）Hase, Y., Yokoyama, S., Kimura, T., Goto, S., Muto, A., Himeno, H.：Physiological role of RsgA in ribosome biogenesis. Nucleic Acids Symp. Ser., 53： 307–308, 2009.

原田　竹雄

〈原著論文〉

1）Wang, A., J. Yamakake, H. Kudo, Y. Wakasa, Y. Hatsuyama, M. Igarashi, A. Ksai, T. Li, T. Harada：Null mutation of the *MdACS3* gene, coding for a ripening-specific 1-aminocyclopropane-1-carboxylate synthase, leads to long shelf life in apple fruit. Plant Physiol., 151：391–399, 2009.

2）Kondo, S., S. Meemarka, Y. Ban, T. Moriguchi, T. Harada： Effects of auxin and jasmonates on 1-aminocyclopropane-1- carboxylate（ACC）synthase and ACC oxidase gene expression during ripening of apple fruit. Postharvest Biology and Technology, 51：281–284, 2008.

3）Wang, A. D. Tan, M. Tatsuki, A. Kasai, T. Li, H. Saito, T. Harada： Molecular mechanism of distinct ripening profiles in apple fruit of 'Fuji' and its early maturing sports. Postharvest Biology and Technology, 52：38–43, 2008.

牛田　千里

〈原著論文〉

１）Ujiie, H., Matsutani, T., Tomatsu, H., Fujihara, A., Ushida, C., Miwa, Y., Fujita, Y., Himeno, H., Muto, A.： Trans-translation is involved in the CcpA-dependent tagging and degradation of TreP in Bacillus subutilis. J. Biochem. 45：59–66.

千田　峰生

〈原著論文〉

１）Kasai, A., S. Ohnishi, H. Yamazaki, H. Funatsuki, T. Kurauchi, T. Matsumoto, S. Yumoto, M. Senda： Molecular mechanism of seed coat discoloration induced by low temperature in yellow soybean. Plant Cell Physiol., 50：1090–1098, 2009.

２）Ikeda, T., S. Ohnishi, M. Senda, T. Miyoshi, M. Ishimoto, K. Kitamura, H. Funatsuki：A novel major quantitative trait locus controlling seed development at low temperature in soybean（*Glycine max*）. Theor. Appl. Genet., 118：1477–1488, 2009.

柏木　明子

〈原著論文〉

１）Mori, K., A. Kashiwagi, I. Urabe, T. Yomo：Evolution of carrying capacity in evolution experiments focusing on a single locus on the *Escherichia coli* chromosome. BioSystems, 95（2）：114–119, 2009.

２）Tsuru, S., J. Ichinose, A. Kashiwagi, B.-W. Ying, K. Kaneko, T. Yomo：Noisy growth rate of cell size fluctuate protein concentration in bacteria. Pysical Biology, 6：036015（9pp）, 2009.

【山形大学】

阿部　利徳

〈原著論文〉

１）阿部利徳・高橋新也・野田真紀子（2008）：精白米における糖組成・含量の品種間差異および年次間変動，育種学研究，10，57–61

２）V.C. Lapitan, E.D.Redona, T.Abe, D.S. Brar（2009）：Molecular characterization and agronomic performance of DH lines from the F_1 of *indica* and *japonica* cultivars of rice（*Oryza sativa* L.）, Field Crop Research, 112, 222–228

笹沼　恒男

〈原著論文〉

１）T.Sasanuma, D.Sehgal , T.Sasakuma and S.N.Raina（2008）：Phylogenetic analysis of *Carthamus* species based on the nucleotide sequence of nuclear SACPD gene and chloroplast trnL-trnF IGS region. Genome 51, 721–727

２）D.Sehgal, V.R.Rajpal, S.N. Raina, T.Sasanuma and T.Sasakuma（2008）：Assaying polymorphism at DNA level for genetic diversity diagnostics of the safflower（*Carthamus tinctorius* L.）world germplasm resources. Genetica, in press.

佐藤　英世

〈著書〉

1）佐藤英世（2008）シスチン・グルタミン酸トランスポーターと血漿レドックスバランス 腎と透析 65, pp.671-675.

〈原著論文〉

1）Churchman, A. T., Anwar, A. A., Li F. Y. L., Sato, H., Ishii, T., Mann, G. E., Siow, R. C.（2009）Transforming Growth Factor-B1 elicits Nrf2-mediated antioxidant responses in aortic smooth muscle cells. Journal of Cellullar and Molecular Medicine（in press）

2）Massie, A., Schallier, A., Mertens, B., Vermoesen, K., Bannai, S., Sato, H., Smolders, I., and Michotte, Y.（2008）Time-dependent changes in xCT protein expression in the striatum of the hemi-Parkinson rat：use of a new polyclonal antibody. NeuroReport 19：1589-1592.

3）Iuchi, Y., Kibe, N., Tsunoda, S., Okada, F., Bannai, S., Sato, H., and Fujii, J.（2008）Deficiency of the cystine-transporter gene, xCT, does not exacerbate the deleterious phenotypic consequences of SOD1 knockout in mice. Molecular and Cellullar Biochemistry 319：125-132.

4）Igarashi, K., Mikami, T., Takahashi, Y., and Sato, H.（2008）Comparison of the preventive activity of isorhamnetin glycosides from Atsumi-kabu（Red Turnip, Brassica, campestris L.）leaves on carbon tetrachloride-induced liver injury in mice. Bioscience Biotechnology Biochemistry 72：856-860.

豊増　知伸

〈著書〉

1）「発芽生物学」-種子発芽の生理・生態・分子機構（編集　吉岡俊人，清和研二：ISBN978-4-8299-1072-6）第３章　発芽と光―チャンスをつかむメカニズム，豊増知伸，吉岡俊人，清和研二, pp. 71-86, コラム2　レタス種子と植物ホルモン―大学院時代の２つの発見, 豊増知伸, pp. 87-89，第13章　環境生理学的発芽実験法　Ⅰ．光処理，豊増知伸，pp.299-301，文一総合出版（2009年）

〈原著論文〉

1）Toyomasu, T., Niida, R., Kenmoku, H., Kanno, Y., Miura, S., Nakano, C., Shiono, Y., Mitsuhashi, W., Toshima, H., Oikawa, H., Hoshino, T., Dairi, T., Kato, N., and Sassa, T.：Identification of diterpene biosynthetic gene clusters and functional analysis of labdane-related diterpene cyclases in Phomopsis amygdali. Biosci. Biotechnol. Biochem., 72：1038-1047（2008）

2）Sawada, Y., Katsumata, T., Kitamura, J., Kawaide, H., Nakajima, M., Asami, T., Nakaminami, K., Kurahashi, T., Mitsuhashi, W., Inoue, Y., and Toyomasu, T.：Germination of photoblastic lettuce seeds is regulated via the control of endogenous physiologically active gibberellin contents, rather than of gibberellin responsiveness. J. Exp. Bot., 59：3383-3393（2008）

３）Endo, A., Sawada, Y., Takahashi, H., Okamoto, M., Ikegami, K., Koiwai, H., Seo. M., Toyomasu, T., Mitsuhashi, W., Shinozaki, K., Nakazono, M., Kamiya, Y., Koshiba, T., and Nambara, E.: Drought induction of Arabidopsis 9-cis-epoxycarotenoid dioxygenase occurs in vascular parenchyma cells. Plant Physiol., 147:1984-1993 (2008)

４）Minami, A., Tajima, N., Higuchi, Y., Toyomasu, T., Sassa, T., Kato, N., and Dairi, T.:Identification and functional analysis of brassicicene C biosynthetic gene cluster in Alternaria brassicicola. Bioorg. Med. Chem. Lett., 19:870-874 (2009).

５）Toyomasu, T., Kaneko, A., Tokiwano, T., Kanno, Y., Kanno, Y., Niida, R., Miura, S., Nishioka, T., Ikeda, C., Mitsuhashi, W., Dairi, T., Kawano, T., Oikawa, H., Kato, N., and Sassa, T.: Biosynthetic gene-based secondary metabolite screening:a new diterpene, methyl phomopsenonate, from the fungus Phomopsis amygdali. J. Org. Chem., 74:1541-1548 (2009)

【帯広畜産大学】

三浦　秀穂

〈原著論文〉

１）Kato K., Kidou S, Miura H 2008. Molecular cloning and mapping of casein kinase 2 alpha and beta subunit genes in barley. Genome 51:208-215

石井　達

〈原著論文〉

１）Ishii S, Katsumura T, Ooyauchi K, Shiozuka C, Kawasaki K, Takigawa S, Fukushima T, Tokuji Y, Kinoshita M, Ohnishi M, Kawahara M, Ohba K. 2008. Anti-inflammatory activity of buckwheat sprout in lipopolysaccharide-activated human colon cancer cells and mice. Bioscience, biotechnology, and biochemistry 73:3148-3157

加藤　清明

〈原著論文〉

１）Ariyaratne M, Takamure I, and Kato K 2009. Shoot branching control by reduced culm number 4 in rice (Oryza sativa L.). Plant Science 176:744-748.

２）Yasuno N, I. Takamure, S. Kidou, Y. Tokuji, A. Ureshi, A. Funabiki, K. Ashikaga, U. Yamanouchi, M.Yano, and K.Kato 2009. Rice shoot branching requires an ATP-binding cassette subfamily G protein. New Pytologist 182:91-101.

３）Kato K., Kidou S, Miura H 2008. Molecular cloning and mapping of casein kinase 2 alpha and beta subunit genes in barley. Genome 51:208-215

⑶　生物資源利用学連合講座

【岩手大学】

小野　伴忠

〈著書〉

1）小野伴忠（分担執筆）（2009）8-2-4.マメ類タンパク質の乳化性種子の科学とバイオテクノロジー（原田久也監修／種子生理化学研究会編集），学会出版センター，東京，pp.302-306.

〈原著論文〉

1）Chen, Y., Yamaguchi, S., and Ono, T.（2009）The Mechanism of the Chemical Composition Changes of Yuba Prepared by a Laboratory Processing Method. *J. Agric. Food Chem.*, 57, 3831-3836.（March 18）

2）Onodera, Y., Ono, T., Nakasato, K., and Toda, K.（2009）The homogeneous and finer structure of tofu is depend on both the 11S/7S protein ratio in soymilk and coagulant concentration. *Food Sci. Tech. Res.,* 15(3), 265-274.

長澤　孝志

〈著書〉

1）長澤孝志（分担執筆）（2008）わかりやすい食品化学（吉田勉監修，早瀬文孝，佐藤隆一郎編著），三共出版，東京，pp23-63.

〈原著論文〉

1）Park,K.O.,Ito,Y.Nagasawa,T.,Choi,M.R.,Nishizawa,N.（2008）Effects of dietary Korean proso-millet protein on plasma adiponectin, HDL3 cholesterol, insulin levels, and gene expression in obese Type2 diabetic mice. Biosci. Biotechnol. Bichem. 72:2918-2925.

2）Cui, X., Urita,S., Imanishi, S., Nagasawa,T.,Suzuki,K.（2008）Isolation and characterization of a 41kDa sericin from the wild silkmoth Antheraea yamamai. J. Insect Biotechnol. Sericol. 78:11-16（2009）.

3）Nishizawa,N.,Togawa,T.,Park,KO,Sato,D.,Miyakoshi,Y.,Inagaki,K.,Ohmori,N.,Ito,Y.,Nagasawa,T.（2009）Dietary Japanese millet protein ameliorates plasma levels of adiponectin, glucose, and lipids in Type2 diabetic mice. Biosci. Biotechnol. Biochem. 73:351-360.

木村　賢一

〈原著論文〉

1）Shiono, Y., Seino, Y., Koseki, T., Murayama, T. and Kimura, K.（2008）Antarones A and B, two polyketides from an endophytic *Penicillium antarcticum*. Z. Naturforsch, 63b, 909-914.

2）Ogasawara, Y., Yoshida, J., Shiono, Y., Miyakawa, T. and Kimura, K.（2008）New eremophilane sesquiterpenoid compounds, eremoxylarins A and B directly inhibit calcineurin in a manner independent of immunophillin. J. Antibiot., 61, 496-502.

3）Nishikawa, K., Aburai, N., Yamada, K., Koshino, H., Tsuchiya, E. and Kimura, K.（2008）A bisabolane sesquiterpenoid endoperoxide, 3,6-Epidioxy-1,10-bisaboladiene was isolated from *Cacalia delphiniifolia* as an anti-tumor substance and induced apoptosis, Biosci. Biotech. Biochem., 72, 2463-2466.

4）Shiono, Y., Shimanuki, K., Hiramatsu, F., Koseki, T., Murayama, T., Fujisawa, N. and Kimu-

ra, K. (2008) Pyrrospirones A and B, apoptosis inducers in HL-60 cells, from an endophytic fungus, *Neonectria ramulariae* Wollenw KS-246. Bioorg. Med. Chem. Lett., 18, 6050-6053.
5) Fukuda, I., Ito, A., Hirai, G., Nishimura, S., Kawasaki, H., Saitoh, H., Kimura, K., Sodeoka, M. and Yoshida M. (2009) Ginkgolic acid inhibits protein SUMOylation by blocking formation of the E1-SUMO intermediate. Chem. & Biol. 16, 133-140.

小藤田　久義

〈原著論文〉

1) Fujiwara, Y., Mangetsu, M., Yang, P., Kofujita, H., Suzuki, K., Ohfune, Y. and Shinada, T. (2008) A Quinone Isolated from the Nest of Vespa simillima and Its Growth-Inhibitory Effect on Rat Liver Cancer Cells. Biologocal & Pharmaceutical Bulletin 31:722-725.
2) Sato, M., Seki, K., Kita, K., Moriguchi, Y., Yunoki, K., Kofujita, H. and Ohnishi, M. (2008) Prominent Differences in Leaf Fatty Acid Composition in the F_1 Hybrid Compared with Parent Trees Larix gmelinii var. japonica and L. kaempferi. Bioscience Biotechnology and Biochemistry 72:2895-2902.
3) 大橋真吾，松原和衛，出口善隆，小藤田久義（2009）ライオン（Panthra leo）排泄物に対するニホンジカ（Cervus nippon）の忌避現象 Aroma Research 37:50-53.

塚本　知玄

〈著書〉

1) 塚本知玄（分担執筆）(2009) 種子の科学とバイオテクノロジー（原田久也監修，種子生理生化学研究会編），学会出版センター，東京，pp.354-358.

三浦　靖

〈著書〉

1) 三浦　靖（分担執筆）(2008)〈特性評価／分散凝集／取扱い／処理〉スラリーの安定化技術と調製事例．情報機構，東京，pp.461-470.
2) 三浦　靖（分担執筆）(2009) 各種乳化技術ノウハウ・事例集．情報機構，東京，pp.397-403，404-410.

〈原著論文〉

1) 岩瀬祥一, 三浦　靖，小林昭一（2008）市販食パンのすだちに関する2次元離散フーリエ変換法によるディジタル画像解析．日本官能評価学会誌　12(1):17-25.
2) Kobayashi, S., Miwa, S., Ohtake, F., Miura, M., Muraoka, H. and Ogawa, S. (2008) Spectral Analyses of Interaction between Congo Red and Cyclodextrins or Maltooligosaccharides. *J. Appl. Glycosci*. 55(2):75-79.
3) Kobayashi, S., Miwa, S., Tanaka, I., Mikuni, K., Miura, M., Ogawa, S., Takahashi, K. (2008) Spectral analyses of interaction between congo red and cycldextrins at various pH. *J. Appl. Glycosci*. 55(3):173-177.

伊藤　芳明

〈原著論文〉

1）Park, K.O., Ito, Y., Nagasawa, T., Choi, M.R. and Nishizawa, N.（2008）Effects of dietary Korean proso-millet protein on plasma adiponectin, HDL cholesterol, insulin levels, and gene expression in obese type 2 diabetic mice. Biosci. Biotechnol. Biochem. 72：2918–2925.

2）Nishizawa, N., Togawa, T., Park, K.O., Sato, D., Miyakoshi, Y., Inagaki, K., Ohmori, N., Ito, Y. and Nagasawa, T.（2009）Dietary Japanese millet protein ameliorates plasma levels of adiponectin, glucose, and lipids in type 2 diabetic mice. Biosci. Biotechnol. Biochem. 73：351–360.

小出　章二

〈原著論文〉

1）Koide, S., Shono, H., Shi, J., Uemura, M., Hara, M.（2008）Changes in antioxidative enzyme activities and physicochemical properties of tomato fruits during post-harvest ripening. Environment Control in Biology, 46(2), 147–153.

2）Koide, S., Takeda, J., Shi, J., Shono, H., Atungulu, G.G.（2009）Disinfection efficacy of slightly acidic electrolyzed water on fresh cut cabbage. Food Control, 20, 294–297.

【弘前大学】

戸羽　隆宏

〈原著論文〉

1）齋藤三季・井澤弘美・戸羽隆宏・柴田治夫・長田恭一：りんご枝おがくずを培地とした鹿角霊芝の脂質代謝調節作用．日本食品科学工学会誌，56：79–84, 2009.

園木　和典

〈原著論文〉

1）Sonoki T, Masai E, Sato K, Kajita S, Katayama Y.：Methoxyl groups of lignin are essential carbon donors in one-carbon metabolism of Sphingomonas sp. SYK-6. Journal of Basic Microbiology. 49(S1)：98–102, 2009.

【山形大学】

芦谷　竜矢

〈原著論文〉

1）Tatsuya Ashitani, Anna-Karin Borg-Karlson, Koki Fujita, Shizuo Nagahama(2008)：Reaction mechanism of direct episulfidation of caryophyllene and humulene, Natural Product Research, 22(6), 495–498

2）Norihisa Kusumoto, Tetsuya Murakami, Yasushi Kawai, Tatsuya Ashitani, Koichi Ogi-

yama, Koetsu Takahashi（2008）：Taxodal, a novel irregular abietane-type diterpene from the cones of Taxodium distichum, Tetrahedron Letters,49, 4845-4847

3）関根伸浩，芦谷竜矢，村山哲也，荻山紘一，高橋孝悦（2009）：Dalbergia latifolia心材の生物活性抽出成分，木材学会誌，55(1)，29-36

4）Ransika De Alwis, Koki Fujita, Tatsuya Ashitani, Ken'ichi Kuroda（2009）：Induced monoterpene and lignin production in mechanically stressed and fungal elicited cultured Cupressus lusitanica cells, Plant Biotechnology Report, 3, 57-65

五十嵐　喜治

〈原著論文〉

1）五十嵐喜治（2008）：食品素材によるアントシアニンの成分特性と機能・利用．日本料理科学会誌．41(3)，164-175.

2）菅原哲也，五十嵐喜治（2008）：オウトウのアントシアニンおよびルチン含有量と品種間差異．日本食品科学工学会誌，55(5)．239-244

塩野　義人

〈原著論文〉

1）Y. Shiono,* K. Shimanuki, F. Hiramatsu, T. Koseki, M. Tetsuya, N. Fujisawa, K. Kimura（2008）：Pyrrospirones A and B, apoptosis inducers in HL-60 cells, from an endophytic fungus, Neonectria ramulariae Wollenw KS-246. Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters. 18, .6050-6053.

2）Y. Ogasawara, J. Yoshida, Y. Shiono, T. Miyakawa, and K. Kimura（2008）：New eremophilane sesquiterpenoid compounds, eremoxylarins A and B directly inhibit calucineurin in a manner independent of immunophilin. J. Antibiotics, 61(8), 496-502.

3）F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, K. Okada, Y. Shiono *(2008)：Cadinane-Type Sesquiterpenoids, Strobilols E ~ K, from the liquid culture of Strobilurus ohshimae. Helv. Chim. Acta. 91, 1595-1603.

4）Y. Shiono,* F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, T. Funakoshi（2008）：Two Cyathane-type Diterpenoids from the Liquid Culture of Strobilurus tenacellus. Chemistry & Biodiversity, 5, 1811-1816.

5）Y. Shiono,* Y. Seino, T. Koseki, T. Murayama, and K. Kimura（2008）：Antarones A and B, Two Polyketides from an Endophytic Penicillium Antarcticum. Zeitschrift fuer Naturforschung, 63b, 909-914.

6）T. Toyomasu, R. Niida, H. Kenmoku, Y. Kanno, S. Miura, C. Nakano, Y. Shiono, W. Mitsuhashi, H. Toshima, H. Oikawa, T. Hoshino, T. Dairi, N. Kato, T. Sassa（2008）：Identification of diterpene biosynthetic gene clusters and functional analysis of labdane-related diterpene cyclases in Phomopsis amygdali. Biosci Biotechnol Biochem. 72, 1038-1047.

7）F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, Y. Shiono*（2008）：A new secolactarane-type sesquiterpene from Strobilurus tephanocystis. Natural product Research, 22, 1107-1012.

8）T. Koseki, Y. Mese, N. Nishibori, K. Masaki, T. Fujii, T. Handa, Y. Yamane, Y. Shiono, T. Murayama, and H. Iefuji（2008）：Characterization of an alpha-L-rhamnosidase from Aspergillus kawachii and its gene. Applied Microbiology and Biotechnology, 80, 1007-1013.

9）T. Koseki, Y. Mese, S. Fushinobu, K. Masaki, T. Fujii, K. Ito, Y. Shiono, T. Murayama, and H. Iefuji（2008）：Biochemical characterization of a glycoside hydrolase family 61 endoglucanase from Aspergillus kawachii. Applied Microbiology and Biotechnology, 77, 1279-1285.

高橋　孝悦

〈原著論文〉

1）Norihisa Kusumoto, Tetsuya Murayama, Yasushi Kawai, Tatsuya Ashitani, Koichi Ogiyama, Koetsu Takahashi（2008）：Taxodal, a novel irregular abietane-type diterpene from the cones of *Taxodium distichum.* Tetrahedron letters 49, 4845-4847.

2）Ganis Lukmandaru, Koetsu Takahashi（2008）：Variation in the natural termite resistance of teak（*Tectona grandis* Linn fil）wood as a function of tree age. Ann. For. Sci., 65, 708p1-8.

3）松永恒司・高橋孝悦・溝口晴彦（2008）：樽酒の成分について(3). 日本醸造協会誌 103（10），779-785.

4）関根伸浩，芦谷竜矢，村山哲也，荻山紘一，高橋孝悦 2008（平成20）年：*Dalbergia latifolia* 心材の生物活性抽出成分．木材学会誌，55(1).

夏賀　元康

〈原著論文〉

1）Motoyasu Natsuga, Hiroaki Egashira, Yoshie Sue, Takeshi Ikeda and Mutsuo Ooba（2008）：Determination of Constituents Content of Peanuts Using Near-Infrared Transmission Spectroscopy and Their Relationship with Taste Test Parameters, Journal of Near Infrared Spectroscopy, 16, 365-369.

2）Masataka Kawasaki・Shuso Kawamura・Maki Tsukahara・Shigeru Morita・Michio Komiya・Motoyasu Natsuga（2008）：Near-infrared spectroscopic sensing system for online milk quality assessment in a milking robot, Computers and Electronics in Agriculture, 63(1),

3）川崎正隆，川村周三，中辻浩喜，夏賀元康（2008）：近赤外分光法による搾乳時乳質の連続測定（第１報）―乳質測定装置の精度および生乳の温度変動が精度に与える影響―，農業機械学会誌，71(2)，39-45.

4）夏賀元康・吉田勘一郎・金澤智秋・松野航（2008）：微弱発光分光による農産物の品質測定の可能性(2)，国際食品工業展FOOMA2008アカデミックプラザ研究発表要旨集，226-229.

5）Shuso Kawamura, Kazuhiro Takekura, Mio Yokoe, Jun-ichi Himoto, Hideyuki Takenaka, Motoyasu Natsuga（2008）：New Post-Harvest Techniques for Improving Integrity, Consistency, Quality and Safety of Rice in Japan, Proceedings of 2008 International Grain Quality & Technology Congress, July 15-18, 2008, Chicago, Illinois, USA.

6）鈴木竜也・赤瀬章・藤浦建史・夏賀元康（2008）：トレリス栽培オウトウのロボット収穫（第

２報）―エンドエフェクタについて―, 農業機械学会東北支部報, 55, 27-30.

村山　哲也

〈原著論文〉

１）T. Koseki, Y. Mese, N. Nishibori, K. Masaki, T. Fujii, T. Handa, Y. Yamane, Y. Shiono, T. Murayama, and H. Iefuji (2008)：Characterization of an α-L-rhamnosidase from Aspergillus kawachii and its gene. Applied Microbiology and Biotechnology, 80, 1007-1013.

２）Y. Shiono, K. Shimanuki, F. Hiramatsu, T. Koseki, M. Tetsuya, N. Fujisawa, K. Kimura (2008)：Pyrrospirones A and B, apoptosis inducers in HL-60 cells, from an endophytic fungus, Neonectria ramulariae Wollenw KS-246. Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters. 18, .6050-6053.

３）F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, Y. Shiono (2008)：A new secolactarane-type sesquiterpene from Strobilurus tephanocystis. Natural product Research, 22, 1107-1012.

４）Y. Shiono, Y. Seino, T. Koseki, T. Murayama, and K. Kimura (2008)：Antarones A and B, Two Polyketides from an Endophytic Penicillium Antarcticum. Zeitschrift fuer Naturforschung, 63b, 909-914.

５）Y. Shiono, F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, T. Funakoshi (2008)：Two Cyathane-type Diterpenoids from the Liquid Culture of Strobilurus tenacellus. Chemistry & Biodiversity, 5, 1811-1816.

６）F. Hiramatsu, T. Murayama, T. Koseki, K. Okada, Y. Shiono (2008)：Cadinane-Type Sesquiterpenoids, Strobilols E~K, from the liquid culture of Strobilurus ohshimae. Helv. Chim. Acta. 91, 1595-1603.

７）Norihisa Kusumoto, Tetsuya Murayama, Yasushi Kawai, Tatsuya Ashitani, Koichi Ogiyama, Koetsu Takahashi (2008)：Taxodal, a novel irregular abietane-type diterpene from the cones of Taxodium distichum, Tetrahedron Lett., 33 (49), 4845-4847

８）M. Shahadat Hossain Khan, Keitarou Tawaraya, Hiroshi Sekimoto, Hiroyuki Koyama, Yuriko Kobayashi, Tetsuya Murayama, Masaru Chuba, Mihoko Kambayashi, Yoshihito Shiono, Matsuo Uemura, Satoru Ishikawa and Tadao Wagatsuma (2009)：Relative abundance of D5-sterols in plasma membrane lipids of root-tip cells correlates with aluminum tolerance of rice, Physiologia Plantarum 135：73-83

９）Toshiro NOSHITA, Hiromasa KIYOTA, Yumi KIDACHI, Kazuo RYOYAMA, Shinji FUNAYAMA, Ken HANADA and Tetsuya MURAYAMA (2009)：New Cytotoxic Phenolic Derivatives from Matured Fruits of Magnolia denudata, Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 73, 726-728

【帯広畜産大学】

大西　正男

〈著書〉

１）大西正男，木下幹朗，菅原達也，間　和彦．2008．食品機能性の科学　第17章　複合脂質　第２節スフィンゴ脂質．pp. 576-592，㈱産業技術サービスセンター
〈原著論文〉
１）Sugai M, Takakuwa N, Ohnishi M, Urashima T, Oda Y. 2009. Characterization of sterol lipids in Kluyveromyces lactis strain M-16 accumulating a high amount of steryl glucoside. Journal of Oleo Science 58:91-6.
２）Takakuwa N, Ohnishi M, Oda Y. 2008. Significance of the KlLAC1 gene in glucosylceramide production by Kluyveromyces lactis. FEMS Yeast Research 8:839-845.
３）Yunoki K, Kukino O, Nadachi Y, Fujino T, Ohnishi M. 2008. Separation and determination of functional complex lipids from chicken skin. Journal of the American Oil Chemists' Society 85:427-433
４）Kawashima H, Ohnishi M, Ogawa S, Matsui K. 2008. Unusual fatty acid isomers of triacylglycerols and polar lipids in female limpet gonads of Cellana grata. Lipids 43:559-567
５）木下幹朗，柚木恵太，得字圭彦，川原美香，大庭　潔，弘中和憲，大西正男．2008．1, 2-ジメチルヒドラジン投与マウスにおける大腸腺腫発症に与える食餌性ナガイモの効果．日本食品科学工学会誌　55:270-275
６）Takakuwa N, Ohnishi M, Oda Y. 2008. Significance of the KILAC1 gene in glucosylceramide production by Kluyveromyces lactis. FEMS Yeast Research 8:839-845
７）Shan A. K. M. A, Kinoshita M, Kurihara H, Ohnishi M, Takahashi K. 2008. Glycosylceramides obtain from the starfish Asterias amurensis Lutken. Journal of Oleo Science 57:477-484
８）藤森正宏，柚木恵太，佐藤光由，塚本義則，大西正男．2008．果実酢のモデル発酵試験における脂肪酸の変化とシス－バクセン酸の検出．日本食品科学工学会誌　55:529-534
９）Sato M, Seki K, Kita K, Moriguchi Y, Yunoki K, Kofujita H, Ohnishi M. 2008. Prominent differences in leaf fatty acid composition in the F1 hybrid compared with parent trees Larix gmelinii var. japonica and L. kaempferi. Bioscience, biotechnology, and biochemistry 73:2895-2902
10）Ishii S, Katsumura T, Ooyauchi K, Shiozuka C, Kawasaki K, Takigawa S, Fukushima T, Tokuji Y, Kinoshita M, Ohnishi M, Kawahara M, Ohba K. 2008. Anti-inflammatory activity of buckwheat sprout in lipopolysaccharide-activated human colon cancer cells and mice. Bioscience, biotechnology, and biochemistry 73:3148-3157
11）Yunoki K, Sasaki G, Tokuji Y, Kinoshita M, Naito A, Aida K, Ohnishi M.2008. Effect of dietary wine pomace extract and oleanolic acid on plasma lipids in rats fed high-fat diet and its DNA microarray analysis. Journal of Agricultural and Food Chemistry 55:12058-12058
12）Sato M, Seki K, Kita K, Moriguchi Y, Hashimoto M, Yunoki K, Ohnishi M. 2009. Comparative analysis of diterpene composition in the bark of the hybrid larch F1, Larix gmelinii var. japonica x L. kaempferi and their parent trees.　Journal of Wood Science 55:32-40
13）木下幹朗，柚木恵太，得字圭彦，川原美香，大庭　潔，弘中和憲，大西正男．2009．1,2-ジメチルヒドラジン投与マウスでの大腸腺腫発症に与える食餌性ナガイモの効果（第２報）

—他のイモ類との比較ならびに商品化モデル（ナガイモ入り青汁）での検討—．日本食品科学工学会誌　56：53-55
14）Yunoki K, Sato M, Seki K, Ohkubo T, Tanaka Y, Ohnishi M. 2009. Simultaneous quantification of plant glycerolipids including sulfoqunovosyldiacylglycerol by HPLC- ELSD with binary gradient elution. Lipids 43：77-83
15）Sugai M, Takakuwa N, Ohnishi M, Urashima T, Oda Y. 2009. Characterization of sterol lipids in Kluyveromyces lactis strain M-16 accumulating a high amount of steryl glucoside. Journal of Oleo Science 58：91-96
16）藤森正宏，柚木恵太，佐藤光由，塚本義則，大西正男．2009．果実酢のモデル発酵試験における脂肪酸の変化とシスーバクセン酸の検出．日本醸造協会誌　55：123-130
17）Liyanage R., Han K. H., Watanabe S., Shimada K., Sekikawa M., Ohba K., Tokuji Y., Ohnishi M., Shibayama S., Nakamori T., Fukushima M. 2008. Potato and soy peptide diets modulate lipid metabolism in rats. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry. 72：943-950.

小田　有二

〈原著論文〉

1）Sugai M, Takakuwa N, Ohnishi M, Urashima T, Oda Y. 2009. Characterization of sterol lipids in Kluyveromyces lactis strain M-16 accumulating a high amount of steryl glucoside. Journal of Oleo Science 58：91-6.
2）Watanabe T, Oda Y. 2008. Comparison of sucrose-hydrolyzing enzymes produced by Rhizopus oryzae and Amylomyces rouxii. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry. 72：3167-3173.
3）Takakuwa N, Ohnishi M, Oda Y. 2008. Significance of the KlLAC1 gene in glucosylceramide production by Kluyveromyces lactis. FEMS Yeast Research 8：839-845.
4）Takakuwa N, Ohnishi M, Oda Y. 2008. Significance of the KILAC1 gene in glucosylceramide production by Kluyveromyces lactis. FEMS Yeast Research 8：839-845
5）Sugai M, Takakuwa N, Ohnishi M, Urashima T, Oda Y. 2009. Characterization of sterol lipids in Kluyveromyces lactis strain M-16 accumulating a high amount of steryl glucoside. Journal of Oleo Science 58：91-96

福島　道広

〈原著論文〉

1）Liyanage R., Han K. H., Watanabe S., Shimada K., Sekikawa M., Ohba K., Tokuji Y., Ohnishi M., Shibayama S., Nakamori T., Fukushima M. 2008. Potato and soy peptide diets modulate lipid metabolism in rats. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry. 72：943-950.
2）Kanazawa T., Atsumi M., Mineo H., Fukushima M., Nishimura N., Noda T., Chiji H. 2008. Ingestion of gelatinized potato starch containing a high level of phosphorus decreases se-

rum and liver lipids in rats. Journal of Oleo Science. 57：335-343.
3）Ohba K., Han K. H., Liyanage R., Nirei M., Hashimoto N., Shimada K., Sekikawa M., Sasaki K., Lee C. H., Fukushima M. 2008. Hepatoprotective effects of potato peptide against D-galactosamine-induced liver injury in rats. Food Science and Biotechnology. 17：1178-1184.
4）Mineo H., Kanazawa T., Morikawa N., Ishida K., Ohmi S., Machida A., Noda T., Fukushima M., Chiji H. 2008. Feeding of potato starch increases maltase and sucrase activity only in duodenal segment of the small intestine in rats. Journal of Applied Glycoscience. 55：203-209.
5）Hagio M., Matsumoto M., Fukushima M., Hara H., Ishizuka S. 2009. Improved analysis of bile acids in tissues and intestinal contents of rats using LC/ESI-MS. Journal of Lipid Research. 50：173-180.

橋本　誠

〈原著論文〉

1）Sato M, Seki K, Kita K, Moriguchi Y, Hashimoto M, Yunoki K, Ohnishi M. 2009. Comparative analysis of diterpene composition in the bark of the hybrid larch F1, Larix gmelinii var. japonica x L. kaempferi and their parent trees. Journal of Wood Science 55：32-40
2）Murashige, R., Hayashi, Y., Hashimoto, M. 2008. Asymmetric and efficient synthesis of homophenyl-alanine derivatives via Friedel-Crafts reaction with trifluoromethanesulfonic acid. Tetrahedron Letters, 49：6566-6568.
3）Hashimoto, M. Takahashi, M. 2009. Effective Friedel-Crafts acylations of O- and C- aryl glycosides with triflic acid, Heterocycles, 77, 227-231.

木下　幹朗

〈著書〉

1）大西正男，木下幹朗，菅原達也，間　和彦．2008．食品機能性の科学　第17章　複合脂質　第２節スフィンゴ脂質．pp. 576-592, ㈱産業技術サービスセンター

〈原著論文〉

1）Structural characterization of multi-branched oligosaccharides from seal milk by combination of off-line HPLC-MALDI-TOF MS and sequential exoglycosidase digestion. M. Kinoshita, H. Ohta, K. Higaki, Y. Kojima, T. Urashima, K. Nakajima, M. Suzuki, K.M. Kovacs, C. Lydersen, T. Hayakawa, K. Kakehi, Anal. Biochem. 388, 242-253, 2009.
2）木下幹朗，柚木恵太，得字圭彦，川原美香，大庭　潔，弘中和憲，大西正男．2008．1, 2-ジメチルヒドラジン投与マウスにおける大腸腺腫発症に与える食餌性ナガイモの効果．日本食品科学工学会誌　55：270-275
3）Shan A. K. M. A, Kinoshita M, Kurihara H, Ohnishi M, Takahashi K. 2008. Glycosylceramides obtain from the starfish Asterias amurensis Lutken. Journal of Oleo Science 57：477-484
4）Ishii S, Katsumura T, Ooyauchi K, Shiozuka C, Kawasaki K, Takigawa S, Fukushima T,

Tokuji Y, Kinoshita M, Ohnishi M, Kawahara M, Ohba K. 2008. Anti-inflammatory activity of buckwheat sprout in lipopolysaccharide-activated human colon cancer cells and mice. Bioscience, biotechnology, and biochemistry 73：3148-3157

5）Yunoki K, Sasaki G, Tokuji Y, Kinoshita M, Naito A, Aida K, Ohnishi M.2008. Effect of dietary wine pomace extract and oleanolic acid on plasma lipids in rats fed high-fat diet and its DNA microarray analysis. Journal of Agricultural and Food Chemistry 55：12058-12058

6）木下幹朗，柚木恵太，得字圭彦，川原美香，大庭　潔，弘中和憲，大西正男．2009．1,2-ジメチルヒドラジン投与マウスでの大腸腺腫発症に与える食餌性ナガイモの効果（第２報）—他のイモ類との比較ならびに商品化モデル（ナガイモ入り青汁）での検討－．日本食品科学工学会誌　56：53-55

弘中　和憲

〈原著論文〉

1）木下幹朗，柚木恵太，得字圭彦，川原美香，大庭　潔，弘中和憲，大西正男．2008．1, 2-ジメチルヒドラジン投与マウスにおける大腸腺腫発症に与える食餌性ナガイモの効果．日本食品科学工学会誌　55：270-275

2）木下幹朗，柚木恵太，得字圭彦，川原美香，大庭　潔，弘中和憲，大西正男．2009．1,2-ジメチルヒドラジン投与マウスでの大腸腺腫発症に与える食餌性ナガイモの効果（第２報）—他のイモ類との比較ならびに商品化モデル（ナガイモ入り青汁）での検討—．日本食品科学工学会誌　56：53-55

3）Shen B, Satow T, Hironaka K, Zhang S. 2008. Development of laser crop row sensor for automatic guidance system of tractor-mounted implements, Journal of the Japanese Society of Agricultural Machinery 70(6)：90-96

島田　謙一郎

〈原著論文〉

1）Liyanage R., Han K. H., Watanabe S., Shimada K., Sekikawa M., Ohba K., Tokuji Y., Ohnishi M., Shibayama S., Nakamori T., Fukushima M. 2008. Potato and soy peptide diets modulate lipid metabolism in rats. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry. 72：943-950.

2）Ohba K., Han K. H., Liyanage R., Nirei M., Hashimoto N., Shimada K., Sekikawa M., Sasaki K., Lee C. H., Fukushima M. 2008. Hepatoprotective effects of potato peptide against D-galactosamine-induced liver injury in rats. Food Science and Biotechnology. 17：1178-1184.

3　熱・生命システム学専攻

⑴　熱・生命システム学連合講座

【岩手大学】

伊藤　菊一

〈著書〉

1）伊藤菊一（分担執筆）（2008）花はなぜ咲くの？（日本植物生理学会監修），化学同人，東京，pp. 135-136.

〈原著論文〉

1）Matsukawa,K.,Kamata,T. and Ito,K.（2009）Functional expression of plant alternative oxidase decreases antimycin A-induced reactive oxygen species production in human cells. FEBS Lett. 583：148-152.

2）Takahashi,K.,Ito,T.,Endo,T.,Chiba,S.,Ito,K.and Osada,H.（2008）Algorism for temperature control in the skunk cabbage：*Symplocarpus foetidus.* Biotechnol. Biotechnol. Equipm. 22：959-963.

上村　松生

〈原著論文〉

1）Nagao, M., Matsui, K. and Uemura, M.（2008）*Klebsormidium flaccidum*, a charophycean green alga, exhibits cold acclimation that is closely associated with compatible solute accumulation and ultrastructural changes. Plant Cell Environ. 31：872-885.

2）Yamazaki, T., Kawamura, Y. and Uemura M.（2008）Cryobehavior of the plasma membrane in protoplasts isolated from cold-acclimated *Arabidopsis* leaves is related to surface area regulation. Plant Cell Physiol. 49：944-957.

3）Tanaka, D., Niino, T., Tsuchiya, Y., Shirata, K. and Uemura, M.（2008）Cryopreservation of shoot tips of endangered Hayachine-usuyukiso（*Leontopodium hayachinense*（Takeda）Hara et Kitam.）using a vitrification protocol. Plant Gen. Res. 6：164-166.

4）Koide, S., Shono, H., Shi, J., Uemura, M. and Haram M.（2008）. Changes in antioxidative enzyme activities and physicochemical properties of tomato fruits during post-harvest ripening. Environ. Cont. Biol. 46：147-153.

5）Yamazaki, T., Kawamura, Y., Minami A. and Uemura M.（2008）Calcium-dependent freezing tolerance in *Arabidopsis* involves membrane resealing via synaptotagmin SYT1. Plant Cell 20：3389-3404.

6）Khan, M.S.H., Tawaraya, K., Sekimoto, H., Koyama, H., Kobayashi, Y., Murayama, T., Chuba, M., Kambayashi, M., Shiono, Y., Uemura, M., Ishikawa, S. and Wagatsuma, T.（2009）Relative abundance of Δ^5-sterols in plasma membrane lipids of root-tip cells correlates with aluminum tolerance of rice. Physiol. Plant. 135：73-83.

7）南杏鶴，古戸あかり，上村松生.（2008）. 植物細胞膜マイクロドメインタンパク質の低温応答性. 低温生物工学会誌 54：155-162.

岡田　益己

〈原著論文〉

1）Cheng, W., Inubushi, K., Hoque, M.M., Sasaki, H., Kobayashi, K., Yagi, K., Okada, M. and

Hasegawa, T.（2008）Effect of elevated [CO_2] on soil bubble and CH_4 emission from a rice paddy：A test by ^{13}C pulse-labeling under free-aid CO_2 enrichment. Geomicrobiology J., 25：396–403.

２）Murai-Hatano, M., Kuwagata, T., Sakurai J., Nonami H., Ahamed A., Nagasuga K., Matsunami T., Fukushi K., Maeshima, M. and Okada, M.（2008）Effect of low root temperature on hydraulic conductivity of rice plants and the possible role of aquaporins. Plant and Cell Physiology, 49(9)：1294–1305.

３）Shimono, H., Okada, M., Yamakawa, Y., Nakamura, H., Kobayashi, K. and Hasegawa, T.（2009）Genotypic variation in rice yield enhancement by elevated CO_2 relates to growth before heading, and not to maturity group. J. Exp. Bot., 60(2)：523–532.

鈴木　幸一

〈著書〉

１）鈴木幸一・藤田幸輔（分担執筆）（2008）耐性の昆虫学（田中誠二・小滝豊美・田中一裕編）東海大学出版会, 秦野, pp. 270–280.

〈原著論文〉

１）Yang, P., Tanaka, H., Kuwano, E. and Suzuki, K.（2008）A novel cytochrome P450 gene *(CYP4G25)* of the silkmoth *Antheraea yamamai*：Cloning and expression pattern in pharate first insatr larvae in relation to diapause. J. Insect Physiol. 54：636–643.

２）Cui, X., Urita, S., Imanishi, S., Nagasawa, T. and Suzuki, K.（2009）Isolation and characterization of a 41 kDa sericin from the wild silkmoth *Antheraea yamamai*. J. Insect Biotech. and Seicol. 78：11–16.

一ノ瀬　充行

〈原著論文〉

１）一ノ瀬充行，梅木創，小笠原秀，田村藍，菅原健，東海林温，廣海洋平：ローズマリーの中枢神経系と自律神経系に及ぼす作用の生理学的解析，aromatopia 18(1)10–15，2009

新貝　鉚蔵

〈原著論文〉

１）Adachi R., Osada H., Shingai R.　Phase-dependent preference of thermosensation and chemosensation during simultaneous presentation assay in *Caenorhabditis elegans*. BMC Neuroscience 9, 106（2008）.

２）Jinghong Yang, Sohei Gomi，Ryuzo Shingai The Effect of Experimental Conditions on the Random Number Generation by Human Proceedings of the 11th International Conference on Humans and Computers. Committee of the Nagaoka University of Technology（NUT）, Japan pp.133–138 2008

吉川　信幸

〈原著論文〉

1）Yaegashi, H., Tamura, A., Isogai, M., and Yoshikawa, N. (2008). Inhibition of long-distance movement of RNA silencing signals in *Nicotiana benthamiana* by *Apple chlorotic leaf spot virus* 50 kDa movement protein. Virology 382：199–206.

2）Igarashi, A., Yamagata, K., Sugai, T., Takahashi, Y., Sugawara, E., Tamura, A., Yaegashi, H., Yamagishi, N., Takahashi, T., Isogai, M., Takahashi, T., and Yoshikawa, N. (2009). Apple latent spherical virus vectors for reliable and effective virus-induced gene silencing among a broad range of plants including tobacco, tomato, Arabidopsis thaliana, cucurbits, and legumes. Virology 386：407–416. .

佐藤　拓己

〈原著論文〉

1）Satoh T, Saitoh S, Hosaka M, Kosaka K. Simple ortho- and para-hydroquinones as compounds neuroprotective against oxidative stress in a manner associated with specific transcriptional activation. Biochem Biophys Res Commun. 379：537–541, 2009

2）Satoh T, Harada N, Hosoya T, Tohyama K, Yamamoto M, Itoh K. Keap1/Nrf2 system regulates neuronal survival as revealed through study of keap1 gene-knockout mice. Biochem Biophys Res Commun. 380：298–302, 2009

3）Takahashi T, Tabuchi T, Tamaki Y, Kosaka K, Takikawa Y, Satoh T. Carnosic acid and carnosol inhibit adipocyte differentiation in mouse 3T3-L1 cells through induction of phase2 enzymes and activation of glutathione metabolism. Biochem Biophys Res Commun. 382(3)：549–554 2009

松浦　哲也

〈原著論文〉

1）松浦哲也：工学部学生に実施した生物学教育の評価．生物教育，Vol.48，pp21–26，2008

2）松浦哲也，加納正道：コオロギの逃避行動と巨大介在ニューロン（総説）．比較生理生化学，Vol.25，pp96–105，2008

3）松浦哲也，加納正道，山口恒夫：空気流刺激に対するコオロギの発現運動とその切替機構―遊泳・飛翔・歩行―（総説）．比較生理生化学，Vol.25，pp147–155，2008

【弘前大学】

杉山　修一

〈原著論文〉

1）Okubo A., S. Sugiyama：Comparison of molecular fingerprinting methods for analysis of soil microbial community structure. Ecological Research 24：1399–1405, 2009

石川　隆二

〈原著論文〉

1）今井克則・千葉悠貴・田村優佳・竹谷敦子・村井正之・佐藤洋一郎・石川隆二：イネ在来系統‘赤毛’から生じた新規変異体の遺伝解析. 育種学研究, 10：135-143, 2008.

2）Kawasaki, A., K. Imai, J. Ushiki, T. Ishii, R. Ishikawa：Molecular constitution of weedy rice (*Oryza sativa* L.) found in Okayama prefecture, Japan. Breeding Science, 59：229-236, 2009.

【山形大学】

後藤　三千代

〈著書〉

1）後藤三千代（2008）水の中で生きるヒエホソメイガの生活史．耐性の昆虫学（田中誠二・小滝豊美・田中一裕編），東海大学出版会 161-171.

三橋　渉

〈原著論文〉

1）Yutaka Hayashi, Tomonobu Toyomasu, Yuko Hirose, Yu Onodera, Wataru Mitsuhashi, Hisakazu Yamane, Takeshi Sassa, and Tohru Dairi (2008) Comparison of the enzymatic properties of ent-copalyl diphosphate synthases in the biosynthesis of phytoalexins and gibberellins in rice. Biosci. Biotechnol. Biochem., 72(2), 523-530

2）Yoshiaki Sawada, Miki Aoki, Kentaro Nakaminami, Wataru Mitsuhashi, Kiyoshi Tatematsu, Tetsuo Kushiro, Tomokazu Koshiba, Yuji Kamiya, Yasunori Inoue, Eiji Nambara, et al. (2008) Phytochrome- and Gibberellin-Mediated Regulation of Abscisic Acid Metabolism during Germination of Photoblastic Lettuce Seeds. Plant Physiol. 146：1386-1396

3）Tomonobu Toyomasu, Takuma Kagahara, Kazunori Okada, Jinichiro Koga, Morifumi Hasegawa, Wataru Mitsuhashi, Takeshi Sassa, and Hisakazu Yamane (2008) Diterupene phytoalexins are biosynthesized in and exuded from the roots of rice seedlings. Biosci., Biotechnol., Biochem. 72(2), 562-567

4）Tomonobu Toyomasu, Rie Niida, Hiromichi Kenmoku, Yuri Kanno, Shigeyoshi Miura, Chiaki Nakano, Yoshihito Shiono, Wataru Mitsuhashi, Hiroaki Toshima, Hideaki Oikawa, et al. (2008) Identification of diterpene biosynthetic gene clusters and functional analysis of labdane-related diterpene cyclases in Phomopsis amygdali. Biosci. Biotechnol. Biochem, 72(4), 1038-1047

5）Mitsunori Seo, Tomonobu Toyomasu, Wataru Mitsuhashi, Kazuo Shinozaki, Mikio Nakazono, Yuji Kamiya, Tomokazu Koshiba, and Eiji Nambara (2008) Drought Induction of Arabidopsis 9-cis-Epoxycarotenoid Dioxygenase Occurs in Vascular Parenchyma Cells. Plant Physiol. 147：1984-1993

6）Sawada Yoshiaki, Katsumata Takumi, Kitamura Jun, Kawaide Hiroshi, Masatoshi Nakajima, Tadao Asami, Kentaro Nakaminami, Toshihiro Kurahashi, Wataru Mitsuhashi, Yasunori Inoue et al.（2008）Germination of photoblastic lettuce seeds is regulated via the control of endogenous physiologically active gibberellin content, rather than of gibberellin responsiveness. Journal of Experimental Botany, 56(12), 3383-3393

【帯広畜産大学】

日高　智

〈原著論文〉

1）Y.Nakahashi, S.Maruyama, S.Seki, S.Hidaka, K.Kuchida, 2008, Relationships between monounsaturated fatty acids of marbling flecks and image analysis traits in longissimus muscle for Japanese Black steers, Journal of Animal Science, 86：3551-3556

2）前原正明・村澤七月・中橋良信・日高　智・加藤貴之・口田圭吾，2008，北海道産黒毛和種ロース芯における脂肪酸組成と画像解析形質との関連性，日本畜産学会報，79：507-513

3）中橋良信・奥村寿章・波田瑞乃・藤嶋吉宏・山内健治・日高　智・口田圭吾，2008，黒毛和種における様々な骨格筋の画像解析特徴の推移，日本畜産学会報，79：403-411

4）中橋良信・村澤七月・奥村寿章・波田瑞乃・藤嶋吉宏・山内健治・日高　智・口田圭吾，2008，黒毛和種における種々の骨格筋モノ不飽和脂肪酸割合の推移，日本畜産学会報，79：527-533

5）大澤剛史・日高　智・加藤浩二・口田圭吾，2008，黒毛和種枝肉横断面の画像解析形質と発育性ならびに飼料利用性間の遺伝的関連性，日本畜産学会報，79：192-202

6）大澤剛史・日高　智・宝寄山裕直・加藤貴之・上舘信幸・口田圭吾，2008，北海道内の黒毛和種去勢牛における子牛市場出荷時体重と格付形質ならびに画像解析形質との遺伝的関連性，日本畜産学会報，79：185-192

4　生物環境科学専攻

⑴　地域資源経済学連合講座

【岩手大学】

岡田　秀二

〈著書〉

1）岡田秀二（2008）第5章「地域再生」遠藤日雄編著『現代森林政策学』（第2版）日本林業調査会：79-94

木下　幸雄

〈著書〉

1）木下幸雄（共著）（2008）日本の農業―2005年農業センサス分析―（小田切徳美編）．農林統

計協会，東京，pp.165-202.

柴崎　茂光

〈原著論文〉

1）柴崎茂光・庄子康・栢植隆宏・土屋俊幸・永田信（2008）世界遺産管理における住民参加の可能性―鹿児島県屋久島の島民意向調査から探る―．地球環境13(1):71-80.

2）世界遺産登録は有効な地域振興策か？―鹿児島県屋久島を事例として―．国立公園666:19-22.

山本　信次

〈原著論文〉

1）太田幸司，山本信次（2008）農山村地域における多様な主体の協働による市町村交通サービスの在り方―岩手県雫石町あねっこバスを事例として―．林業経済学会誌54(3):7-18.

【弘前大学】

神田　健策

〈原著論文〉

1）宋暁凱*・神田健策:中国りんご生産・流通過程における農民専業合作組織の機能に関する研究―遼寧省大連市東馬屯りんご協会の事例分析―.協同組合研究．第27巻第2号(通巻77号)，44-55，日本協同組合学会，2008.11.(*青島農業大学)

2）神田健策：北東北 雇用悪化と農業問題.経済.№165，65-72，2009.6.

泉谷　眞実

〈原著論文〉

1）泉谷眞実：農業雇用の動向と農業労働力問題．北海道農業(36):83-95，2009.

【山形大学】

岩鼻　通明

〈著書〉

1）岩鼻通明(2008):田村俊和・石井英也・日野正輝編『日本の地誌 4 東北』朝倉書店，2008.04.所収「東北地方の地域性―4．住民と生活　2）伝統文化」および「山形県地域誌 庄内地域」p.55-58.412-418.

2）岩鼻通明（2008):『韓国・伝統文化のたび』ナカニシヤ出版，2008.5.152p.

〈原著論文〉

1）岩鼻通明（2008):「出羽三山と最上川が織りなす文化的景観まんだら」庄内民俗34,2008.4.p108-111.

2）岩鼻通明（2008):「鳥海山の境争論と装束場」山形民俗22,2008.11.p18-22.

3）岩鼻通明（2008）:「三山参りと宿坊」『村山ふるさと大百科』横山昭男監修，郷土出版社，2008.5. p196.
4）岩鼻通明（2008）:「手嶋健博氏「「出羽三山」の宗教世界」に触れて」村山民俗22. 2008. 6.p.80-82.
5）岩鼻通明（2009）:「韓国を題材にした授業の紹介」山形大学高等教育研究年報3.2009.3.p.6-7.

小沢　亙

〈原著論文〉

1）小沢亙（2008）：食料自給率向上を目指したフードシステムの主体関係と成立条件―遊佐町・平田牧場・生活クラブ―，フードシステム研究，第15巻第2号，20-29
2）大西千絵・小沢亙・金成學・小野雅之（2008）：「市」と「直売所」における性格の相違点と今後の展開方向，フードシステム研究，第15巻第3号，1-10

菊間　満

〈原著論文〉

1）菊間　満（2008）：小規模の森林組合と山村の協同組合の役割，協同の発見，195，47-52
2）菊間　満（2008）：森林組合を「労働」から再考する―小規模組合等のミニシンポ報告をかねて―，国民と森林，107，4-10
3）菊間　満（2009）：若年層の住宅問題に関する研究―山形県鶴岡市在住の大学生を対象に―，山形大学紀要（農学），15(4)，273-292
4）菊間　満（2009）：自然な住宅の建て方を考える（Ⅱ）―スローシェルターを支える建築と林業の技術―，東北森林科学会誌，14，24-32

角田　毅

〈著書〉

1）角田毅・中村勝則（2008）：東北平場水田地帯における土地利用と担い手の新たな展開，土地の所有と利用，筑波書房，99-121

〈原著論文〉

1）角田毅（2008）：山形県庄内地域における集落営農の動向，東北農業経済研究，26-1，21-28

【帯広畜産大学】

姜　興起

〈原著論文〉

1）Kyo K, Noda H. 2008. Bayesian analysis of the dynamic structure in China's economic growth. J. M. Stern (ed), Bayesian Inference and Maximum Entropy Methods in Science and Engineering, pp. 394-401, American Institute of Physics, New York.
2）Ren X, Zhang X, Kyo K. 2008. Quantifying the Learning effect in human performance models. International Journal of Innovative Computing, Information & Control 4:2419-2429

⑵　地域環境工学連合講座

【岩手大学】

倉島　栄一

〈原著論文〉

1）倉島栄一，加藤徹，向井田善朗（2009）赤沢川流域における多雪年と寡雪年の融雪状況の比較，農業農村工学会論文集，225，pp.113-114.

颯田　尚哉

〈原著論文〉

1）高橋克幸，向川政治，高木浩一，藤原民也，颯田尚哉（2008）ブルームライン型パルス電源の特性と汚水浄化への応用，プラズマ応用科学，Vol.16，pp.57-63

2）高橋克幸，佐藤大樹，内藤潤，向川政治，高木浩一，藤原民也，颯田尚哉（2008）水中放電とオゾンを用いた廃水の脱色効率の比較.［環境工学研究論文集，Vol. 45，pp.289-294.

3）川向有希子，颯田尚哉，立石貴浩（2008）臭素酸のコマツナ成長抑制作用に及ぼす陽イオンの影響，環境工学研究論文集，Vol.45，pp. 65-71

4）高橋克幸，佐々木由佳，向川政治，高木浩一，藤原民也，颯田尚哉（2009）気相放電水中進展型リアクタを用いた汚水の放電処理における水質への影響.［2009年度静電気学会春期講演会論文集，pp.35-38

武田　純一

〈原著論文〉

1）武田純一・嶌田　優・菊池　豊・中野　丹・岡田俊輔・鳥巣　諒（2009）農用トラクタの6つの振動モードとタイヤラグの影響について，農業機械学会誌，71⑴，124-130.

2）武田純一・齋藤雅憲・鳥巣　諒（2009）ファジィ制御による履帯式農用車両の自律走行―直線経路への追従制御―，農業機械学会誌，71⑵，66-73.

3）藤原　敏，鶴田正明，武田純一（2009）固定タイン改良とスコープによるアワ栽培の除草適応性，農業機械学会東北支部報，No.55，23-26.

広田　純一

〈著書〉

1）広田純一（分担執筆）（2009）水土を拓く（知の連関），農文協.

〈原著論文〉

1）広田純一（2009）　一関本寺地区の農村景観保全，ランドスケープ研究，第73巻第1号.

2）広田純一，東淳樹，南雲稜，佐藤貴法，金田一彩乃（2010）メダカの生息に配慮した圃場整備における順応的管理の実際，農業農村工学会誌，78巻2号，15-20.

三輪　弌

〈原著論文〉

1）三輪　弌，鈴木駿生，郷古雅春（2008.4）山王海農業水利事業における施設整備の進展とその効果，農業農村工学会誌，76-4：pp.39-44.

2）高井和彦，三輪　弌（2008.12）堰下流護床工の災害防止効果に関する実験的検討，平成20年度農業農村工学会応用水理研究部会講演集：5-12.

3）田島正廣，石井　敦，三輪　弌，千谷小百合（2009.3）水田用水の異常渇水対策としての「番水」の論理と実態，東北地域災害科学研究45：163-168.

4）茅根崇史，遠藤奈津子，三輪　弌（2009.3）直線水路実験による堰下流河床洗掘の実態解明と防止対策の検討，東北地域災害科学研究45：169-174.

5）山下真吾，佐藤和樹，三輪　弌（2009.3）蛇行水路実験による堰下流河床洗掘の実態解明と防止対策の検討，東北地域災害科学研究45：175-180.

小林　幹佳

〈原著論文〉

1）Kobayashi, M.（2008）Electrophoretic mobility of latex spheres in the presence of divalent ions: Experiments and modeling, Colloid and Polymer Science, Vol. 286：935-940.

2）Kobayashi, M.（2008）Aggregation of unequal-sized and oppositely charged colloidal particles in a shear flow, Journal of Applied Mechanics, JSCE, Vol.11：517-523

廣間　達夫

〈原著論文〉

1）広間達夫（2009）有限要素法によるタイヤと土の相互作用の解析（第１報），農業機械学会誌　71(2)：60-65.

三宅　諭

〈著書〉

1）三宅諭（分担執筆）（2009）生活景　身近な景観価値の発見とまちづくり（日本建築学会編），学芸出版社，京都，pp234-246

【弘前大学】

泉　　完

〈原著論文〉

1）Masayuki Fujihara*, Mai Akimoto**, Mattashi Izumi：3-D FLOW SIMULATION OF AN ICE-HARBOR FISHWAY，Proceedings of 16th IAHR-APD Congress and 3rd Symposium of IAHA-ISHS：2241-2246，2008.（*愛媛大学農学部，**㈱サンスイコンサルタント）

2）泉　完・山本泰之*・矢田谷健一**・神山公平***：河川における自然誘導式スタミナトンネルを用いた高速流条件での野生魚の突進速度，農業農村工学会論文集，261：73-82，2009.（*㈱日

さく，**㈱建設技術研究所東北支社，***㈱建設技術研究所東京本社）

3）泉　完･山本泰之*・矢田谷健一**・神山公平***:河川における挿入式スタミナトンネルを用いた　ヤマメ稚魚の突進速度に関する実験，農業農村工学会論文集，262:103-109，2009.（*㈱日さく，**㈱建設技術研究所東北支社，***㈱建設技術研究所東京本社）

工藤　明

〈著書〉

1）工藤　明：農業土木関連分野を中心に43項目を分担執筆，高橋　裕編集委員長：川の百科事典，全810頁，丸善，2009.1.

佐々木　長市

〈著書〉

1）白神研究センター（編集代表，石田幸子，佐々木長市）:白神山地で活躍する人々―観光編―，弘前大学農学生命科学部附属白神研究センター，1-61，2009.9.

〈原著論文〉

1）佐々木長市・松山信彦・久保田正亜*・野田香織**・加藤幸：カドミウム汚染水田の浸透型が稲体のカドミウム濃度および生育収量に及ぼす影響，農業農村工学会論文集77巻７号，57-64，2009.6.（*茨城大学，**弘前大学理工学部）

2）佐々木長市，松山信彦，佐瀬隆*，殿内暁夫，松岡嗣彦**，加藤幸，野田香織***：白神山地の土壌に関する研究（6)，白神研究第6号，26-34，2009.6.（*北方ファイトリス研究室，**白神山地自然ガイド，***弘前大学理工学部）

3）徳永光一*・佐藤幸一**・佐々木長市・佐瀬隆***：岩手県北部火山灰累層に刻まれた根成孔隙の消長と耐久年限，農業農村工学会論文集77巻４号，133-140，2009.8.（*元岩手大学，**元北里大学，***北方ファイトリス研究室）

高橋　照夫

〈原著論文〉

1）ガウリ マハルジャン・高橋照夫・張 樹槐：ハイパースペクトルイメージングによるイネ病状特徴の基礎的分析．農業機械学会東北支部報55:35-40,2008.12.

谷口　建

〈著書〉

1）谷口　建：グリ－ン・ツ－リズムと情報発信，白神山地で活躍する人々－観光編－，弘前大学農学生命科学部附属白神研究センター，3-15，2009.9.

万木　正弘

〈原著論文〉

1）万木正弘，北辻政文*，久田　真**，中田善久***：プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会報告，コンクリート工学年次論文集ＣＤ，第31巻，2009.7.（*宮城大学，**東北

大学大学院，***日本大学）

張　樹槐

〈原著論文〉

1）Baoming SHEN*, Tadatoshi SATOW*, Kazunori HIRONAKA*, Shu-Huai ZHANG：Development of Laser Crop Row Sensor for Automatic Guidance System of Tractor-mounted Implements, Journal of JSAM 70(6), 90-96, 2008.（*帯広畜産大学）

2）張　樹槐，片平光彦*1，大泉隆弘*2，後藤恒義*2：透過画像によるエダマメ欠粒莢の評価方法，農業機械学会誌　71(3)，115～117，2009.（*1　秋田県農林技術センター，*2　㈱山本製作所）

3）ガウリ　マハルジャン，高橋照夫，張　樹槐：ハイパースペクトルイメージングによるイネ病状特徴の基礎的分析，農業機械学会東北支部報No.55，35～40，2008.

藤崎　浩幸

〈原著論文〉

1）藤崎浩幸：農村を学びの場とする際の留意事項，農村計画学会誌，Vol.27.No.3，132-136，2008.12.

2）齋藤朱未・藤崎浩幸：郷土芸能を有する農村集落における集落行事に対する住民意識―青森県平川市平賀地区を対象として―，農村計画学会誌，Vol.27．論文特集号，209-214，2009.2.

【山形大学】

安中　武幸

〈原著論文〉

1）花山　奨，粕渕辰昭，安中武幸（2008）：田面水の対流速度を測定する装置の改良，土壌の物理性，109，51-56

粕渕　辰昭

〈原著論文〉

1）T. Momose, I. Sakaguchi & T. Kasubuchi：Development of an apparatus for measuring one-dimensional steady-state heat flux of soil under reduced air pressure. European Journal of Soil Science. 59, 982-989（2008）

2）I. Sakaguchi, T. Momose, H. Mochizuki & T. Kasubuchi：Heat pipe phenomenon in soil under reduced air pressure. European Journal of Soil Science, European Journal of Soil Science, 60, 110-115（2009）

前川　勝朗

〈原著論文〉

1）前川勝朗（2008）：東北支部の歩み―農業農村工学会創立80周年に向けて―　2．東北支部に

おける大学の役割，農業農村工学会東北支部，3-4

【帯広畜産大学】

武田　一夫

〈原著論文〉

1）武田一夫・鈴木輝之・伊藤陽司・濱塚智成　2008：ミヤコザサ被覆による斜面表層土の保水効果，地盤工学ジャーナル，Vol. 3，No. 2，121-132.

佐藤　禎稔

〈原著論文〉

1）Shen B, Satow T, Hironaka K, Zhang S. 2008. Development of laser crop row sensor for automatic guidance system of tractor-mounted implements, Journal of the Japanese Society of Agricultural Machinery 70 (6)：90-96

⑶　地域環境管理学連合講座

【岩手大学】

青井　俊樹

〈原著論文〉

1）SaitoM., K.Yamauchi, T.Aoi.(2008) Individual identification of Asiatic Black Bears using extracted DNA from damaged crops. URSUS.19(2)：162-167

関野　登

〈原著論文〉

1）1. Inoue, M., N. Sekino, T. Morooka, R. M. Rowell, and M. Norimoto (2008) Fixation of compressive deformation in wood by pre-steaming. J. Tropical Forest Science. 20(4)：273-281

橋本　良二

〈原著論文〉

1）白旗　学，橋本良二，原　和良（2009）樹木根系調査のための移動式小型高圧洗浄機使用の有効性．東北森林科学会誌 14：12-17.

2）橋本良二，河崎久男，加藤　司（2009）東北育種基本区西部育種区で選抜されたスギ精英樹16クローンにおける種子芽生えの光合成パラメーターの変動．東北森林科学会誌：18-23.

比屋根　哲

〈原著論文〉

1）石山久晶・比屋根哲（2008）学校給食で地産地消を進める取り組みの効果－地元産食材の使用率が高くなると食べ残しは減るのか？，日本食育学会誌，2(2)，73-76.

井良沢　道也

〈著書〉

1）井良沢道也（分担執筆）（2008）平成20年版 技術士第二次試験選択科目＝専門技術問題の解答例〔建設部門〕（土木技術研究会編集），近代図書㈱，pp.19-375～19-377. ISBN：978-4-7651-0471-6

2）井良沢道也（分担執筆）（2008）平成20年版 技術士第二次試験の解答例〔建設部門〕（土木技術研究会編集），近代図書㈱，pp.694-696，pp.701-703. ISBN：978-4-7651-0471-8

〈原著論文〉

1）井良沢道也・牛山素行・川邊洋・藤田正治・里深好文・檜垣大助・内田太郎・池田暁彦（2008）平成20年岩手・宮城内陸地震により発生した土砂災害について．砂防学会誌, 61(3), 37-46,

國崎　貴嗣

〈原著論文〉

1）Sugita, H., Kunisaki, T., Takahashi, T. and Takahashi, R.（2008）Effects of previous forest types and site conditions on species composition and abundance of naturally regenerated trees in young *Cryptomeria japonica* plantations in northern Japan. J. For. Res. 13:155-164.

2）國崎貴嗣，小泉恵理（2008）岩手県内のスギ若齢無間伐人工林における巻き枯らし間伐試験―経過報告―．東北森林科学会誌 13:5-8.

3）Inoue, A., Yoshida, K. and Kunisaki, T.（2009）Analyzing the relationship between periodic height increment and height at the beginning of the increment period in even-aged pure stands of Japanese larch *Larix kaempferi* based on stem analysis. J. For. Plann. 14:33-37.

4）國崎貴嗣（2009）無間伐のスギ―落葉広葉樹混交林における８年間の林分動態-岩手県雫石町の事例―．東北森林科学会誌 14:1-6.

東　淳樹

〈著書〉

1）東　淳樹（分担執筆）（2008）野生鳥獣被害防止マニュアル―鳥類編―．農林水産省生産局，p. 119.

2）東　淳樹（分担執筆）（2008）野鳥のすめる街づくり．橋本良二・比屋根哲編「都市の自然再生プランニング」，地域環境再生研究会，盛岡，pp. 39-46.

3）東　淳樹（分担執筆）（2008）バイオテレメトリー．日本科学者会議編「環境辞典」, 旬報社，東京，p. 822.

4）東　淳樹（分担執筆）（2008）リモートセンシング．日本科学者会議編「環境辞典」, 旬報社，東京，pp. 1019-1020.

松本　佐和子

〈原著論文〉

1）Ishida, A., Nakano, T., Yazaki, K., Matsuki, S., Koike, N., Lauenstein, D.L., Shimizu, M. and Yamashita, N.（2008）Coordination between leaf and stem traits related to leaf carbon gain and hydraulics across 32 drought-tolerant angiosperms. Oecologia 156：193-202.

2）Kitahashi, Y., Ichie, T., Maruyama, Y., Tanaka, K., Kitanoka, S., Chong, L., Matsuki, S., Nakashizuka, T. and Koike, T.（2008）Photosynthetic water use efficiency in tree crowns of *Shorea beccariana* and *Dryobalanops aromatica* in a tropical rain forest in Sarawak, East Malaysia. Photosynthetica 46（1）：151-155.

3）Ohno,Y.,Umeki, K.,Watanabe, I.,Takiya, M.,Terazawa, K.,Yasaka M.and MatsukiS.（2008）Basal area growth and mortality of Betula maximowicziana affected by crown dieback in a secondary forest in Hokkaido, northern Japan. Journal of Forest Research 14（1）：37-73.

4）石田厚，中野隆志，原山尚徳，矢崎健一，大曽根陽子，河原崎里子，清水美智留，松木佐和子，山路恵子，山下直子（2009）小笠原乾燥尾根部に生育する植物の葉と茎の生理生態的特性．小笠原研究 34:9-31.

【弘前大学】

檜垣　大介

〈著書〉

1）吉田望・檜垣大助・風間基樹・山口晶ほか：第４章　地盤災害，平成20年岩手・宮城内陸地震４学協会東北合同調査委員会：平成20年岩手・宮城内陸地震災害調査報告書，55-115, 2009.6.

〈原著論文〉

1）八木浩司*・檜垣大助・㈳日本地すべり学会新第三系分布域の地すべり危険個所調査手法検討委員会：空中写真判読とAHP法を用いた地すべり地形再活動危険度評価手法の開発と阿賀野川中流域への適用，日本地すべり学会誌，45(5)，8-16, 2009.1.（*山形大学）

2）三島佳恵*・檜垣大助・牧田肇**：白神山地の小規模地すべり地における微地形と植生の関係季刊地理学，61(2), 109-118, 2009.8.（*日特建設㈱東京支店，**白神マタギ舎）

3）鈴木幸彦*・塚田基治*・檜垣大助：新ＪＦＢ工法を用いた地すべり地におけるコアサンプリング技術の向上―高知県長者地すべりの事例―，日本地すべり学会誌，45(4)，40-44, 2008.11.（*㈱エルデ・ジャパン）

4）檜垣大助・吉村典宏*・小原嬢子**：高知県の内地すべりにおける地形・地質構造発達過程と地下水流動構造，地形, 30(2)，77-93, 2009.7.（*㈱四国トライ，**（独）土木研究所）

5）森屋洋*・阿部真郎*・檜垣大助：新第三系硬質泥岩層地すべりのボーリングコアおよび露頭観察による移動地塊の破砕に関する考察, 日本地すべり学会誌，45(4)，53-60, 2008. 11.（*奥山ボーリング㈱）

東　信行

〈原著論文〉

1）Yamazaki, H., T. Hara, Y. Koyama, T. Hosokawa, A. Kasai, M. Wada, M. Nagasaki, T. Higashino and N. Azuma：Ecosystem and biological production in Lake Jusan；nutrient cycles and spatiotemporal variability, Proceedings of the World Fisheries Congre 2008, 5a0915 460.

2）Hara, T., H. Yamazaki, Y. Koyama, M. Nagasaki, T. Higashino and N. Azuma：A field experimental study of predation to bivalve *Corbicula japonica* in Lake Jusan, Proceedings of the WFC2008, 5a0915 465.

【山形大学】

小山　浩正

〈著書〉

1）小山浩正（2008）豊凶予測の発展型：どこでもできる予測手法.（ブナ林再生の応用生態学. 寺澤和彦・小山浩正　編著，文一総合出版，東京）．127-142.

2）小山浩正（2008）フェノロジカルギャップの発見：開葉のタイミングと稚樹の分布，（ブナ林再生の応用生態学．寺澤和彦・小山浩正　編著，文一総合出版，東京）．143-160.

3）小山浩正（2008）ブナの種子貯蔵方法の開発：地元産種苗の安定供給のために，（ブナ林再生の応用生態学．寺澤和彦・小山浩正　編著，文一総合出版，東京）．235-252.

4）小山浩正（2009）第８章　種子異型性と発芽　―ばらつきのメカニズムと適応的意義―（発芽生物学　種子発芽の生理・生態・分子機構 種生物学会　編　責任編集　吉岡俊人・清和研二，文一総合出版，東京）．179-193.

5）小山浩正・清和研二（2009）第14章　Ⅱ．発芽生態実験（発芽生物学　種子発芽の生理・生態・分子機構 種生物学会　編　責任編集　吉岡俊人・清和研二，文一総合出版，東京）．327-343.

〈原著論文〉

1）小山浩正・長岡あやの・高橋教夫（2008）アオダモ果実の果皮による発芽遅延とそのメカニズム. 日本森林学会誌90：97-102.

2）小山浩正・竹内華純・高橋教夫・石井　健（2008）豪雪地帯のブナ林における母樹からの距離に応じた当年生実生の発生数―種子捕食に対する積雪の保護効果の検証―.日本森林学会誌90：309-312.

3）越智温子・小山浩正*・高橋教夫（2008）サワグルミ（Pterocarya rhoifolia）の種子サイズ変異に花序の小花サイズとその成熟過程が与える影響．森林立地学会誌　森林立地 50：133-140.

高橋　教夫

〈原著論文〉

1）小山浩正・長岡あやの・高橋教夫（2008）：アオダモ果実の果皮による発芽遅延とそのメカ

ニズム，日本森林学会誌，90(2)，97-102.
2）小山浩正・竹内華純・高橋教夫・石井健（2008）：豪雪地帯のブナ林における母樹からの距離に応じた当年生実生の発生数—種子補色に対する積雪の保護効果の検証—．日本森林学会誌，90(5)，309-312，2008.

野堀　嘉裕

〈著書〉

1）Edited by T.Norio, F.L. Feng and Y. Nobori（2008）Toward the Establishment of the Multi-purpose and Long-term Forest Management Plans：Conference Proceedings of Joint International Symposium by Taiwan and Japan, Tsuruoka, 2008. Japan society of Forest planning Press, 148pp

林田　光祐

〈著書〉

1）林田光祐（2009）：赤い実をつける植物は鳥を利用して種子をばらまいているか？，種子を食べるリスや野ねずみは森造りに貢献しているか？，北の森づくりＱ＆Ａ，社団法人北方林業会編，94-97，北方林業会
2）林田光祐（2009）：被食散布と種子発芽—食べられないと死んでしまう種子—，発芽生物学—種子発芽の生理・生態・分子機構—，種生物学会編，173-178，文一総合出版

〈原著論文〉

1）T. SAKAMOTO, S. INOUE, M. OKADA, A. YANAGIHARA, K. HARADA, M. HAYASHIDA, Y. NAKASHIMA 2008（平成20）年：The collision mitigation function of coconut palm trees against marine debris transported by tsunami. Journal of the Japanese Society of Coastal Forest, 7(2), 1-6.
2）T. SAKAMOTO, N. KOBAYASHI, M. OKADA, S. INOUE, T.HIRAISHI, K.HARADA, T. EZAKI, I. AKOJIMA, M.HAYASHIDA, Y.NAKASHIMA 2008(平成20)年：Survey report of the damage caused by the April 2007 Solomon Islands tsunami in the villages of Siboro, Suva, and Pailongge, Ghizo Island - Investigating the effect of trees in reducing tsunami damage -. Journal of the Japanese Society of Coastal Forest, 7(2), 47-54.
3）M. HAYASHIDA, T. SAKAMOTO, M. OKADA, S. INOUE, A. YANAGIHARA, I. AKOJIMA, Y. NAKASHIMA　2008(平成20)年：Endurance of the Casuarina Coastal Forest in Southern Sri Lanka against the Indian Ocean Tsunami. Journal of the Japanese Society of Coastal Forest, 7(3), 1-5.
4）M. OKADA, T. SAKAMOTO, M. HAYASHIDA, S. INOUE, A. YANAGIHARA, I. AKOJIMA, Y. NAKASHIMA　2008(平成20)年：The damage caused by the 2004 Indian Ocean tsunami and the mitigating effects of the mangrove forest against the tsunami -A case study of Medilla, southern Sri Lanka-. Journal of the Japanese Society of Coastal Forest, 7(3), 7-13.

【帯広畜産大学】

岩佐　光啓

〈原著論文〉

1）Ozerov, A. L. and Iwasa, M. 2008. A new species of the genus Toxopoda Macquart, 1851 (Diptera：Sepsidae) from India. Far Eastern Entomologist, N182：10-11.

2）Iwasa, M., Suzuki, N. and Maruyama, M. 2008. Effects of moxidectin on coprophagous insects in cattle dung pats in Japan. Applied Entomology and Zoology, 43：271-280.

3）Iwasa, M. and Mori, S., Furuta, O., Komatsu, T., Iida, T., Nakamori, J. and Kataoka, N. 2008. A bird-parasitic fly, Carnus hemapterus Nitzsch (Diptera, Carnidae) in Japan：Avian hosts, infestations, and human dermatitis caused by adult. Medical Entomology and Zoology, 59：47-53.

4）Iwasa, M. 2008. Revisional notes on the genus Toxopoda Macquart (Diptera, Sepsidae) in the Oriental and Australasian regions. Entomological Science, 11：449-463.

5）岩佐光啓　2008. 動物用医薬品による放牧地の糞の残留汚染―イベルメクチンが非標的糞分解昆虫に及ぼす影響―　環境技術，37：845-851.

柳川　久

〈原著論文〉

1）浅利裕伸，柳川　久．2008．分断された狭小森林に生息するエゾモモンガ Pteromys volans oriiによる巣の利用．野生生物保護 11:7-10.

2）浅利裕伸，東城里絵，柳川　久．2008．異なる生息環境におけるエゾモモンガの巣間移動距離．ANIMATE 7:40-43.

3）浅利裕伸，柳川　久．2008．北海道帯広市に設置されたモモンガ用道路横断構造物のモニタリング．ANIMATE 7:44-49.

4）吉岡麻美，柳川　久．2008．北海道十勝地方の農耕地域における哺乳類による河畔林と防風林の利用．帯広畜産大学学術研究報告 29：66-73.

5）Asari Y, Yanagawa H. 2009. Movement of the Siberian flying squirrel Pteromys volans orii,in fragmented small woods. Biosphere Conservation 9:13-17.

6）明石宏作，柳川　久．2009．秋期におけるエゾシカの交通事故と道路環境との関係．第 8 回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集：9-14.

7）浅利裕伸，東城里絵，原口塁華，柳川　久．2009．エゾモモンガの生態を考慮した保全対策の検討．第 8 回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集：67-72.

8）柳川　久，新津秀幸，幡鎌俊昭，小川雅敏．2009．道東道サービスエリアにおけるバードハウスを用いた環境教育と生態系サービス．第 8 回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集：73-78.

9）谷崎美由記，石塚正仁，柳川 久，鶴谷孝一，浅野哉樹．2009．北海道帯広市のコウモリ用ボックスカルバートのモニタリング（続報）．第 8 回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集：95-102.

10）柳川　久，瀧本育克，佐々木康治．2009．北海道十勝・日高地方の翼手類相（8）中札内村農耕地域の防風保安林における捕獲記録．森林野生動物研究会誌 34：1-6.

11）浅利裕伸，名嘉真咲菜，柳川　久．2009．エゾモモンガによって利用された樹洞とその選択要因の検証．森林野生動物研究会誌 34：16-20.

12）永井靖弘，福田大介，柳川　久．2009．北海道夕張市シューパロ湖周辺のコウモリ類．森林野生動物研究会誌 34：21-30.

押田　龍夫

〈著書〉

1）Hayashida A, Endo H, Sasaki M, Oshida T, Kimura J, Waengsothorn S, Kitamura N, Yamada J.2008. Geographical variation in skull morphology of gray-bellied squirrel callosciurus caniceps in Thailand. Checklist of wild mammal species of Vietnam, pp390-400, Shoukadoh Book Seller, Kyoto

〈原著論文〉

1）Arslan A, Albayrak I, Oshida T. 2008. Banded karyotypes of the Persian squirrel Sciurus anomalus from Turkey. Caryologia 61：139-143.

2）Kariya T, Igarashi M, Wada K, Burkanov VN, Koyama S, Hoshino H, Oshida T. 2008. Mitochondrial cytochrome b gene sequence diversity among Steller's sea lion rookeries in the Kuril Islands and the Sea of Okhotsk. Mammal Study 33：125-129.

3）Kariya T, Igarashi M, Wada K, Burkanov VN, Koyama S, Hoshino H, Oshida T. 2009. Lack of sequence variation of Y chromosome-linked loci in Steller's sea lions（Eumetopias jubatus）from the Iony Island and Kuril Islands. Mammal Study 34：33-36.

4）Oshida T, Arslan A, Noda M. 2009. Phylogenetic relationships among the Old World Sciurus squirrels. Folia Zoologica 58：14-25.

平田　昌弘

〈著書〉

1）平田昌弘．2008．アジア大陸における乳文化圏と発酵乳加工発達史．石毛直道編著，世界の発酵乳，pp. 174-197，はる書房社，東京.

〈原著論文〉

1）平田昌弘．2009．コーカサスにおける乳加工体系―グルジア・アルメニアの農牧民の事例を通して―．Milk Science 58(1)：1-14

2）平田昌弘．2008．発酵乳系列群からクリーム分離系列群へ発達史論～シリアの半農半牧民の事例から～．沙漠研究 18(2)：57-65

第２章　研究助成金

1　生物生産科学専攻

(1)　植物生産学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

雑賀　　優	基盤研究（Ｂ）：	新エンドファイト系統によるミネラル吸収特性改善牧草品種の開発
松嶋　卯月	若手研究（Ｂ）：	野菜接木苗における水の動態と形成層発達過程の解明およびその最適養生条件の検討
庄野　浩資	基盤研究（Ｃ）：	切り花リンドウ花弁の紫外線反射率上昇現象の機構解明とその収穫期・鮮度判定への応用

その他

黒田　榮喜	共同研究	２件	受託研究	１件
小森　貞男	受託研究	２件		
庄野　浩資	受託研究	１件	奨学寄附金	１件
星野　次汪	受託研究	１件	奨学寄附金	２件
築城　幹典	受託研究	１件		
佐川　　了	奨学寄附金	１件		

【弘前大学】

科学研究費

伊藤　大雄	基盤研究（Ｃ）：	リンゴ園における蒸発散量・土壌水分量の統合的推定手法の開発

その他

荒川　　修	共同研究	１件
本多　和茂	共同研究	１件
伊藤　大雄	受託研究	１件

【山形大学】

科学研究費

安藤　　豊　　基盤研究（Ｂ）：熱帯泥炭湿地を利用した持続的・低環境負荷の食料・エネル

ギー生産技術の確立

西澤　　隆	基盤研究（B）	：光触媒を用いた閉鎖系貯蔵システムの開発とエチレンアレロパシーの抑制
西澤　　隆	萌芽研究	：アルカリ加水分解と微生物を併用した園芸作物残渣の処理法に関する研究
村山　秀樹	基盤研究（B）	：セイヨウナシ果実の樹上完熟を阻害するtreeファクターの解析
村山　秀樹	萌芽研究	：簡便で安価な消費者レベルの果実食べ頃判定機の開発
山本　隆儀	基盤研究（C）	：果樹の樹形構築解析システム（CACOAS）を用いた減農薬樹形の探索と解析

その他

安藤　　豊	共同研究	2件	受託研究	1件	奨学寄附金	3件
西澤　　隆	受託研究	1件	奨学寄附金	3件		
藤井　弘志	受託研究	3件	奨学寄附金	5件		
村山　秀樹	共同研究	1件				

【帯広畜産大学】

その他

花田　正明	共同研究	4件	受託研究	2件

⑵　動物生産学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

橋爪　　力	基盤研究（C）	：サルソリノールによる反芻家畜の新しいプロラクチン分泌支配機構の解明
澤井　　健	若手研究（B）	：体細胞クローン胚の発生にともなう遺伝子発現変化とその制御機構の解明

その他

小田　伸一	共同研究	1件	奨学寄附金	1件
松原　和衛	共同研究	1件		
橋爪　　力	受託研究	1件		
澤井　　健	受託研究	1件		
喜多　一美	奨学寄附金	2件		
佐野　宏明	奨学寄附金	1件		

村元　隆行　　奨学寄附金　　1件

【弘前大学】

その他

松﨑　正敏　　受託研究　　　2件

【山形大学】

科学研究費

堀口　健一　　基盤研究（C）：サイレージ抽出液および原材料由来乳酸菌培養液を利用した地域資源乳酸発酵飼料の開発

その他

高橋　敏能　　受託研究　　　2件　　奨学寄附金　　1件

【帯広畜産大学】

その他

柏村　文郎	共同研究	1件				
木田　克弥	共同研究	4件	受託研究	1件	奨学寄附金	1件
鈴木　三義	共同研究	1件	奨学寄附金	1件		
門平　睦代	受託研究	1件				
河合　正人	奨学寄附金	1件				
福井　　豊	奨学寄附金	1件				

⑶　生物制御学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

立石　貴浩　　基盤賢久（C）：寒冷地に定着する植物―微生物共生系の養分・水獲得機能を利用した荒廃地の環境修復

その他

河合　成直　　共同研究　　　1件

【弘前大学】

科学研究費

青山　正和	基盤研究（C）	：腐朽有機物由来の易溶性腐植物質の性状解明と土壌中での動態解析
佐野　輝男	基盤研究（B）	：ノンコーディングRNA病原体“ウイロイド”の自律複製能と病原性発現の分子機構
佐野　輝男	萌芽研究	：病害制御のための樹体表面及び組織内部の病原性・非病原性微生物相の一括診断法の開発
比留間　潔	基盤研究（B）	：ステロイドホルモンによる転写因子の制御とその編隊に及ぼす役割

その他

佐野　輝男	奨学寄附金	2件
比留間　潔	受託研究	1件

【山形大学】

科学研究費

俵谷圭太郎	基盤研究（C）	：菌根菌の外生菌糸の浸出物に含まれる酸性ホスファターゼによる有機態リン酸の利用
長谷　　修	基盤研究（C）	：植物の効率的な生体防御反応（プライミング）機構を探る
安田　弘法	学術図書	：生物間相互作用と害虫管理
我妻　忠雄	基盤研究（A）	：アルミニウム耐性とリンリサイクリング能の分子的改変による酸性土壌耐性植物の創生

その他

俵谷圭太郎	共同研究	1件	受託研究	1件
生井　恒雄	共同研究	1件	奨学寄附金	3件
安田　弘法	受託研究	1件		

【帯広畜産大学】

科学研究費

橋本　　靖	基盤研究（C）	：森林再生の初期段階における外生菌根菌感染源の移入経路の解明

その他

小池　正徳	共同研究	2件

谷　昌幸　共同研究　4件　受託研究　2件　奨学寄附金　2件

2　生物資源科学専攻

⑴　生物機能開発学連合講座

【岩手大学】

その他

磯部　公安	共同研究	2件	奨学寄附金	1件	
平　秀晴	共同研究	1件			
山下　哲郎	受託研究	1件			

【弘前大学】

科学研究費

橋本　勝　基盤研究（B）：多糖－endo型グリコシダーゼ複合体解析に基づく反応機構解明研究

高田　晃　若手研究（B）：作物のアンチエイジングを指向した老化機構に関する研究

その他

石田　幸子	共同研究	3件				
片方陽太郎	共同研究	2件	受託研究	5件		
高田　晃	共同研究	4件	奨学寄附金	1件		
殿内　暁夫	共同研究	2件				
宮入　一夫	共同研究	1件	受託研究	1件	奨学寄附金	1件
吉田　孝	共同研究	1件				

【山形大学】

科学研究費

加来　伸夫　基盤研究（C）：酸性廃水及び高塩濃度廃水の効率的メタン発酵処理に向けた微生物群集の構築と制御

小関　卓也　基盤研究（C）：麹菌由来キシラン分解エステラーゼの構造・機能の解明

その他

上木　厚子	奨学寄附金	1件		
加来　伸夫	奨学寄附金	1件		
小関　卓也	受託研究	1件	奨学寄附金	2件

【帯広畜産大学】

その他

大和田琢二	共同研究	1件	受託研究	3件	奨学寄附金	2件
小嶋　道之	受託研究	1件				

⑵　ゲノム工学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

高畑　義人	基盤研究（B）：	小胞子胚発生関連遺伝子の同定と機能解析
横井　修司	特定領域研究：	小胞子培養を利用した植物の胚発生と種子形成に関与する因子の機能解析
横井　修司	若手研究（B）：	イネの環境シグナルの受容と相転移メカニズムの分子学的解析と育種への応用

その他

高畑　義人	共同研究	1件	受託研究	2件
堤　　賢一	共同研究	1件		

【弘前大学】

科学研究費

姫野　俵太	特定領域研究：	細菌における蛋白質合成異常回避システム
姫野　俵太	基盤研究（B）：	トランス・トランスレーションの分子メカニズム
原田　竹雄	基盤研究（B）：	篩管長距離輸送RNAによる新規品種改良システムの開発
千田　峰生	基盤研究（B）：	ノンコーディングRNA病原体“ウイロイド”の自律複製能と病原性発現の分子機構
千田　峰生	基盤研究（B）：	ダイズにおける低温着色抵抗性識別マーカーの開発
姫野　俵太	基盤研究（C）：	tmRNAによるトランス翻訳の分子機構の解明とその利用
牛田　千里	基盤研究（C）：	機能性RNAの生合成過程に関する研究

その他

福澤　雅志	共同研究	3件
菊池　英明	受託研究	1件

【山形大学】

科学研究費

笹沼　恒雄	萌芽研究	：	ムギ類耐湿性向上のための日本在来野生ムギ類の利用
佐藤　英世	基盤研究（C）	：	食物由来フラボノイドによる新しい生理機能としてのレドックス制御機構
豊増　知伸	基盤研究（B）	：	菌類特有の新奇キメラジテルペン合成酵素の特徴を活かした有用物質生産研究の基盤構築

その他

阿部　利徳	共同研究	1件	受託研究	1件	奨学寄附金	2件
佐藤　英世	受託研究	1件				
豊増　知伸	奨学寄附金	1件				

【帯広畜産大学】

科学研究費

石井　　達	基盤研究（C）	：	ファブリー病に対するシャペロン療法研究用モデルマウスの作成と応用
加藤　清明	基盤研究（C）	：	イネの少分げつ突然変異を用いた分げつ関連遺伝子の同定と機能解析
加藤　清明	特定領域研究	：	腋芽伸長と通気組織形成を制御する膜輸送系の解明

その他

櫛　　泰典	共同研究	1件	奨学寄附金	3件

⑶　生物資源利用学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

伊藤　芳明	基盤研究（C）	：	食品のインスリン抵抗性改善作用による抗糖尿病効果とその作用メカニズムの解析
小出　章二	基盤研究（C）	：	温度周期性に応答するカビ成長パターンの幾何学的解析とポストハーベストへの応用

その他

伊藤　芳明	共同研究	1件				
三浦　　靖	共同研究	3件	受託研究	1件	奨学寄附金	3件

小藤田久義	共同研究	1件				
長澤　孝志	共同研究	1件	受託研究	1件	奨学寄附金	3件
塚本　知玄	共同研究	1件	受託研究	1件		
小野　伴忠	受託研究	1件	奨学寄附金	1件		
木村　賢一	受託研究	2件	奨学寄附金	1件		
小出　章二	奨学寄附金	1件				

【弘前大学】

科学研究費

戸羽　隆宏　基盤研究（C）：乳酸菌による病原菌と上皮細胞とのクロストークへの干渉と感染症予防への応用

【山形大学】

科学研究費

芦谷　竜也　若手研究（B）：セスキルテルペン炭化水素の反応に関する研究

塩野　義人　若手研究（B）：高等植物に着生するチャワンタケ類の収集とそれらを用いた新生理活性物質の探索研究

塩野　義人　特別研究奨励費：中央アフリカ　カメルーンにおける未利用生物資源からの有用生理活性物質の探索研究

夏賀　元康　萌芽研究　：微弱発光分光による農産物の品質測定

貫名　　学　萌芽研究　：エルゴチオネインのビタミン機能の解明

その他

五十嵐喜治	共同研究	2件	受託研究	3件	奨学寄附金	5件
塩野　義人	受託研究	1件				
夏賀　元康	奨学寄附金	1件				
貫名　　学	共同研究	3件				
村山　哲也	奨学寄附金	1件				

【帯広畜産大学】

科学研究費

木下　幹朗　基盤研究（C）：植物由来スフィンゴ脂質の消化管への機能性に関する研究

橋本　　誠　基盤研究（C）：核酸－生体高分子相互作用解析を目指した光アフィニティーラベル法の開発

福島　道広　基盤研究（C）：馬鈴薯澱粉粕および有色馬鈴薯含有色素成分の健康機能性

その他

大西　正男	共同研究	2件	受託研究	2件	奨学寄附金	3件
島田謙一郎	共同研究	1件	受託研究	1件		
木下　幹朗	共同研究	1件				
小田　有二	受託研究	4件	奨学寄附金	1件		
福島　道広	共同研究	1件	受託研究	2件		
弘中　和憲	共同研究	1件	奨学寄附金	1件		
中村　　正	奨学寄附金	1件				
橋本　　誠	奨学寄附金	1件				

3　寒冷圏生命システム学専攻

(1)　熱・生命システム学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

伊藤　菊一　基盤研究（B）：ザゼンソウの発熱現象における新規ＵＣＰ分子の機能解析

吉川　信幸　基盤研究（B）：潜在性ウイルスを利用した新規ＲＮＡサイレンシング誘導ベクターの開発とその応用

伊藤　菊一　萌芽研究　：ザゼンソウ由来の発熱培養細胞系の樹立に関する研究

斎藤　靖史　萌芽研究　：RNA新大陸で発見されたRNAiサーモメーターによる熱・生命システム制御系の開発

佐藤　拓己　基盤研究（C）：マスターキータンパク質を介するニューロン保護のノックアウトマウスを用いた証明

新貝　鉚蔵　新学術領域研究：複数感覚入力に対する行動選択の神経回路

その他

鈴木　幸一	共同研究	3件	受託研究	2件	奨学寄附金	1件
岡田　益己	受託研究	1件				
木藤新一郎	受託研究	1件				
佐藤　拓己	受託研究	1件	奨学寄附金	1件		
伊藤　菊一	奨学寄附金	1件				

【弘前大学】

科学研究費

杉山　修一　基盤研究（B）：気候温暖化に耐性をもつ寒地型牧草品種の作出

石川　隆二　基盤研究（B）：熱帯島嶼辺境部におけるイネ属遺伝資源の再評価

石川　隆二　　基盤研究（C）：シンクサイズに関する枝梗湾曲遺伝子の異なる遺伝 x 環境条件での発現様式の解析

その他

石川　隆二　　受託研究　　1件

【山形大学】

その他

後藤三千代　　受託研究　　1件

【帯広畜産大学】

その他

倉持　勝久　　共同研究　　1件　　奨学寄附金　　1件

日高　　智　　共同研究　　1件　　奨学寄附金　　1件

4　生物環境科学専攻

⑴　地域資源経済学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

木村　伸男　　萌芽研究　　：農業法人の経営成長過程における「息切れ現象」の解明

柴崎　茂光　　若手研究（B）：観光地発展・衰退メカニズムの解明と日本型観光発展モデルの構築

木下　幸雄　　若手研究（B）：国際競争時代における社会的な農業経営者教育システムの再構築

その他

岡田　秀二　　共同研究　　1件

【山形大学】

その他

小沢　　亙　　受託研究　　4件

角田　　毅　　受託研究　　1件

【帯広畜産大学】

科学研究費

澤田　　学	基盤研究（Ｂ）：	食品の安全・資源循環性表示が消費者の購入行動と厚生に及ぼす影響の選択実験分析

その他

仙北谷　康	共同研究	１件

⑵　地域環境工学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

颯田　尚哉	基盤研究（Ｂ）：	産業廃棄物の不法投棄に起因する農業生産への影響低減化手法の開発
武田　純一	基盤研究（Ｃ）：	果樹園用知能化多用途作業台車の開発
古賀　　潔	基盤研究（Ｃ）：	締固め土に封入された空気の挙動とその力学性への影響
三輪　　弌	基盤研究（Ｃ）：	堆砂・洗掘問題の分析に基づいた頭首工計画・設計論の構築
小林　幹佳	若手研究（Ａ）：	地域環境におけるコロイド成分の凝集分散ダイナミックスの解明に向けた基礎的研究

その他

広田　純一	受託研究	１件	奨学寄附金	１件
武田　純一	受託研究	１件		
倉島　栄一	奨学寄附金	１件		
小林　幹佳	奨学寄附金	１件		

【弘前大学】

科学研究費

張　　樹槐	基盤研究（Ａ）：	農業機械・施設・利用技術による耕地環境影響の広域分散ネットワーク型評価手法開発
泉　　　完	基盤研究（Ｃ）：	流れ場環境の違いが河川生息魚の突進遊泳能力に与える影響
工藤　　明	特別研究推進費：	世界遺産・白神山地生態系の総合的研究

その他

張　　樹槐	共同研究	１件
藤崎　浩幸	共同研究	２件

【山形大学】

科学研究費

安中　武幸　　萌芽研究　　　：砂丘地土層における不均一な水の流れの発生とその水・物質移動への影響に関する研究

石川　雅也　　基盤研究（C）：社会の持続的発展を目的とした農地環境基盤の強化とその利用に伴う水質保全機能の解明

その他

安中　武幸	受託研究	1件		
大久保　博	受託研究	1件	奨学寄附金	1件
前川　勝朗	奨学寄附金	1件		

【帯広畜産大学】

その他

佐藤　禎稔	共同研究	1件	奨学寄附金	1件
辻　　　修	共同研究	1件		
土谷富士夫	共同研究	2件	受託研究	1件
宗岡　寿美	共同研究	1件	奨学寄附金	1件
岸本　　正	受託研究	3件		
武田　一夫	奨学寄附金	1件		

(3)　地域環境管理学連合講座

【岩手大学】

科学研究費

青井　俊樹　　基盤研究（B）：野生動物による農林業被害発生機構の解明と被害防除法に関する実証的研究

松木佐和子　　若手研究（B）：人為撹乱後の広葉樹二次林で食葉性昆虫が大発生するメカニズムの解明

澤口　勇雄　　基盤研究（C）：高解像度衛星画像を用いた樹冠抽出による松枯れ被害木探索システムの開発

東　　淳樹　　基盤研究（C）：希少猛禽類の保全を意図した繁殖北限域におけるサシバの繁殖規定要因の解明

その他

関野　　登	受託研究	1件

松木佐和子　受託研究　1件　奨学寄附金　1件
澤口　勇雄　受託研究　1件　奨学寄附金　1件
東　　淳樹　受託研究　1件　奨学寄附金　1件
井良沢道也　奨学寄附金　4件

【弘前大学】

科学研究費

檜垣　大助　基盤研究（B）：白神山地における地すべりが作り出す森林生態系の多様性
東　　信行　萌芽研究　：農業系水域ネットワークに生息する生物の移動履歴に関する生体情報分析法の開発

その他

東　　信行　奨学寄附金　1件

【山形大学】

科学研究費

中島　勇喜　基盤研究（A）：インド洋大津波に対する海岸林の効果の検証と今後の海岸域の保全のあり方
小山　浩正　基盤研究（C）：個体レベルからみたブナの種子生産とその地域間比較＝豊凶予測と貯蔵技術への応用＝
林田　光祐　基盤研究（C）：野生動物の生息環境としての樹洞の資源量と利用される樹洞の特性

その他

中島　勇喜　受託研究　1件　奨学寄附金　1件
林田　光祐　受託研究　1件

【帯広畜産大学】

科学研究費

平田　昌弘　基盤研究（B）：アジア大陸における乳文化圏の解明とアーカイブ構築
本江　昭夫　基盤研究（B）：中国内陸部の乾燥草原の砂漠化におよぼす放牧家畜の影響と荒廃草原の修復技術の確立
本江　昭夫　基盤研究（C）：牧草の曲げ強度が放牧家畜の選択採食におよぼす影響
仲島　義貴　基盤研究（C）：アブラムシの高次寄生峰の行動制御：化学的機構の解明と生物的防除技術への応用

その他

紺野　康夫	共同研究	1件	受託研究	2件	奨学寄附金	1件
本江　昭夫	受託研究	3件				
平田　昌弘	奨学寄附金	1件				
岩佐　光啓	奨学寄附金	1件				
柳川　　久	奨学寄附金	13件				

第３部　組織・運営

第１章　主指導教員となり得る教員の専門分野・研究分野一覧

生物生産科学専攻 Specialty : Science of Bioproduction

植物生産学連合講座　Division : Plant Production

学位　主指導教員氏名(大学) Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名　Research Field 名称　Department	 内 容 Descriptions
農博　堀 川　洋（帯広） Dr.Agr.　HORIKAWA, Yoh(O)	植物工学・草地学 Plant Biotechnology, Grassland Science	遺伝子組換え植物の作出，マメ科牧草と根粒菌の研究 Production of transgenic plants by biotechnology, and study on legume and root nodule bacteria
農博　荒 川　修（弘前） Dr.Agr.　ARAKAWA, Osamu(H)	果樹園芸学 Pomology	果樹の栽培と利用 Physiology of tree growth and fruit quality
理博　葛 西 身 延（弘前） Dr.Sc.　KASAI, Minobu(H)	植物生理学 Plant Physiology	光合成代謝と同化物質輸送分配の制御に関する生理学的研究 Physiological studies on the regulation of photosynthetic metabolism and assimilate partitioning
農博　黒 田 榮 喜（岩手） Dr.Agr.　KURODA, Eiki(I)	作物学 Crop Science	多収性水稲の収量形成過程と乾物生産過程の解析 Analysis of the dry matter production process and yield formation in the high-yielding rice plants
農博　壽松木　章（岩手） Dr.Agr.　SUZUKI, Akira(I)	果樹園芸学 Pomology	落葉果樹における果実の肥大・成熟に関する生理学的研究 Physiology on fruit development and maturation of deciduous fruit tree
農博　星 野 次 汪（岩手） Dr.Agr.　HOSHINO, Tsuguhiro(I)	作物生産管理学・作物育種学 Crop Production Management,Upland Crop Breeding	作物の生産管理学および畑作物の育種 Management of crop production based on sustainable method and breeding of high yielding upland crop cultivar with high quality
農博　安 藤　豊（山形） Dr.Agr.　ANDO, Ho(Y)	作物栽培学 Crop Science(Agronomy)	作物生育の環境要因 Relationship between crop growth and environmental factors
農博　平　智（山形） Dr.Agr.　TAIRA, Satoshi(Y)	果樹園芸学・園芸利用学 Fruit Science	果実の発育および成熟の生理ならびに利用に関する研究 Physiology of fruit development, maturation, and utilization
農博　西 澤　隆（山形） Dr.Agr.　NISHIZAWA, Takashi(Y)	園芸学 Horticulture	果菜類の生理障害および環境ストレス生理に関する研究 Physiological disorder and environmental physiology of vegetables

動物生産学連合講座　Division : Animal Production

学位　主指導教員氏名(大学) Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名　Research Field 名称　Department	 内 容 Descriptions
農博　柏 村 文 郎（帯広） Dr.Agr.　KASHIWAMURA, Fumiro(O)	家畜管理学・馬学 Animal Husbandry, Equine Science	牛と馬の行動と管理に関する研究 Management and behavioral study on cattle and horses
理博　桑 山 秀 人（帯広） Dr.Sc.　KUWAYAMA, Hideto(O)	家畜生理化学 Animal Physiochemistry	家畜におけるペプチドホルモンの制御機構 Regulatory mechanism of peptide hormone in domestic animals
農博　鈴 木 三 義（帯広） Dr.Agr.　SUZUKI, Mitsuyoshi(O)	家畜育種学 Animal Breeding	乳牛の遺伝的改良 Genetic improvement of dairy cattle
ドクター・オブ・フィロソフィー　手 塚 雅 文（帯広） Ph.D.　TETSUKA, Masafumi(O)	生殖生理学 Reproductive Physiology	家畜の卵巣生理学: Ovarian physiology of livestock 1)卵巣におけるエネルギーの取り込みと代謝 1)Energy uptake and utilization in the ovary 2)糖質コルチコイド(ストレスホルモン)と卵巣機能 2)Glucocorticoid(stress hormone) and ovarian function

ﾄﾞｸﾀｰ･ｵﾌﾞ･ﾌｨﾛｿﾌｨｰ 福 井　　豊（帯広） Ph.D.　FUKUI, Yutaka（O）	家畜繁殖学 Animal Reproduction	哺乳動物卵子の体外成熟，受精，発生に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on in vitro maturation, fertilization and development of mammalian ova
農博　鈴 木 裕 之（弘前） Dr.Agr.　SUZUKI, Hiroyuki（H）	家畜繁殖学 Animal Reproduction and Biotechnology	1)卵母細胞の成熟と活性化に関する研究 1)Maturation and activation of mammalian oocytes 2)哺乳動物卵の極性化に関する研究 2)Polarization of mammalian eggs
農博　喜 多 一 美（岩手） Dr.Agr.　KITA, Kazumi(I)	動物栄養学 Animal Nutrition	栄養素による蛋白質代謝回転及び成長促進因子の制御 Nutritional regulation of protein turnover and growth factor
農博　佐 野 宏 明（岩手） Dr.Agr.　SANO, Hiroaki（I）	家畜栄養生理学 Animal Nutrition and Physiology	反芻家畜における栄養素代謝とその調節 Nutrient metabolism and its control in ruminants
農博　高 橋 壽太郎（岩手） Dr.Agr.　TAKAHASHI, Jutaro（I）	発生工学 Animal Embryo Engineering	キメラ動物の動物生産および生物医学的研究への応用 Practical application of chimeric animals for animal production and biomedical research
農博　橋 爪　　力（岩手） Dr.Agr.　HASHIZUME, Tsutomu(I)	家畜繁殖学 Animal Reproduction	家畜の生殖生理と内分泌機構 Reproductive physiology and endocrinology in domestic animal
博(農) 松 原 和 衛（岩手） Dr.Agr.　MATSUBARA, Kazuei(I)	動物育種繁殖学・生殖免疫学 Animal breeding and reproduction, Reproductive Immunology	超早期妊娠因子(Super-EPF)に関する研究・動物遺伝資源の利用に関する研究 Study of super-early pregnancy factor and utilization of animal heredity resource
博(農) 渡 邊　　彰（岩手） Dr.Agr.　WATANABE, Akira(I)	畜産物品質制御学 Meat Quality control	動物の飼養や取扱が食肉の品質及び筋肉に及ぼす影響に関する研究 Studies on meat quality and muscle bilogy as influenced by feeding and/or treatment of animals
農博　高 橋 敏 能（山形） Dr.Agr.　TAKAHASHI, Toshiyoshi（Y）	家畜飼養学 Animal Feeding	1)家畜の肥育に関する栄養生理学的研究 Nutritional and physiological studies on fattening of domestic animals 2)未利用資源の飼料化に関する研究 Studies on development as feed of unused resources.
農博　戸津川　　清（山形） Dr.Agr.　TOTSUKAWA, Kiyoshi（Y）	動物発生工学 Animal Biotechnology	動物の生殖及び発生工学に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on animal reproduction and biotechnology

生物制御学連合講座　Division : Biocontrol and Bioenvironmental Sciences

学位　主指導教員氏名（大学） Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名 Research Field 名称　Department	 内 容　Descriptions
農博　小 池 正 徳（帯広） Dr.Agr.　KOIKE, Masanori(O)	昆虫病理学 Insect Pathology	1)昆虫寄生性菌類による生物防除 1)Biological control using entomopathogenic fungi 2)寄生性*Verticillium*属菌の分子疫学 2)Molecular epidemiology of insect and plant pathogenic *Verticillium* spp
博(農) 谷　　昌 幸（帯広） Dr.Agr.　TANI, Masayuki(O)	土壌学 Soil Science	1)土壌における溶存有機物の動態 1)Dynamics of dissolved organic matter in soils 2)畜産廃棄物の再資源化と有効利用 2)Resource recycling and effective utilization of animal wastes
農博　筒 木　　潔（帯広） Dr.Agr.　TSUTSUKI, Kiyoshi(O)	土壌学 Soil Science	土壌環境および農業生態系における有機物の動態 Dynamics of soil organic matter in soil environment and agricultural ecosystem
農博　青 山 正 和（弘前） Dr.Agr.　AOYAMA, Masakazu(H)	土壌学 Soil Science	土壌環境における有機物の存在状態と動態 Dynamics of organic matter in soil environment
農博　佐 野 輝 男（弘前） Dr.Agr.　SANO, Teruo(H)	植物病理学 Plant Pathology	1)ウイロイド(RNA病原体)の分子構造・病原性と宿主特異性 1)Molecular structure, pathogenesis and host specificity of viroid (RNA pathogen) 2)植物ウイルス・ウイロイド病の診断と防除 2)Diagnosis and control of plant virus and viroid diseases
農博　比留間　　潔（弘前） Dr.Agr.　HIRUMA, Kiyoshi(H)	昆虫生理学・分子昆虫学 Insect Physiology, Molecular Entomology	昆虫の脱皮，変態のホルモン制御 Hormonal control of insect metamorphosis; Hormonal regulation of the transcriptional cascade for larval molting
農博　河 合 成 直（岩手） Dr.Agr.　KAWAI, Shigenao(I)	植物栄養生理学 Plant Nutrition and Physiology	イネ科植物における鉄などの微量必須元素の吸収・移行の機構 Mechanisms of micronutrient absorption and translocation in plants
農博　溝 田 智 俊（岩手） Dr.Agr.　MIZOTA, Chitoshi(I)	同位体地球化学 Stable Isotope Geochemistry of Light Elements	親生物元素の安定同位体地球化学 Isotope geochemistry of biological cycling of biophile light elements
農博　俵谷　圭太郎（山形） Dr.Agr.　TAWARAYA, Keitaro(Y)	植物栄養学・土壌学 Plant Nutrition and Soil Science	菌根形成機構の解明および菌根の利用 Mechanism of mycorrhizal colonization and utilization of mycorrhiza

農博　生 井 恒 雄 （山形） Dr.Agr.　NAMAI, Tsuneo(Y)	植物病理学 Plant Pathology	1)イネいもち病菌の生態に関する研究 1)Ecological studies on rice blast fungus 2)植物病害の総合防除に関する研究 2)IPM of plant disease
農博　安 田 弘 法 （山形） Dr.Agr.　YASUDA, Hironori(Y)	動物生態学 Animal Ecology	節足動物の多種共存機構と害虫の生物的防除に関する研究 Biological control of pest insects
農博　我 妻 忠 雄 （山形） Dr.Agr.　WAGATSUMA, Tadao(Y)	植物栄養学・土壌学 Plant Nutrition and Soil Science	植物の酸性土壌耐性機構と植物による汚染環境の修復 Acid soil tolerance mechanism in plants and phytoremediation

生物資源科学専攻　Specialty : Science of Bioresources

生物機能開発学連合講座　Division : Bioprocess Engineering

学位　主指導教員氏名(大学) Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名　Research Field 名称　Department	 内 容　Descriptions
博(農) 小 嶋 道 之 （帯広） Dr.Agr.　IKOJIMA, Michiyuki(O)	生物化学 Biochemistry	生物機能に影響を及ぼす成分の構造および作用機構の解析 Structure analysis and action mechanism of constituent which affects the biofunction
理博　後 藤　　健 （帯広） Dr.Sc.　GOTO, Ken(O)	光生物学 Photobiology	藻類における生物時計の環境適応機能，特にセルサイクル制御と抗酸化能制御に関連して Studies on adaptational roles of biological clocks in algae, with special reference to regulation of cell cycle progression and defense against environmental stress
理博　石 黒 誠 一 （弘前） Dr.Sc.　ISHIGURO, Seiichi(H)	細胞工学 Cell Technology	視覚のメカニズム，細胞分化のメカニズム Molecular mechanism of vision, Molecular mechanism of cell differentiation
理博　石 田 幸 子 （弘前） Dr.Sc.　ISHIDA, Sachiko(H)	発生生物学 Developmental Biology	動物の胚発生及び再生機構 Animal embryogenesis and regeneration
農博　大 町 鉄 雄 （弘前） Dr.Agr.　OHMACHI, Tetsuo(H)	生物化学 Biochemistry	微生物における遺伝情報発現調節機構とその応用 Gene expression in prokaryotes and lower eukaryotes
農博　片 方 陽太郎 （弘前） Dr.Agr.　KATAGATA,Yotaro(H)	生物化学 Biochemistry	動物培養細胞における細胞の異常分化(腫瘍)とその関連タンパク質の生化学的研究 Abnormal differentiation (tumor) in cultured epithelial cells and biological studies on the related proteins
理博　黒尾(片倉)正樹(弘前) Dr.Sc.　KURO-O(KATAKURA),Masaki(H)	分子細胞遺伝学 Molecular Cytogenetics	脊椎動物における遺伝的多様性の分子遺伝学的研究 Analyses of genetic diversities in vertebrates
理博　鮫 島 正 純 （弘前） Dr.Sc.　SAMESHIMA, Masazumi(H)	植物形態機能学 Plant Cell Structure and Function	休眠体の形成・維持機構 Formation and maintenance of dormancy
理博　橋 本　　勝 （弘前） Dr.Sc.　HASHIMOTO, Masaru(H)	天然物有機化学 Natural Product Chemistry	化学合成手法を用いた天然物化学研究 Study of natural product chemistry employing organic synthesis
農博　宮 入 一 夫 （弘前） Dr.Agr.　MIYAIRI, Kazuo(H)	生物化学 Biochemistry	微生物由来生理活性タンパク質(酵素を含む)の分子構造と機能の解析およびその利用 Molecular structure, function, and utilization of bioactive protein (enzyme etc.) produced by microorganism
農博　礒 部 公 安 （岩手） Dr.Agr.　ISOBE, Kimiyasu(I)	応用微生物学 Applied Microbiology, Enzymology	微生物の産生する酵素の構造と機能の解析およびその応用 Studies on new microbial enzymes screening, structure, function and application
農博　平　　秀 晴 （岩手） Dr.Agr.　TAIRA, Hideharu(I)	生物化学 Biochemistry	細胞のストレス応答に関する研究 Cellular stress response
農博　上 木 厚 子 （山形） Dr.Agr.　UEKI, Atsuko(Y)	微生物資源利用学 Applied and Environmental Microbilogy	メタン生成嫌気性微生物群集の構造と機能およびその利用 Structure, function and application of methanogenic microbial community
理博　上 木 勝 司 （山形） Dr.Sc.　UEKI, Katsuji(Y)	微生物生理学・生態学 Microbial Physiology and Ecology	偏性嫌気性細菌の生理と生態 Physiology and ecology of obligately anaerobic bacteria
博(農) 小 関 卓 也 （山形） Dr.Agr.　KOSEKI, Takuya(Y)	酵素利用学 Applied Enzymology	植物細胞壁分解酵素の機能解析およびその利用研究 Functional analysis and applied studies on plant cell wall-degrading enzymes

ゲノム工学連合講座　Division : Functional Genomics

学位　主指導教員氏名（大学） Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名　Research Field 名称　Department	内　容　Descriptions
薬博　石　井　　達（帯広） Dr.Phar. ISHII, Satoshi（O）	生物化学 Biological chemistry	構造異常タンパク質と糖脂質蓄積に対する細胞内調節機構に関する研究 Studies on cellular regulatory function against the accumulation of misfolding proteins and glycolipids
農博　加　藤　清　明（帯広） Dr.Agr. KATO, Kiyoaki（O）	植物分子育種学 Plant Molecular Breeding	植物育種における分子的基礎と応用 Molecular basis and applied studies on plant breeding
医博　櫛　　泰　典（帯広） M.D. KUSHI, Yasunori（O）	生物化学 Biochemistry	細胞表面の複合脂質の生化学 Biochemistry and cell biology of glycoconjugates
農博　三　浦　秀　穂（帯広） Dr.Agr. MIURA, Hideho（O）	植物遺伝・育種学 Plants Genetics and Breeding	ムギ類およびマメ類の適応性と品質に関する教育研究 Improvement of production and quality in wheat and leguminous crops
博(理) 牛　田　千　里（弘前） Dr.Sc. USHIDA, Chisato(H)	分子生物学 Molecular Biology	機能Rnomics、非翻訳RNAの機能と構造に関する研究 Functional Rnomics, Function and structure of ncRNAs
医博　菊　池　英　明（弘前） M.D. KIKUCHI Hideaki（H）	分子生物学 Molecular Biology	ダイオキシンによるシグナル伝達系活性化機構とその毒性に関する研究 Studies on dioxin mediated signal transduction and its toxicity
博(農) 千　田　峰　生（弘前） Dr.Agr. SENDA, Mineo(H)	植物分子遺伝学 Plant Molecular Genetics	黄大豆の種子着色抑制機構に関する分子遺伝学的研究 Molecular suppressive mechanism of seed pigmentation in yellow soybean
農博　原　田　竹　雄（弘前） Dr.Agr. HARADA, Takeo（H）	植物分子育種学 Plant Molecular Breeding	植物の分子育種学的基礎および応用研究 Theoretical and applied studies on plant molecular breeding
理博　姫　野　俵　太（弘前） Dr.Sc. HIMENO, Hyouta（H）	生化学・分子生物学 Biochemistry, Molecular Biology	RNAの構造と機能，遺伝情報翻訳システムの分子メカニズム Structure and function of RNA,Morecular mechanism of the translation system
理博　福　澤　雅　志（弘前） Dr.Sc. FUKUZAWA,Masashi(H)	発生生物学 Developmental Biology	形態形成に関わる転写因子群の機能解析 Functional analysis of transcription factors involved in morphogenesis
農博　高　畑　義　人（岩手） Dr.Agr. TAKAHATA, Yoshihito（I）	植物育種学 Plant Breeding	バイオテクノロジーを用いた植物育種の理論と応用 Theoretical and applied studies on plant breeding by biotechnology
農博　堤　　賢一（岩手） Dr.Agr. TSUTSUMI, Ken-ichi（I）	分子遺伝学 Molecular Genetics	動・植物細胞の細胞分化機構 Differentiation of animal and plant cells
農博　阿　部　利　徳（山形） Dr.Agr. ABE, Toshinori（Y）	植物遺伝･育種学 Plant Genetics and Breeding	植物のバイオテクノロジーと種子形質の分子遺伝･育種 Plant biotechnology and molecular genetics of seeds for plant breeding
医博　佐　藤　英　世（山形） M.D. SATO, Hideyo（Y）	生化学･分子栄養学 Biochemistry and Molecular Nutrition	1)生体抗酸化系の発現制御機構 1)Regulatory mechanisms of anti-oxidant systems 2)アミノ酸トランスポーターの生理機能 2)Physiological functions of amino acid transporters

生物資源利用学連合講座　Division : Utilization of Bioresources

学位　主指導教員氏名（大学） Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名　Research Field 名称　Department	内　容　Descriptions
農博　大　西　正　男（帯広） Dr.Agr. OHNISHI, Masao（O）	生物機能化学 Biofunctional Chemistry	1)脂質の構造，代謝および生物機能 1)Chemical structure, metabolism, and biological function of membrane lipids 2)食品中の脂質機能と抗酸化能 2)Lipid functionality and antioxidant potency of foods
農博　小　田　有　二（帯広） Dr.Agr. ODA, Yuji(O)	微生物利用学 Applied Microbiology	農畜産物の微生物変換に関する研究 Microbial conversion of agricultural products
農博　橋　本　　誠（帯広） Dr.Agr. HASIMOTO, Makoto(O)	生物有機化学 Bioorganic Chemistry Bioorganic	有機化学的手法を基礎とした生体高分子機能解析 Organic chemistry for functional analysis of biomolecules
農博　弘　中　和　憲（帯広） Dr.Agr. HIRONAKA, Kazunori(O)	食品工学 Food Engineering	農作物の品質保持に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on quality preservation of agricultural products
農博　福　島　道　広（帯広） Dr.Agr. FUKUSHIMA, Michihiro(O)	栄養生化学 Nutritional Biochemistry	栄養生化学およびその分子生物学に関する理論と応用 Theoretical and applied study on nutritional biochemistry and molecular biology
農博　戸　羽　隆　宏（弘前） Dr.Agr. TOBA, Takahiro（H）	食品化学・食品微生物学 Food Chemistry and Microbiology	食品の安全性の向上に関する研究，乳酸菌に関する研究 1)Control of food-borne pathogen 2)Studies on lactic acid bacteria

農博　小 野 伴 忠（岩手） Dr.Agr.　ONO, Tomotada（I）	食品化学 Food Chemistry	加工に伴う食品成分と機能性の変化に関する基礎的研究 Food chemistry on food processing
農博　木 村 賢 一（岩手） Dr.Agr.　KIMURA, Kenichi（I）	ケミカルバイオロジー Chemical Biology	天然資源由来の低分子生物活性物質の化学・生物学的研究 Chemical and Biological Study on Bioprobes derived from Natural Resources
博(農) 小藤田　久義（岩手） Dr.Agr.　KOFUJITA, Hisayoshi(I)	木材化学 Wood Chemistry	天然有機化合物の構造と機能に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on structure and function of natural organic compound
農博　塚 本 知 玄（岩手） Dr.Agr.　TUKAMOTO, Chigen(I)	食品化学 Food Chemistry	大豆加工食品の機能性並びに呈味性の改変 Improvement of functionality and taste characteristics of soyfoods
農博　長 澤 孝 志（岩手） Dr.Agr.　NAGASAWA, Takashi（I）	栄養生化学 Nutritional Biochemistry	1)骨格筋タンパク質の合成と分解の機構とその食品による調節 1)Protein synthesis and degradation in skeletal muscle and its regulation by food 2)活性酸素による生体高分子の修飾とその制御 2)Modification and regulation of bio-molecule by reactive oxygen species
農博　三 浦　　靖（岩手） Dr.Agr.　MIURA, Makoto（I）	食品化学工学 Food chemical engineering	食品の加工，保蔵，品質評価に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on food processing, preservation and quality evaluation
農博　五十嵐　喜治（山形） Dr.Agr.　IGARASHI, Kiharu（Y）	食品・栄養化学 Food and Nutritional Chemistry	食品素材中の栄養生理機能物質の化学と機能発現機構 Chemistry of nutritionally and physiologically functional substances in foodstuffs and studies on their function mechanism
農博　高 橋 孝 悦（山形） Dr.Agr.　TAKAHASHI, Koetsu（Y）	森林資源利用学 Forest products	樹木の成分と利用に関する研究 Study of chemical component and its utilization on trees
農博　夏 賀 元 康（山形） Dr.Agr.　NATSUGA, Motoyasu（Y）	農産物加工工学 Agricultural Process Engineering	農産物の非破壊計測 Non-destructive analysis of agricultural product
農博　貫 名　　学（山形） Dr.Agr.　NUKINA, Manabu（Y）	生理活性天然物化学 Natural Products Chemistry of the Bio-Active Substances	生理活性天然物に関する研究 Bio-organic chemistry of the bio-active natural products
農博　村 山 哲 也（山形） Dr.Agr.　MURAYAMA, Tetsuya（Y）	生物有機化学 Bioorganic Chemistry	自生生物に含まれる重要な物質の化学 Chemical studies on the important substance contained in Plants

寒冷圏生命システム学専攻　Specialty : Science of Cryobiosystems

熱・生命システム学連合講座　Division : Thermo-Biosystem Relations

学位　主指導教員氏名（大学） Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名 Research Field 名称　Department	 内　容　Descriptions
農博　日 高　　智（帯広） Dr.Agr.　HIDAKA, Satoshi(O)	家畜管理学 Animal Husbandry	家畜の生理と生産性に及ぼす環境の影響 Effect of environment on animal physiology and performance
理博　山 本 紳 朗（帯広） Dr.Sc.　YAMAMOTO, Shinro（O）	作物生理学 Crop Physiology	草地と耕地における作物と環境にかかわる植物生理学 Plant physiology on grassland and crop field
農博　赤 田 辰 治（弘前） Dr.Agr.　AKADA, Shinji(H)	植物分子生物学 Plant Molecular Biology	マメ科植物及びブナにおける環境応答の分子機構 Molecular mechanisms underlying environmental responses in Legume and beech
農博　石 川 隆 二（弘前） Dr.Agr.　ISHIKAWA, Ryuji(H)	植物育種学・植物遺伝学 Plant Genetics and Breeding	1)イネの適応性遺伝子の遺伝学的解析 2)トランスポゾンによる遺伝子タッギングシステムの開発 Functional genomics of rice genes
農博　杉 山 修 一（弘前） Dr.Agr.　SUGIYAMA, Shuichi(H)	作物学・草地学 Crop Science and Grassland Ecology	イネ科植物の環境適応戦略の生理機構と遺伝的背景に関する研究 Physiological mechanism and genetic background of adaptive strategy in grass species
理博　一ノ瀬　充行（岩手） Dr.Sc.　ICHINOSE, Mitsuyuki(I)	生理学 Physiology	生活環境および福祉機器の快適性に関する人間生理工学 Physiological Human engineering for comfortable environment in livelihood
医博　伊 藤 菊 一（岩手） M.D.　ITO, Kikukatsu(I)	システム生物学 Systems Biology	植物の発熱制御機構に関する研究 Thermoregulation in plants
理博　上 村 松 生（岩手） Dr.Sc.　UEMURA, Matsuo(I)	植物生理学 Plant Physiology	植物の寒冷ストレス適応に関する分子生理学的研究とその応用 Physiological and molecular biological studies on cold adaptation in plants
農博　岡 田 益 己（岩手） Dr.Agr.　OKADA, Masumi(I)	農業気象学 Agrometeorology	気候変動に対する植物生長応答の評価 Evaluation of plant growth responses to climate change
理博　菅 野 洋 光（岩手） Dr.Sc.　KANNO, Hiromitsu(I)	農業気象学 Agro-meteorology	東北地方における「やませ」および夏季気象変動に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on ‘Yamase’ and summertime meteorological fluctuations over the Tohoku Region

農博　小 池 説 夫 （岩手） Dr.Agr.　KOIKE, Setsuo(I)	作物生理学 Crop Physiology	作物の冷温障害の生理生化学的研究 Physiological and biochemical studies on chilling injury in crops
医博　佐 藤 拓 己 （岩手） M.D.　SATOH, Takumi(I)	神経科学・細胞生物学 Neuroscience, Cell Biology	親電子性物質による脳保護機構 Cysteine regulation of neuron survival by electrophilic
理博　新 貝 鉚 蔵 （岩手） Dr.Sc.　SHINGAI, Ryuzo(I)	神経科学 Neuroscience	神経情報処理 Neural information processing
農博　鈴 木 幸 一（岩手） Dr.Agr.　SUZUKI, Koichi(I)	昆虫生理学 Insect Physiology	1)昆虫の機能利用 1)Insect biotechnology 2)昆虫休眠の分子機構 2)Molecular mechanism of insect diapause
農博　寺 内 良 平 （岩手） Dr.Agr.　TERAUCHI, Ryohei(I)	植物遺伝学 Plant Genetics	組み換え植物の作出に関する研究 Researches on transgenic plants
博(理) 西 原 昌 宏 （岩手） Dr.Sc.　NISHIHARA, Masahiro(I)	植物分子育種学 Plant Molecular Breeding	植物分子育種におけるバイオテクノロジーの基礎及び応用概論 Basic and applied biotechnology for plant molecular breeding
農博　吉 川 信 幸 （岩手） Dr.Agr.　YOSHIKAWA, Nobuyuki(I)	植物病理学 Plant Pathology	寒冷地果樹ウイルスのゲノムの構造と機能に関する研究 Structure and function of the genomes of the viruses isolated from fruit trees
理博　三 橋 　渉 （山形） Dr.Sc.　MITSUHASHI, Wataru(Y)	植物生化学 Plant Biochemistry	植物体細胞胚の形成機構の研究 Study on Plant Somatic Embryogenesis

生物環境科学専攻　Specialty : Science of Biotic Environment

地域資源経済学連合講座　Division : Rural Resource Economics

学位　主指導教員氏名(大学) Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名 Research Field 名称 Department	 内 容 Descriptions
農博　澤 田 　学 （帯広） Dr.Agr.　SAWADA, Manabu(O)	農業経済学 Agricultural Economics	食料需要分析・食品安全性の経済評価・甘味資源政策の厚生分析 Food Demand Analysis/Economic Evaluation of Food Safety/Welfare Analysis of Sweetenar and Sweetener Crop Policy
博(農) 仙北谷 　康 （帯広） Dr.Agr.　SENBOKUYA, Yasushi(O)	農業経済学 Agricultural Economics	農場における衛生管理高度化の経済分析・農産物流通の比較構造分析 Economic Analysis on the Development of Farm Level Hygiene Management/ Comparative Analysis on the Distribution System of Agricultural Products
農博　樋 口 昭 則 （帯広） Dr.Agr.　HIGUCHI, Akinori(O)	農業経営学 Farm management	農業経営計画及び地域農業計画に関する理論と応用 Theoretical and applied studies on farm and regional agricultural planning
農博　神 田 健 策 （弘前） Dr.Agr.　KANDA, Kensaku(H)	協同組合学 Co-operative Studies	現代社会における協同組合の機能・組織の役割と関係 Study on the function and role of co-operatives in modern society
農博　澁 谷 長 生 （弘前） Dr.Agr.　SHIBUYA, Cyousei(H)	農業経済学 Agricultural Economics	地域資源管理システムに関する研究 Study on systems of regional resource management
農博　岡 田 秀 二 （岩手） Dr.Agr.　OKADA, Shuji(I)	山村経済論 Economics of Mountain Village	山村経済の構造変貌と地域開発政策・山村政策の展開 Study on the regional development and the sturucture of mountain village economy
農博　玉 　真之介 （岩手） Dr.Agr.　TAMA, Shinnosuke(I)	農業経済学・農業史 Agricultural Economics, Agricultural History	日本農業の社会経済的性格についての考察 Socio-economic study on Japanese agriculture
文博　岩 鼻 通 明 （山形） Dr.Lit.　IWAHANA, Michiaki(Y)	環境地理学 Environmental Geography	山村の環境と開発に関する研究 Study on the environment and development of mountain village
農博　小 沢 　亙 （山形） Dr.Agr.　OZAWA, Wataru(Y)	農業経済学 Agricultural Economics	経営の効率性に関する研究・農村地域の合意形成に関する研究 Study on management efficiency / Study on consensus-building of rural area
農博　菊 間 　満 （山形） Dr.Agr.　KIKUMA, Mitsuru(Y)	林業経済学 Forest Economy	山林の資源管理と木材・住宅市場に関する経済理論と政策 Economic theory and policy on resources management of mountain village and wood house market

地域環境工学連合講座　Division : Agricultural and Environmental Engineering

学位　主指導教員氏名(大学) Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名 Research Field 名称　Department	内　容　Descriptions
農博　岸 本　　正 （帯広） Dr.Agr.　KISHIMOTO, Tadashi(O)	農業機械学 Agricultural Machinery	1)農用車両走行装置の動力学的特性の解析 1)Dynamics of traction device of agricultural vehicle 2)家畜ふん尿の土壌還元技術に関する研究 2)Development of application technology for dairy manure slurry
農博　佐 藤 禎 稔 （帯広） Dr.Agr.　SATO, Tadatoshi(O)	農業機械学 Agricultural Machinery	1)農業機械のメカトロニクス化に関する研究 1)Studies on mechatronics in agricultural machinery 2)環境保全のための農薬散布技術の開発 2)Development of agrochemical application technology for environmental preservation
農博　柴 田 洋 一 （帯広） Dr.Agr.　SHIBATA, Youichi(O)	農業機械学 Agricultural Machinery	作物生産システム工学 Crop production system engineering
理博　武 田 一 夫 （帯広） Dr.Sc.　TAKEDA, Kazuo(O)	雪氷学・寒地工学 Cold Regions Science and Technology	寒冷地域における雪氷現象の解明，自然環境の保全・防災に関わる雪氷・土壌凍結・緑化技術の研究 Research of science and technology on environmental preservation and prevention disasters in cold regions
農博　辻　　修 （帯広） Dr.Agr.　TSUJI, Osamu(O)	農地保全学 Soil and Water Conservation	1)寒冷地における土壌浸食防止 1)Water and wind erosion in cold regions 2)GISを用いた耕地防風林存続に関する研究 2)Conservation of windbreaks using GIS
農博　土谷　富士夫 （帯広） Dr.Agr.　TSUCHIYA, Fujio(O)	農業土木学 Soil Physics, Geotechnical Engineering, Hydrology	土壌凍結・凍上が農地に及ぼす影響に関する理論と応用 Studies on soil freezing and frost heaving on agricultural land in cold regions
農博　泉　　完 （弘前） Dr.Agr.　IZUMI, Mattashi(H)	農業水利学 Irrigation, Drainage and Hydraulic Engineering	水利構造物の水理設計と水田用水量 Hydraulic design of hydraulic facilities and water requirement
農博　工 藤　　明 （弘前） Dr.Agr.　KUDO, Akira(H)	環境水利学 Environmental water use engineering	1)森林流域からの流出、流出負荷量について 1) Runoff and effluent load on forested catchments 2)農村地帯の水環境と水質改善 2)Water environment and water quality conservation in rural areas
農博　佐々木　長市 （弘前） Dr.Agr.　SASAKI, Choichi(H)	農地工学 Agricultural Land Engineering	降下浸透水の浸透型が層内諸現象に及ぼす影響に関する研究 Studies on the influence of percolation pattern in seepage water on several phenomena in a layer
農博　高 橋 照 夫 （弘前） Dr.Agr.　TAKAHASHI, Teruo(H)	農業情報工学 Aguricultural Information Engineering	1)地域・環境及び農業分野における情報システム・ネットワークの利用向上 1)Improvement of information system and network for agriculture 2)農業分野におけるマシンビジョンの応用 2)Application of machine vision for agriculture
農博　谷 口　　建 （弘前） Dr.Agr.　TANIGUCHI, Ken(H)	農村計画学 Rural Planning	農村道路の配置と景観 Location and landscape of farm road
農博　張　　樹 槐 （弘前） Dr.Agr.　ZHANG, Shu Huai(H)	農業機械学 Agricultural Machinery	1)画像処理技術の農業への応用 1)Applications of image processing technology for agriculture 2)農産物品質の非破壊計測 2)Non-destructive measurements for agricultural product's quality
工博　万 木 正 弘 （弘前） Dr.Eng.　YURUGI, Masahiroi(H)	構造力学・土木材料学 Structural Mechanics, Construction Materials	品質変動がコンクリートの耐久性に及ぼす影響，寒冷地におけるアスファルトの利用研究 Effect of quality variation on durability of concrete structures. Thermal stresses of asphalt mixturea at low temperature.
農博　倉 島 栄 一 （岩手） Dr.Agr.　KURASHIMA, Eiichi(I)	水文学 Hydrology	大気と地表の熱交換が関与する流出の研究 Research on watershed runoff relevant to heat transfer at the air-ground interface
農博　古 賀　　潔 （岩手） Dr.Agr.　KOGA, Kiyoshi(I)	農地土工学 Agricultural Land and Soil Engineering	農業・農地における土壌の理工学性 Pysical and mechanical characteristics of soils in and aglicaltural land
農博　武 田 純 一 （岩手） Dr.Agr.　TAKEDA, Jun-ichi(I)	農業機械学 Agricultural Machinery	農作業システムの自動化 Automation for agricultural systems
農博　広 田 純 一 （岩手） Dr.Agr.　HIROTA, Jun-ichi(I)	農村計画学 Rural Planning	農村地域の整備と保全に関わる計画と政策 Rural planning and rural development
農博　廣 間 達 夫 （岩手） Dr.Agr.　HIROMA, Tatsuo(I)	農業機械学 Agricultural Machinery	オフロード車両の走行力学 Off road vehicle traction mechanics

農博　三 輪　　式（岩手） Dr.Agr.　MIWA, Hajime（I）	河川構造物論 Problems on Hydraulic Structures	河川横造物(堰，床止め，護岸，堤防など)の計画・設計・管理 Planning, design and operation of hydraulic structures (divesion dams, river protection works, embankments, etc.)
農博　大久保　　博（山形） Dr.Agr.　OKUBO, Hiroshi（Y）	河川環境工学・農業水利学 Stream conservation and agricultural water use engineering	河川環境工学および農業水利学に関する基礎および理論と応用 Fields research and analysis of influences and impacts of human activity to stream, river and agricultural channel bio-environment aimed to countermeasures

地域環境管理学連合講座　Division : Environmental Resource Management

学位　主指導教員氏名（大学） Name of Proffesor(affiliation)	教育研究分野名　Research Field 名称　Department	 内 容　Descriptions
医博　岩 佐 光 啓（帯広） M.D.　IWASA, Mitsuhiro（O）	昆虫分類学･環境昆虫学 Insect Taxonomy Environmental Entomology	畜産に関連する双翅目ハエ類の分類，生態，疫学に関する研究 Studies of taxonomy,ecology and epidemiology of dipterous flies associated with agriculture and veterinary medicine
農博　本 江 昭 夫（帯広） Dr.Agr.　HONGO, Akio(O）	草地学 Grassland Science	植物の放牧適性，および過放牧による草地の砂漠化の防止 Adaptability of plants to grazing,and control of desertification of overgrazed pasture
農博　柳 川　　久（帯広） Dr.Agr.　YANAGAWA, Hisashi(O）	野生動物管理学 Wildlife Science	哺乳類と鳥類の生態，分類，保護及び管理に関する研究 Mammalogy and ornithology for wildlife management
理博　檜 垣 大 助（弘前） Dr.Sc.　HIGAKI, Daisuke(H）	砂防学・応用地形学 Erosion Control Engineering, Engineering Geomorphology	山地流域管理と斜面災害対策に関する研究 Mountain watershed management, landslide hazard management
農博　青 井 俊 樹（岩手） Dr.Agr.　AOI, Toshiki(I）	野生動物管理学 Wildlife Management	野生動物の生態と生息環境のあり方に関する理論と方法 Study for relationship between habitat management and wildlife ecology
学博　井良沢 道也（岩手） Dr.Ph.　IRASAWA, Michiya(I）	砂防学 Erosion Control Engineering	1)土砂移動現象の解明と防止に関する研究 1)Study for technique on prevention of soil erosion 2)森林における水文特性の解明及び緑化に関する研究 2)Study for hydrological characteristic in the forest and technique of revegetation
農博　澤 口 勇 雄（岩手） Dr.Agr.　SAWAGUCHI, Isao(I）	森林管理学 Forest Management	森林生産基盤の整備計画法に関する理論と応用 Theoretical and applied study on forest-road networks design
農博　関 野　　登（岩手） Dr.Agr.　SEKINO, Noboru(I）	木質材料学 Wood-based Material	木質複合材料の製造技術と応用 Production technology and utilization of wood-based composites
農博　橋 本 良 二（岩手） Dr.Agr.　HASHIMOTO, Ryoji(I）	森林育成学 Sylvicultural Science	森林の更新・生産過程における木本種の環境生理 Environmental physiology of woody plant species in regeneration and production processes of forests
農博　比屋根　　哲（岩手） Dr.Agr.　HIYANE, Akira(I）	森林計画学・環境教育論 Forest Planning Environmental Education	1)国有林における森林施業史の分析 1)The history of forest working system in Japan national forest 2)環境教育における教育評価手法 2)The evaluation method of environmental education
農博　小野寺 弘道（山形） Dr.Agr.　ONODERA, Hiromichi(I）	森林雪氷学・砂防学 Forest and Snow Science, Erosion Control Engineering	積雪環境と森林の動態に関する研究 Studies on snow environment and forest dynamics
農博　高 橋 教 夫（山形） Dr.Agr.　TAKAHASHI, Norio(Y）	森林経理学 Forest Management	森林施業および森林調査の理論･技術 Theory and application of forest management and forest inventory
農博　野 堀 嘉 裕（山形） Dr.Agr.　NOBORI, Yoshihiro(Y)	森林情報学 Forest Intelligence	森林情報の多目的利用 Multi-purpose inventory of forest information

第2章　各種委員会等

1　研究科教授会

⑴　構成員

連合講座	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学
研究科長	雑賀　優			
研究科長補佐	比屋根　哲			
植物生産学	黒田　榮喜	荒川　修	安藤　豊	花田　正明
(17人)	雑賀　優	葛西　身延	平　智	
	壽松木　章	伊藤　大雄	高樹　英明	
	星野　次汪	大河　浩	西澤　隆	
	小森　貞男		藤井　弘志	
	庄野　浩資			
	築城　幹典			
動物生産学	喜多　一美	鈴木　裕之	高橋　敏能	柏村　文郎
(19人)	佐野　宏明	松崎　正敏	木村　直子	鈴木　三義
	高橋　壽太郎		堀口　健一	福井　豊
	橋爪　力			木田　克弥
	小田　伸一			桑山　秀人
	出口　善隆			手塚　雅文
	松原　和衛			古村　圭子
生物制御学	河合　成直	青山　正和	俵谷　圭太郎	筒木　潔
(17人)	溝田　智俊	佐野　輝男	生井　恒雄	小池　正徳
	磯貝　雅道	佐原　雄二	安田　弘法	谷　昌幸
	立石　貴浩	比留間　潔	我妻　忠雄	橋本　靖
		田中　和明		
生物機能開発学	礒部　公安	石黒　誠一	上木　厚子	後藤　健
(21人)	平　秀晴	石田　幸子	上木　勝司	大和田　琢二
	山下　哲郎	大町　鉄雄		小嶋　道之
	若林　篤光	小原　良孝		
		片方　陽太郎		
		黒尾(片倉)正樹		
		鮫島　正純		
		橋本　勝		
		宮入　一夫		
		高田　晃		
		殿内　暁夫		
		吉田　孝		
ゲノム工学	高畑　義人	菊池　英明	阿部　利徳	石井　達
(15人)	堤　賢一	原田　竹雄	佐藤　英世	櫛　泰典
	横井　修司	姫野　俵太		三浦　秀穂
		牛田　千里		加藤　清明
		柏木　明子		
		千田　峰生		

連合講座	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学
生物資源利用学 (22人)	小野　伴忠 長澤　孝志 伊藤　芳明 木村　賢一 小藤田　久義 三浦　靖 塚本　知玄		五十嵐　喜治 高橋　孝悦 夏賀　元康 貫名　学 村山　哲也 塩野　義人	大西　正男 小田　有二 関川　三男 福島　道広 木下　幹朗 小疇　浩 島田　謙一郎 橋本　誠 弘中　和憲
熱・生命システム学 (16人)	一ノ瀬　充行 伊藤　菊一 上村　松生 岡田　益己 新貝　鉚蔵 鈴木　幸一 吉川　信幸 木藤　新一郎 斎藤　靖史	杉山　修一 赤田　辰治 石川　隆二	三橋　渉	日高　智 山本　紳朗 倉持　勝久
地域資源経済学 (14人)	岡田　秀二 木村　伸男 玉　真之介 木下　幸雄 柴崎　茂光 山本　信次	宇野　忠義 神田　健策 澁谷　長生 武田　共治	小沢　亙 菊間　満 角田　毅	樋口　昭則
地域環境工学 (20人)	古賀　潔 倉島　栄一 広田　純一 三輪　弌 小林　幹佳 武田　純一	工藤　明 佐々木　長市 高橋　照夫 谷口　建 万木　正弘 張　樹槐 藤﨑　浩幸	前川　勝朗	武田　一夫 土谷　富士夫 宗岡　寿美 岸本　正 佐藤　禎稔 辻　修
地域環境管理学 (13人)	青井　俊樹 橋本　良二 比屋根　哲 井良沢　道也 國﨑　貴嗣	檜垣　大助	小野寺　弘道 中島　勇喜 野堀　嘉裕	本江　昭夫 押田　龍夫 平田　昌弘 柳川　久
(174人)	(58人)	(44人)	(30人)	(42人)

(2) 審議事項

開催年月日	審議事項
平成20年９月10日	1　平成20年度10月入学者選抜試験等合格者の選考について 2　平成20年度10月入学者選抜試験等合格予定者の研究題目及び指導教員（補助教員を含む）の決定について 3　学位授与の認定について 4　平成20年度教員資格審査について 5　岩手大学大学院連合農学研究科代議員会に審議を付託する事項の一部改正（案）について
平成21年２月13日	1　連合農学研究科長候補者の決定について 2　平成21年度４月入学者選抜試験等合格者の選考について 3　平成21年度４月入学者選抜試験等合格予定者の研究題目及び指導教員（補助教員を含む。）の決定について 4　規則の改正等について 5　学位授与の認定について 6　単位制学生の修了認定について 7　平成21年度連合農学研究科予算配分方針（案）について 8　平成21年10月入学学生募集要項について

2　代議員会

⑴　平成20年度委員

役職・専攻	連合講座	氏　　名	所属大学
研究科長		平　　秀　晴	
研究科長補佐		比屋根　　哲	
生物生産科学	植物生産学	西　澤　　隆	山形大学
	動物生産学	鈴　木　三　義	帯広畜産大学
	生物制御学	溝　田　智　俊	岩手大学
生物資源科学	生物機能開発学	上　木　厚　子	山形大学
	ゲノム工学	櫛　　泰　典	帯広畜産大学
	ゲノム工学	姫　野　俵　太	弘前大学
	生物資源利用学	長　澤　孝　志	岩手大学
寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	杉　山　修　一	弘前大学
	熱・生命システム学	一ノ瀬　充　行	岩手大学
生物環境科学	地域資源経済学	澁　谷　長　生	弘前大学
	地域環境工学	武　田　一　夫	帯広畜産大学
	地域環境管理学	野　堀　嘉　裕	山形大学

⑵　審議事項

開 催 年 月 日	審　　議　　事　　項
平成20年４月７日	1　中期目標期間評価への対応について 2　平成20年度教員資格審査及び再審査の実施について 3　学位論文の受理及び学位審査委員会の設置について 4　指導教員の変更について 5　14条特例制度について 6　長期履修について 7　中間発表会の実施について 8　学生の異動について 9　連大研究員の受入について 10　ＴＡ・ＲＡの決定について 11　平成20年度連合農学研究科長裁量経費について 12　平成20年度専攻別特論・特別ゼミナールについて 13　平成20年度入学料及び前期授業料免除申請について 14　平成20年度教員会議及び新入生歓迎会について

開 催 年 月 日	審　　議　　事　　項
平成20年５月16日	1　平成20・21年度岩手連大代議員会の重点検討課題について 2　中期目標期間評価への対応について 3　平成20年度科学コミュニケーション（合宿）の実施計画について 4　14条特例について 5　指導教員の変更について 6　平成20年度連合農学研究科予算配分（案）について 7　岩手大学大学院連合農学研究科代議員会に審議を付託する事項の改正について 8　カナダ・サスカチュワン大学との交流協定締結記念シンポジウムについて
平成20年６月13日	1　中期目標期間評価への対応について 2　教員資格審査委員会の設置について 3　主指導教員の再審査について 4　専攻別特論及び特別ゼミナールの実施計画について 5　研究インターンシップについて
平成20年７月18日	1　学位論文の受理及び学位審査委員会の設置について 2　平成20年10月入学者資格認定について 3　平成20年10月入学者出願に伴う入試委員の推薦及び委嘱について 4　平成21年度４月学生募集要項（案）について 5　岩手連大の学生表彰について（９月課程修了者分） 6　専攻会議の開催について 7　大学院担当手当（俸給の調整額）について 8　カナダ・サスカチュワン大学との交流協定締結記念シンポジウムについて
平成20年８月７日	1　平成20年10月入学者の出願状況及び入学試験等委員会委員の委嘱について
平成20年９月10日	1　平成20年度10月入学者選抜試験等合格者の選考について 2　平成20年度10月入学者選抜試験等合格予定者の研究題目及び指導教員（補助教員を含む）の決定について 3　入学者選抜試験方法について 4　平成21年４月学生募集要項（案）への追加について 5　学位論文審査結果及び学位授与の認定について 6　学位論文の受理及び学位審査委員会の設置について 7　指導教員（補助教員を含む）の変更について 8　学生の異動について 9　平成20年度連大専攻会議について
平成20年10月10日	1　学位論文の受理及び学位審査委員会の設置について 2　連合農学研究科長候補者の選考実施計画について 3　指導教員の変更について 4　中間発表会及び学位審査委員会でのＴＶ会議システムの活用について 5　14条特例について 6　長期履修について 7　連合農学研究科研究員の受入について 8　平成20年10月入学に係る連合農学研究科追加予算配分（案）について 9　平成21年度連合農学研究科行事日程（案）について

開 催 年 月 日	審　　議　　事　　項
平成20年11月７日	1　平成21年４月入学者選抜試験出願資格認定審査について 2　学位論文提出者の提出資格確認について 3　岩手大学大学院連合農学研究科長選考規則の一部を改正する規則（案）について 4　長期履修について 5　連合農学研究科研究員の受入について 6　代議員会の審議結果等の周知について 7　学位論文中間発表会報告書の記載方法について
平成20年12月２日	1　連合農学研究科研究員の受入について
平成21年１月９日	1　研究科長候補者（３名）の決定について 2　学位論文の受理及び学位審査委員会の設置について 3　平成21年度４月入学者選抜試験等について 4　平成21年度10月入学者学生募集要項（案）について 5　平成21年度連合農学研究科予算配分基本方針（案）について 6　専攻別特別研究科目の単位の認定要件等について 7　岩手連大退学者の博士論文への学位申請要件の一部改正（案）について 8　平成21年度ＲＡ・ＴＡの基本方針（案）について 9　14条特例の申請について 10　連合農学研究科研究員の研究期間の変更について 11　点検評価委員会報告について 12　広報編集委員会委員の選出について 13　平成20年度学位記伝達式及び学位授与祝賀会について 14　平成21年度連合農学研究科行事日程（案）について
平成21年１月26日	1　研究科長候補者選挙結果について
平成21年２月13日	1　平成21年度4月入学者選抜試験等合格者の選考について 2　平成21年度4月入学者選抜試験等合格予定者の研究題目及び指導教員（補助教員を含む）の決定について 3　学位論文審査結果及び学位授与の認定について 4　学位論文の受理及び学位審査委員会の設置について 5　非常勤講師及びプロジェクト教員の採用について 6　学生の異動について 7　他大学院等における研究指導について 8　平成21年3月期連合農学研究科学生表彰者について 9　平成20年度連合農学研究科第一種奨学金返還免除候補者の選考について 10　連合農学研究科研究員の研究期間の変更について 11　指導教員（補助教員を含む）の変更について 12　規則の改正等について 13　平成21年度連合農学研究科予算配分基本方針（案）について 14　平成21年度入学式及び新入生に対するオリエンテーションについて

第３章　有資格教員一覧

平成20年４月１日現在

専攻	連合講座	弘前大学 主指導教員	弘前大学 副指導教員 教授	弘前大学 副指導教員 准教授	弘前大学 副指導教員 講師	弘前大学 副指導教員 助教	弘前大学 人数	岩手大学 主指導教員	岩手大学 副指導教員 教授	岩手大学 副指導教員 准教授	岩手大学 副指導教員 講師	岩手大学 副指導教員 助教	岩手大学 人数
生物生産科学	植物生産学	荒川　修 葛西　身延		伊藤　大雄 大河　浩 本多　和茂 松山　信彦			6	黒田　榮喜 雑賀　優 壽松木　章 星野　次汪		魚住　順○ 稲田委久子 嬉野　健次 小森　貞男 庄野　浩資 築城　幹典 松嶋　卯月			11
生物生産科学	動物生産学	鈴木　裕之		松﨑　正敏			2	喜多　一美 佐野　宏明 高橋壽太郎 橋爪　力 松原和衛※ 渡邊　彰○		小田　伸一 村元　隆行	出口　善隆	澤井　健	10
生物生産科学	生物制御学	青山　正和 佐野　輝男 比留間　潔	佐原　雄二	田中　和明 松岡　教理			6	河合　成直 溝田　智俊		磯貝　雅道 立石　貴浩			4
生物資源科学	生物機能開発学	石黒　誠一 大町　鉄雄 小原　良孝 片方陽太郎 黒尾(片倉)正樹 鮫島　正純 橋本　勝 宮入　一夫 石田　幸子		高田　晃 殿内　暁夫 吉田　孝			12	礒部　公安 平　秀晴		佐藤利次○ 山下　哲郎 荒木功人＊		若林篤光＊	6
生物資源科学	ゲノム工学	菊池　英明 原田　竹雄 姫野　俵太 牛田千里※ 千田峰生※ 福澤雅志※		柏木　明子			7	高畑　義人 堤　賢一		横井　修司			3
生物資源科学	生物資源利用学	戸羽　隆宏					1	小野　伴忠 長澤　孝志 木村賢一※ 小藤田久義※ 塚本知玄※ 三浦　靖※		伊藤　芳明 小出　章二			8
寒冷圏生命システム学	熱・生命システム学	杉山　修一 赤田辰治※ 石川隆二※					3	伊藤　菊一 上村　松生 岡田　益己 鈴木　幸一 吉川　信幸 新貝鉚蔵＊ 一ノ瀬充行＊ 佐藤拓己※＊ 寺内良平○ 西原昌宏○ 小池説夫○ 菅野洋光○	小栗栖太郎＊	木藤新一郎 斎藤　靖史	松浦哲也＊		16
生物環境科学	地域資源経済学	宇野　忠義 神田　健策 澁谷　長生	高橋　秀直	泉谷　眞実 武田　共治			6	岡田　秀二 木村　伸男 玉　真之介		木下　幸雄 柴崎　茂光 山本　信次			6
生物環境科学	地域環境工学	泉　完 工藤　明 佐々木長市 高橋　照夫 谷口　建 万木　正弘 張　樹槐※		藤﨑　浩幸			8	倉島　栄一 古賀　潔 広田　純一 藤井　克己 三輪　弌 武田純一※ 廣間達夫※		小林　幹佳 颯田　尚哉	三宅　諭		10
生物環境科学	地域環境管理学	檜垣　大助		東　信行 萩原　守			3	青井　俊樹 澤口　勇雄 関野　登 橋本　良二 比屋根　哲 井良沢道也※	立川　史郎	國崎　貴嗣	東　淳樹		9
人数計		36	2	16	0	0	54	50	2	25	4	2	83

主指導教員の※印は准教授
○印は客員教員，＊印は工学研究科

山形大学						帯広畜産大学						人数合計						
主指導教員	副指導教員				人数	主指導教員	副指導教員				人数	主指導		副指導				計
	教授	准教授	講師	助教			教授	准教授	講師	助教		教授	准教授	教授	准教授	講師	助教	
安藤　豊 平　智 高樹　英明 西澤　隆 山本　隆儀	藤井　弘志	村山　秀樹			7	堀川　洋		花田　正明			2	12	0	1	13	0	0	26
高橋　敏能 戸津川　清		木村　直子 堀口　健一			4	柏村　文郎 鈴木　三義 福井　豊 桑山秀人※ 手塚雅文※		門平　陸代 木田　克弥 古村　圭子	河合　正人		9	11	3	0	8	2	1	25
生井　恒雄 安田　弘法 我妻　忠雄 俵谷圭太郎					4	筒木　潔 小池正徳※ 谷　昌幸※				橋本　靖	4	10	2	1	4	0	1	18
上木　厚子 上木　勝司 小関卓也※		加来　伸夫			4	後藤　健 小嶋道之※		大和田琢二			3	14	2	0	8	0	1	25
阿部　利德 佐藤英世※		豊増　知伸			3	石井　達 櫛　泰典 三浦　秀穂 加藤清明※					4	9	5	0	3	0	0	17
五十嵐喜治 高橋　孝悦 貫名　学 村山　哲也 夏賀　元康		塩野　義人			6	大西　正男 小田　有二 高澤　俊英 橋本　誠※ 弘中和憲※ 福島　道広		小疇　浩 島田謙一郎	木下　幹朗 中村　正		10	12	6	0	5	2	0	25
後藤三千代 三橋　渉					2	山本　紳朗 日高　智		倉持　勝久			3	16	3	1	3	1	0	24
岩鼻　通明 小沢　亙 菊間　満		金　成学 角田　毅			5	澤田　学 樋口　昭則 仙北谷康※	姜　興起				4	11	1	2	7	0	0	21
大久保　博 粕渕　辰昭 前川　勝朗		安中　武幸 石川　雅也			5	武田　一夫 土谷富士夫 岸本　正※ 佐藤禎稔※ 辻　修※	前多　修二		宗岡　寿美		7	16	6	1	5	2	0	30
小野寺弘道 高橋　教夫 中島　勇喜 野堀　嘉裕	林田　光祐	小山　浩正			6	岩佐　光啓 本江　昭夫 柳川　久※		押田　龍夫 紺野　康夫 平田　昌弘	仲島　義貴		7	12	2	2	7	2	0	25
33	2	11	0	0	46	34	2	11	5	1	53	123	30	8	63	9	3	236

第4章　そ　の　他

1　組　　織

1　設置の趣旨

本研究科は，弘前大学の大学院農学生命科学研究科，岩手大学並びに山形大学の2大学院農学研究科（修士課程）及び帯広畜産大学の大学院畜産学研究科（修士課程）の教員組織，研究設備及び施設の連合により設立された。各大学は，それぞれ教育・研究活動の面において特色を備えている。本研究科の設置の目的は，我が国の北部に位置する各構成大学の特色を生かした教育研究体制を整えることによって，生物生産科学，生物資源科学，生物環境科学に関する先端的・学際的諸研究を推進しようとすることである。これらの研究及びゼミナールを通じて，高度の専門的能力と豊かな学識を備えた研究者・技術者を養成し，我が国の学術研究の進歩と関連産業並びに社会の発展に寄与するものである。また，本研究科は，学術の国際交流を積極的に進める体制を作り，最近著しく増加しつつある外国人留学生の受け入れについて，積極的に応じている。

2　研究科の構成

本研究科には，生物生産科学，生物資源科学，寒冷圏生命システム学，生物環境科学の4専攻，10連合講座が置かれている。生物生産科学専攻は植物生産学，動物生産学，生物制御学の3連合講座から，生物資源科学専攻は生物機能開発学，ゲノム工学，生物資源利用学の3連合講座から，寒冷圏生命システム学は熱・生命システム学の1連合講座から，また生物環境科学専攻は地域資源経済学，地域環境工学，地域環境管理学の3連合講座からなっている。

- 連合農学研究科
  - 生物生産科学専攻
    - 植物生産学連合講座
    - 動物生産学連合講座
    - 生物制御学連合講座
  - 生物資源科学専攻
    - 生物機能開発学連合講座
    - ゲノム工学連合講座
    - 生物資源利用学連合講座
  - 寒冷圏生命システム学専攻
    - 熱・生命システム学連合講座*
  - 生物環境科学専攻
    - 地域資源経済学連合講座
    - 地域環境工学連合講座
    - 地域環境管理学連合講座

＊「連携大学院」

協定先：(財)岩手生物工学研究センター

住　所：岩手県北上市成田22-174-4　　協定締結：平成13年4月1日

協定先：(独)農業・食品産業技術総合研究機構　東北農業研究センター

住　所：盛岡市下厨川字赤平4　　協定締結：平成18年4月2日

3　研究科の基盤組織

本研究科は，弘前大学大学院農学生命科学研究科，岩手大学大学院農学研究科，山形大学大学院農学研究科，帯広畜産大学大学院畜産学研究科（修士課程）及び各大学の附属施設等を基盤として編成されている。各大学の研究科（修士課程）と密接な連携のもとに運営されているが，それぞれの研究科とは別の独立した研究科であり，後期3年のみの博士課程である。

博士課程	岩手大学大学院連合農学研究科			
構成大学	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学
修士課程	大学院農学研究科 （２専攻）	大学院農学生命科学研究科 （４専攻）	大学院農学研究科 （３専攻）	大学院畜産学研究科 （３専攻）
学　　部	農学部 （５課程）	農学生命科学部 （４学科）	農学部 （３学科）	畜産学部 （２学科）

2　予　算　規　模（平成20年度）

⑴　運営費

（千円）

大学名等	示達額	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学	共通経費	合　　計
配分額	220,681	57,688	45,158	32,344	44,029	41,462	220,681

共通経費は，構成大学全体の運営費として設置大学に留め置き執行する。

⑵　ティーチング・アシスタント経費及びリサーチ・アシスタント経費

（千円）

区　　　分	示達額	岩手大学	弘前大学	山形大学	帯広畜産大学
ティーチング・アシスタント	13,810	1,428	2,221	1,111	635
リサーチ・アシスタント		1,456	2,184	1,495	3,276
合　計	13,810	2,884	4,405	2,606	3,911

3　主　な　行　事

年　月　日	曜	審　議　事　項
平成20.　4.　7	月	入学式・新入生オリエンテーション
		第213回連合農学研究科代議員会（ＴＶ会議）
4.　22	火	構成大学教員会議（岩手大学）
4.　24	木	構成大学教員会議（弘前大学）
4.　25	金	構成大学教員会議（山形大学）
5.　1	木	論文博士学位申請受付（９月期）（５月９日まで）
5.　9	金	構成大学教員会議（帯広畜産大学）
5.　16	金	第214回連合農学研究科代議員会
5.　23	金	教員資格審査候補者推薦締切
6.　5	木	全国連合農学研究科協議会（研究科長会議･全体会議）（６日まで）
6.　6	金	岩手連大構成大学研究科長等連絡会
6.　13	金	第215回連合農学研究科代議員会（ＴＶ会議）
6.　19	木	前期連合一般ゼミナール・日本語（農学特別講義Ⅱ）（SCS）（20日まで）
6.　23	月	課程博士学位論文受付（9月期）（７月４日まで）
7.　17	木	点検評価委員会
7.　18	金	第216回連合農学研究科代議員会
		教員資格審査委員会
7.　28	月	平成20年10月入学入学願書受付（８月１日まで）
8.　7	木	第217回連合農学研究科代議員会（メール会議）
8.　27	水	科学コミュニケーション（合宿ゼミ）（岩手大学）（29日まで）
9.　9	火	平成20年10月入学者選抜試験
		入学試験等委員会
		点検評価委員会
9.　10	水	第218回連合農学研究科代議員会
		専攻会議
		ＦＤ講演会
		第49回研究科教授会
9.　17	水	平成20年10月入学合格者発表
9.　30	火	平成20年９月期岩手大学大学院修了式
		平成20年９月期連合農学研究科学位記伝達式
10.　1	水	入学式・新入生オリエンテーション（ＴＶ会議）
10.　10	金	第219回連合農学研究科代議員会（弘前大学）
		点検評価委員会
10.　14	火	論文博士学位申請受付（３月期）（24日まで）
10.　30	木	全国連合農学研究科協議会（研究科長会議）（31日まで）

11. 6	木	研究インターンシップ報告会
11. 7	金	第220回連合農学研究科代議員会 点検評価委員会
11. 25	火	平成21年４月入学入学願書受付（12月１日まで）
11. 26	水	後期連合一般ゼミナール・英語（農学特別講義Ⅱ）（SCS）（28日まで）
12. 3	水	岩手連大構成法人間連絡調整委員会
12. 8	月	課程博士学位論文受付（３月期）（19日まで）
平成21. 1. 9	金	点検評価委員会 第221回連合農学研究科代議員会
2. 12	木	平成21年４月入学者選抜試験 入学試験等委員会
2. 13	金	点検評価委員会 第222回連合農学研究科代議員会 第50回研究科教授会
2. 25	水	平成21年４月入学合格者発表
3. 23	月	平成20年度岩手大学大学院修了式 平成20年度連合農学研究科学位記伝達式

広報編集委員会委員名簿

表紙写真
岩手大学リモート・センシングデータ解析室提供

岩手大学大学院連合農学研究科年報
The United Graduate School
of Agricultual Sciences, Iwate University
(doctoral course)

第11号　　平成22年10月　発行

〈編集〉岩手大学大学院連合農学研究科
〒020-8550　盛岡市上田三丁目18-8
電話（019）621-6247
FAX（019）621-6248
Eメール　rendai@iwate-u.ac.jp
ホームページ　http://ugas.agr.iwate-u.ac.jp/

UGAS

H O

Y I